

第2章

救急活動統計

第1節 救急出場件数

第2節 救護人員

第3節 救急処置

第4節 事故種別ごとの活動統計



第1節 救急出場件数

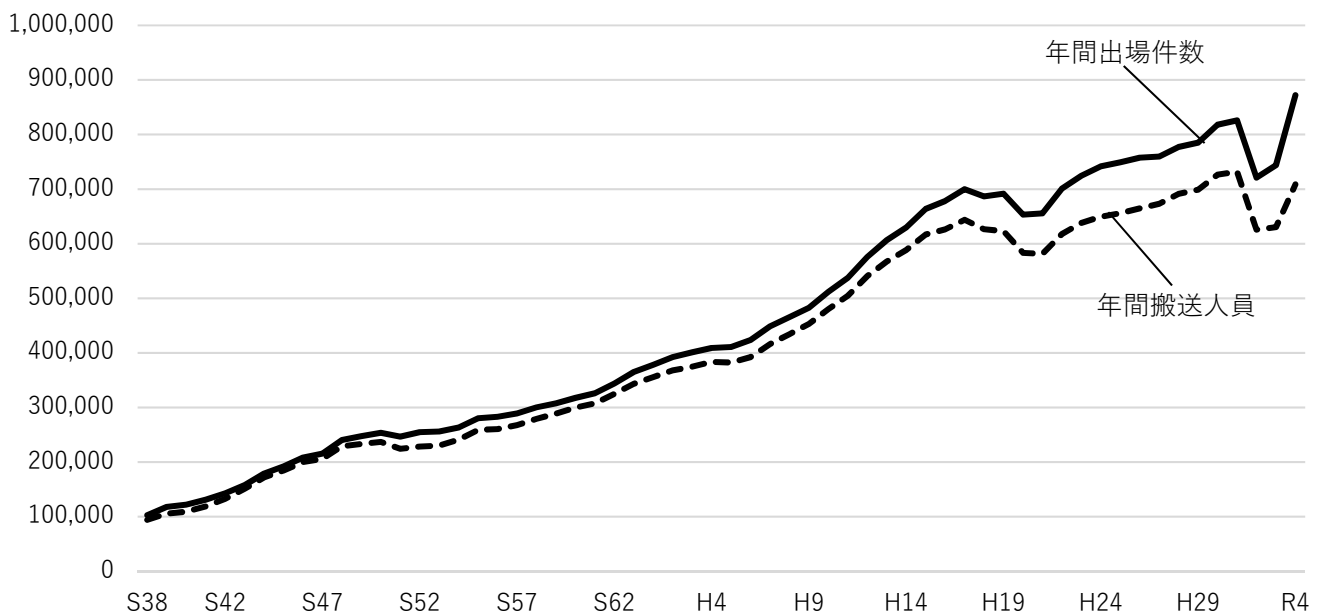
1 救急業務法制化以降の推移

(1) 出場件数・搬送人員・救急隊数の推移

救急出場件数は、救急業務が法制化された昭和38年(1963年)の102,660件から令和4年(2022年)には872,075件となり、59年間で約8.5倍の増加となっています。

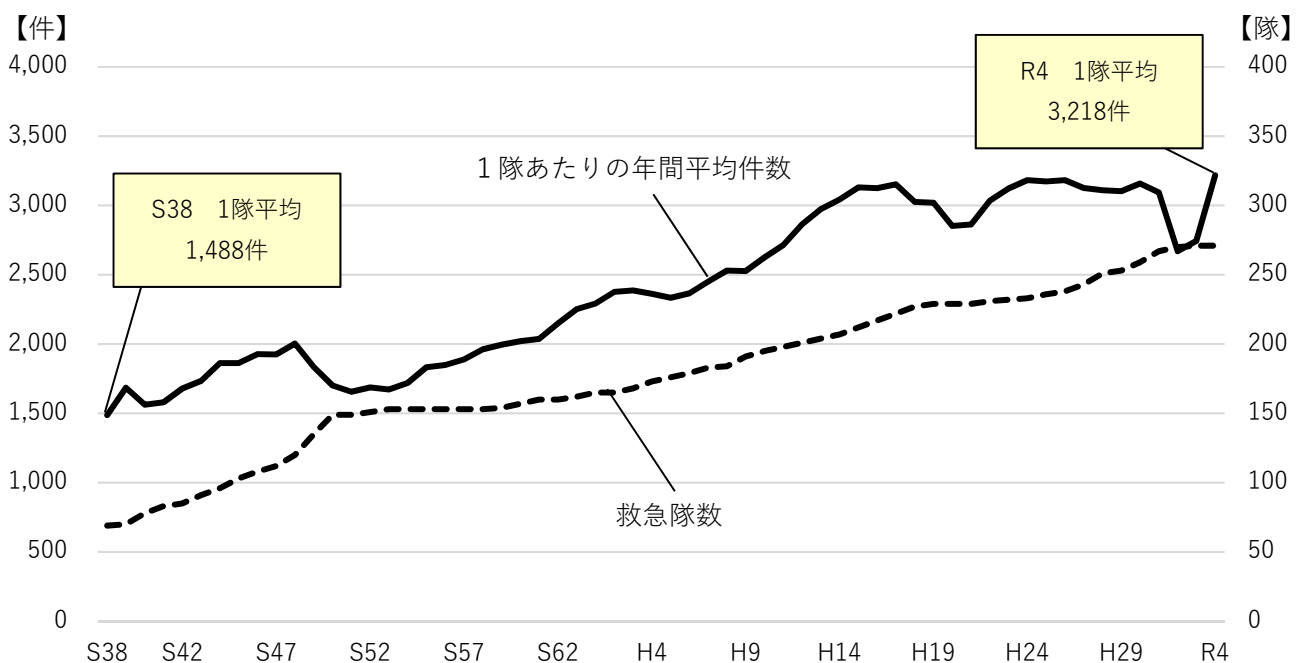
同じく救急隊数の推移は、69隊から271隊と約3.9倍の増加で、1隊あたりの年間平均出場件数は1,488件から3,218件と約2.2倍の増加となっています。

図表 2-1-1 救急業務法制化以降の救急出場件数・搬送人員の推移



S38～S50は搬送人員のデータがないため「救護人員」として扱っています。

図表 2-1-2 救急隊数及び1隊あたり年間平均出場件数の推移



図表 2-1-3 救急出場件数等の推移（年次別）

年次	出場件数	搬送人員	隊数	年次	出場件数	搬送人員	隊数
昭和 11 年	1,022	837	6	昭和 55 年	280,395	258,860	153
昭和 12 年	1,736	1,307	6	昭和 56 年	282,886	260,399	153
昭和 13 年	1,937	1,528	6	昭和 57 年	289,090	267,804	153
昭和 14 年	2,206	1,922	6	昭和 58 年	300,299	279,163	153
昭和 15 年	2,161	1,834	6	昭和 59 年	307,420	288,735	154
昭和 16 年	2,208	1,787	6	昭和 60 年	317,375	299,590	157
昭和 17 年	1,330	1,298	7	昭和 61 年	325,931	307,560	160
昭和 18 年	1,220	1,185	7	昭和 62 年	343,951	324,981	160
昭和 19 年	962	881	7	昭和 63 年	364,902	343,312	162
昭和 20 年	245	239	3	平成元年	378,205	355,654	165
昭和 21 年	1,231	1,199	18	平成 2 年	392,200	367,848	165
昭和 22 年	2,897	2,660	19	平成 3 年	401,104	374,616	168
昭和 23 年	3,089	2,722	17	平成 4 年	408,864	383,550	173
昭和 24 年	3,967	3,608	17	平成 5 年	410,828	382,410	176
昭和 25 年	7,846	7,534	19	平成 6 年	423,584	392,423	179
昭和 26 年	10,108	9,267	23	平成 7 年	448,450	416,173	183
昭和 27 年	10,747	9,684	23	平成 8 年	465,548	434,206	184
昭和 28 年	12,475	10,985	25	平成 9 年	482,612	453,004	191
昭和 29 年	15,665	13,465	25	平成 10 年	511,892	480,139	195
昭和 30 年	19,159	16,075	25	平成 11 年	537,416	504,675	198
昭和 31 年	25,320	21,350	25	平成 12 年	575,690	540,660	201
昭和 32 年	33,478	28,691	30	平成 13 年	606,695	567,451	204
昭和 33 年	44,120	37,882	39	平成 14 年	629,883	588,502	207
昭和 34 年	54,968	47,459	49	平成 15 年	663,765	616,996	212
昭和 35 年	70,206	62,905	57	平成 16 年	678,178	626,231	217
昭和 36 年	80,468	73,088	62	平成 17 年	699,971	643,849	222
昭和 37 年	87,432	80,568	66	平成 18 年	686,801	626,543	227
昭和 38 年	102,660	94,095	69	平成 19 年	691,549	623,012	229
昭和 39 年	117,948	105,439	70	平成 20 年	653,260	583,082	229
昭和 40 年	121,865	108,974	78	平成 21 年	655,631	581,358	229
昭和 41 年	131,160	118,774	83	平成 22 年	700,981	617,819	231
昭和 42 年	142,710	132,368	85	平成 23 年	724,436	638,093	232
昭和 43 年	157,832	150,972	91	平成 24 年	741,702	649,429	233
昭和 44 年	178,828	171,937	96	平成 25 年	749,032	655,925	236
昭和 45 年	191,890	184,420	103	平成 26 年	757,554	664,629	238
昭和 46 年	208,155	199,965	108	平成 27 年	759,802	673,145	243
昭和 47 年	215,621	205,896	112	平成 28 年	777,382	691,423	251
昭和 48 年	240,419	229,059	120	平成 29 年	785,184	698,928	253
昭和 49 年	247,559	232,993	135	平成 30 年	818,062	726,428	259
昭和 50 年	253,476	236,859	149	令和元年	825,929	731,900	267
昭和 51 年	246,682	224,291	149	令和 2 年	720,965	625,639	270
昭和 52 年	254,709	228,289	151	令和 3 年	743,703	630,287	271
昭和 53 年	255,853	230,109	153	令和 4 年	872,075	708,695	271
昭和 54 年	263,141	240,936	153	総数	28,019,893	25,422,462	-

※ 昭和 11 年～昭和 50 年は搬送人員のデータがないため救護人員としています。

※ 隊数は各年 12 月 31 日現在の数を示しています。

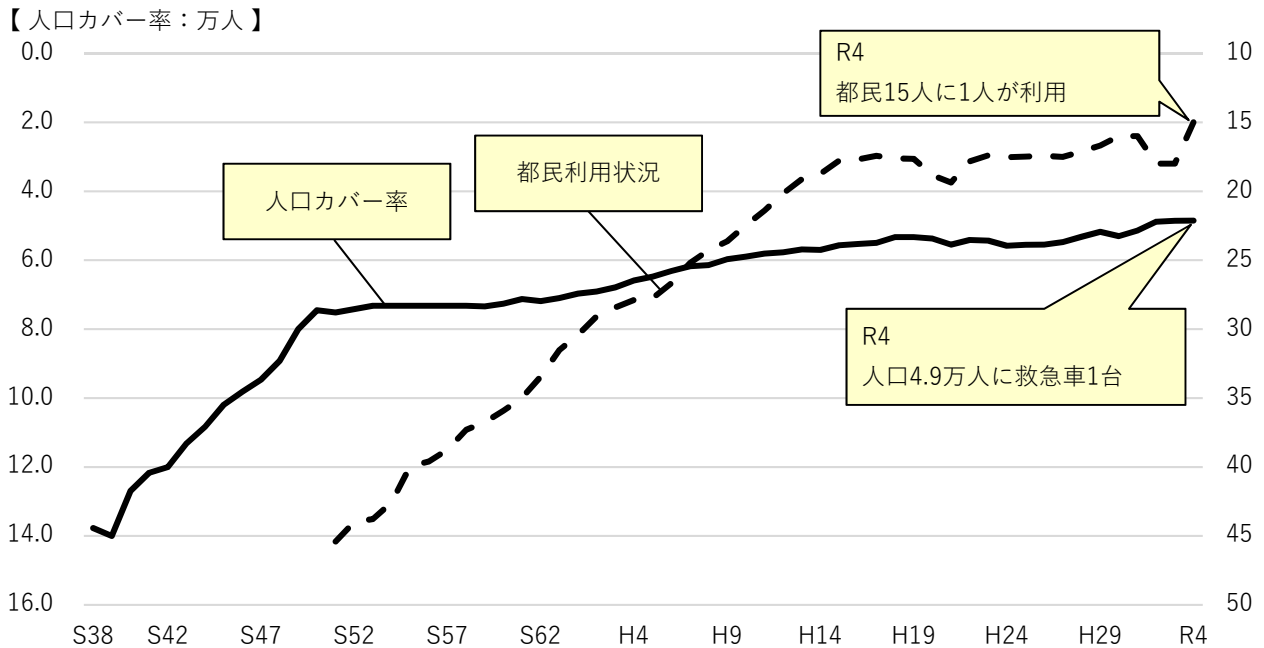
(2) 救急隊1隊あたりの人口カバー率と救急車利用状況の推移

救急隊1隊がカバーする人口割合（人口カバー率）は、昭和52年当時は人口約7.5万人に1隊でしたが、令和4年には約4.9万人に1隊となりました。

一方、同年での比較における都民の救急車の利用状況は、都民45人に1人の利用であったものが、15人に1人の利用となっています。

これは、都民の救急車利用頻度の上昇が救急隊の人口カバー率の上昇を上回っていることを示しています。

図表 2-1-4 救急隊1隊あたりの人口カバー率と都民の救急車利用状況の推移



※ 都民の救急車利用状況のデータについては、昭和51年以降のデータを表示しています。

2 過去5年間の推移

平成30年から令和4年までの、過去5年の東京消防庁の救急出場件数の推移及び令和3年中における全国の出場件数は次のとおりです（令和4年4月1日現在、全国救急隊数5,328隊、救急車台数（非常用含む）6,549台）。

図表 2-1-5 過去5年間の救急出場件数等の推移

区分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	全国※
出場件数	818,062	825,929	720,965	743,703	872,075	6,193,581
対前年増減数 (件)	+ 32,878	+ 7,867	- 104,964	+ 22,738	+ 128,372	+ 260,304
対前年増減率 (%)	+ 4.2%	+ 1.0%	- 12.7%	+ 3.2%	+ 17.3%	+ 4.4%
1日平均件数	2,241	2,263	1,970	2,038	2,389	16,969
1隊あたり平均件数	3,159	3,093	2,670	2,744	3,218	
1隊1日平均件数	8.7	8.5	7.3	7.5	8.8	
都民（国民）の利用状況 (何人に1人の割合)	16人	16人	18人	18人	15人	23
出場頻度 (何秒に1回の割合)	39秒	38秒	44秒	42秒	36秒	5秒
人口1万人あたりの件数	600	602	547	565	663	494

※ 全国の数値は令和3年中のものです。

3 日別最多出場件数

令和4年中、日別救急出場件数で最も多かったのは令和4年7月1日の3,274件でした。過去を含めた日別出場件数は以下のとおりです。

図表 2-1-6 日別出場件数上位10日

順位	年月日	件数
1	平成30年7月23日	3,382
2	令和4年7月1日	3,274
3	令和4年7月2日	3,188
4	令和4年6月30日	3,150
5	令和4年1月7日	3,140
6	平成30年7月22日	3,124
7	平成30年7月21日	3,092
8	令和4年6月29日	3,082
9	令和4年7月19日	3,069
10	令和4年7月18日	3,064

4 救急隊別出場件数の推移

令和4年中、1隊あたりの最多出場件数は、大久保救急隊の4,180件でした。

また、出場件数3,000件を超えた救急隊は、全隊数の79.0%にあたる214隊でした。

図表 2-1-7 救急隊別出場件数上位10隊の推移

順位	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年	
	1	大久保	4,364	大久保	4,438	大久保	3,650	大久保	3,683	大久保
2	芝	4,118	芝	4,116	八王子第1	3,599	八王子第1	3,644	江戸川第1	4,131
3	豊島	4,006	池袋	3,906	大島	3,595	江戸川第1	3,487	八王子第1	3,944
4	王子	3,941	大島	3,882	江戸川第1	3,496	王子	3,423	野方第1	3,899
5	池袋	3,900	練馬	3,881	八王子第2	3,423	八王子第2	3,420	豊島	3,822
6	麻布	3,886	三田	3,878	江戸川第2	3,354	野方第1	3,332	麻布	3,805
7	志村坂上	3,876	赤羽台	3,877	淵江	3,343	江戸川第2	3,325	世田谷	3,803
8	本郷	3,872	江戸川第1	3,854	板橋	3,303	淵江	3,277	八王子第2	3,801
9	日本橋	3,850	八王子第1	3,827	練馬	3,296	葛西第1	3,267	葛西第1	3,801
10	練馬	3,826	志村坂上	3,819	立花	3,270	大島	3,249	三田	3,791
3,000件以上の隊	184隊		52隊		52隊		63隊		214隊	
全隊数※	267隊		270隊		270隊		271隊		271隊	
割合	68.9%		68.9%		19.3%		23.2%		79.0%	

※ 各年12月31日現在

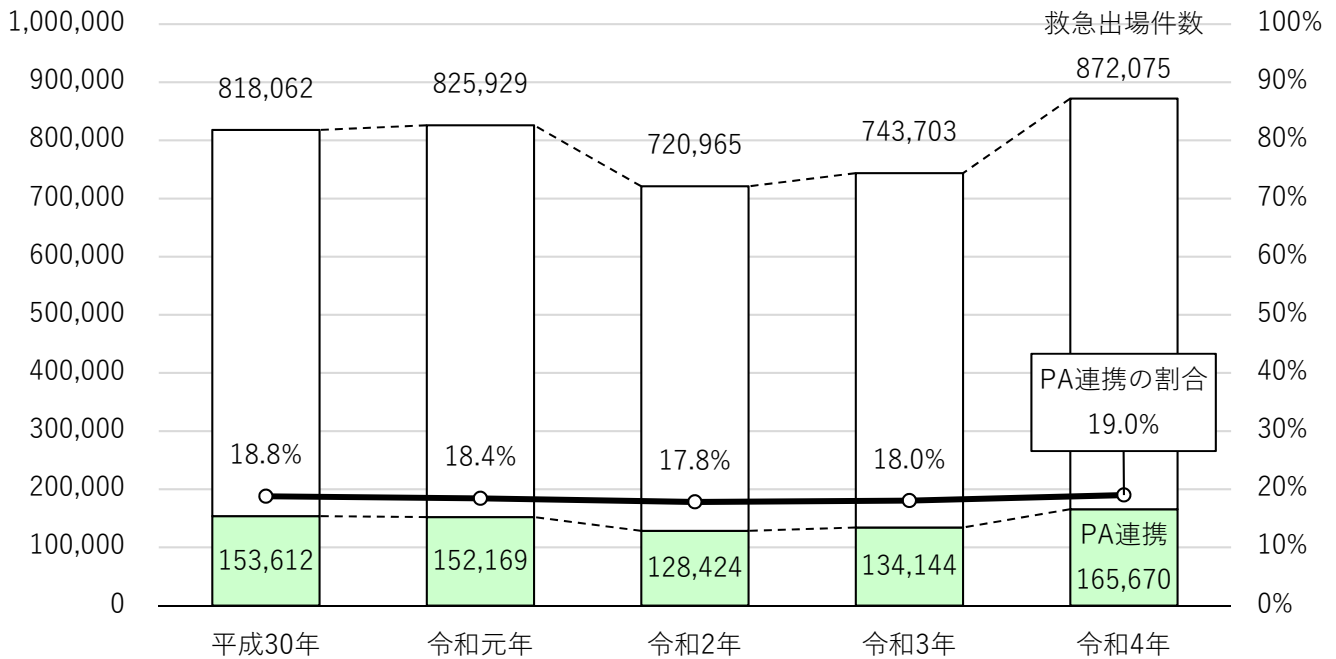
図表 2-1-8 救急隊別出場件数

隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数
本庁計	12,944	玉川	3,467	赤羽台	3,474	立花	3,418	国領	2,783
本部機動第5	4	奥沢	3,160	滝野川	3,297	深川	3,702	小金井	3,204
本部機動第2	3,386	用賀	3,366	三軒家	3,134	有明	2,653	緑町	2,932
本部機動第1	3,450	玉川新町	3,415	田端	3,368	枝川	3,247	小平	3,126
本部機動第3	3,157	成城	3,030	10方面計	65,486	豊洲	3,144	小川	3,067
本部機動第4	2,946	千歳第1	3,180	板橋	3,301	森下	3,355	花小金井	3,045
本部機動第6	1	千歳第2	3,159	板橋デｲﾀｲム	913	城東第1	3,749	東村山	3,209
1方面計	51,579	烏山	2,991	常盤台	3,566	城東第2	3,533	秋津	2,810
丸の内	3,399	渋谷第1	3,456	小茂根	3,234	東砂	3,547	本町	3,299
永田町	3,433	渋谷第2	3,316	志村	3,506	大島	3,465	国分寺	3,217
神田	3,708	恵比寿	3,396	蓮根	3,647	砂町	3,003	戸倉	3,124
三崎町	3,353	松涛	3,369	赤塚	3,276	本田第1	3,406	狛江	2,972
京橋	3,504	代々木	3,268	志村坂上	3,652	本田第2	3,081	猪方	2,516
銀座	3,441	富ヶ谷	3,024	高島平第1	3,287	南綾瀬	3,066	北多摩西部	3,481
日本橋	3,549	原宿	2,971	高島平第2	3,162	青戸	3,192	武蔵村山	2,822
浜町	3,330	4方面計	92,770	練馬	3,636	奥戸	3,194	東大和	3,179
月島	3,241	四谷	3,562	平和台	3,193	金町	3,035	清瀬	2,648
芝	3,651	新宿御苑第1	3,616	貫井	3,380	金町デｲﾀｲム	877	竹丘	2,914
三田	3,791	新宿御苑第2	3,532	光が丘	3,560	亀有	2,937	東久留米	2,859
麻布	3,805	牛込	3,461	光が丘デｲﾀｲム	220	柴又	2,611	新川	2,396
赤坂	3,298	新宿第1	3,696	北町	3,331	水元	3,069	西東京	3,114
高輪	3,393	新宿第2	3,393	石神井	3,588	江戸川第1	4,131	田無	3,143
港南	2,683	落合	3,669	石神井デｲﾀｲム	211	江戸川第2	3,745	西原	3,170
2方面計	66,894	戸塚	3,676	関町	3,057	小松川	3,400	保谷	2,681
2本部特殊	1	大久保	4,180	大泉	3,202	瑞江	3,187	9方面計	96,126
2本部機動	338	西新宿第1	3,729	大泉学園	3,225	葛西第1	3,801	9本部機動	1,733
品川	3,308	西新宿第2	3,506	石神井公園	3,339	葛西第2	3,587	八王子第1	3,944
大崎	3,307	中野	3,369	6方面計	79,062	船堀	3,410	八王子第2	3,801
五反田	2,816	宮園	3,251	6本部機動	418	南葛西	3,146	檜原	3,038
大井	3,432	東中野	3,249	上野	3,593	小岩	3,134	元八王子	3,071
滝王子	3,095	野方第1	3,899	下谷	3,067	篠崎	2,811	小宮	3,296
八潮	2,577	野方第2	3,572	谷中	3,029	南小岩	3,184	浅川	2,971
荏原	3,358	鷺宮	3,366	浅草	3,350	北小岩	2,850	浅川特殊救急(小型)	64
荏原デｲﾀｲム	812	杉並	3,258	浅草橋	3,363	8方面計	141,094	北野	3,232
旗の台	3,124	永福	3,159	日本堤	3,470	8本部機動	245	由木	3,137
大森	3,137	堀ノ内	3,286	今戸	3,095	立川	3,032	みなみ野	2,740
馬込	2,952	阿佐ヶ谷	3,328	荒川	3,459	錦町第1	3,418	青梅	2,948
市野倉	3,167	高円寺	3,241	南千住	3,032	錦町第2	3,205	日向和田	2,092
山谷	3,152	高井戸	3,126	尾久	3,220	国立	3,082	長淵	2,477
森ノ崎	2,647	荻窪	3,407	尾竹橋	3,169	砂川	2,981	町田第1	3,595
田園調布	3,316	荻窪デｲﾀｲム	216	千住第1	3,114	武蔵野	2,941	町田第2	3,239
久が原	3,105	西荻	2,996	千住第2	3,074	武蔵境	2,806	忠生	3,175
蒲田	3,487	久我山	2,998	足立第1	3,448	吉祥寺	2,774	南	3,118
羽田	3,026	下井草	3,029	足立第2	3,372	三鷹	3,153	鶴川	3,028
羽港	811	5方面計	62,656	綾瀬	3,335	三鷹第2	2,772	西町田	2,620
矢口	3,089	小石川	3,380	淵江	3,595	下連雀	2,812	成瀬	3,240
下丸子	3,054	大塚	3,382	大谷田	3,183	大沢	2,892	日野	3,031
西蒲田	3,176	本郷	3,488	神明	3,239	牟礼	156	豊田	2,958
西六郷	2,607	根津	3,174	西新井	3,373	府中	3,272	高幡	3,012
3方面計	80,669	豊島	3,822	西新井デｲﾀｲム	192	分梅	3,063	福生	2,742
目黒第1	3,427	巣鴨	3,516	大師前	3,327	朝日	2,644	羽村	3,084
目黒第2	3,045	目白	3,368	上沼田	3,425	朝日特殊	5	瑞穂	2,582
碑文谷	3,156	池袋	3,498	本木	3,268	是政	2,719	熊川	2,747
大岡山	2,965	池袋デｲﾀｲム	956	舎人	2,852	栄町	3,228	多摩	3,381
世田谷	3,803	長崎	3,459	7方面計	122,112	昭島	2,987	多摩セﾀﾞ-第1	3,212
宮の坂	2,957	高松	3,376	本所	3,437	昭和	3,072	多摩セﾀﾞ-第2	3,036
松原第1	3,115	王子	3,711	緑	3,284	大神	3,057	秋川	2,188
松原第2	3,064	十条	3,514	東駒形	3,174	調布第1	3,164	秋留台	2,281
三宿	3,471	赤羽	3,389	向島	3,367	調布第2	2,961	檜原	817
上北沢	3,098	西が丘	3,350	墨田	3,180	つつじヶ丘	2,942	奥多摩	496

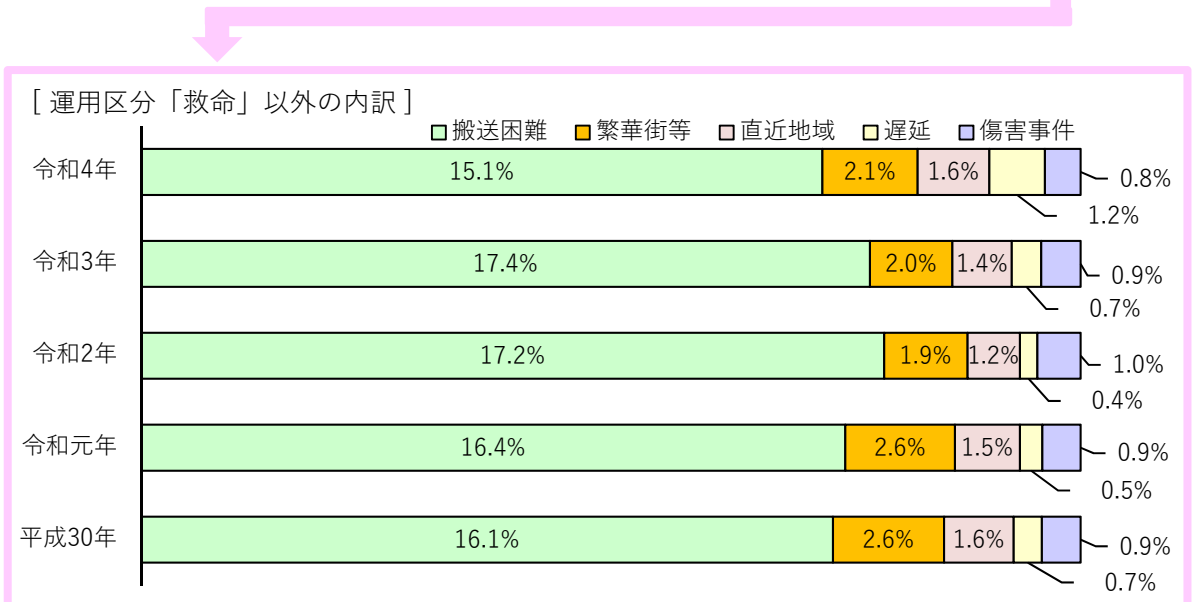
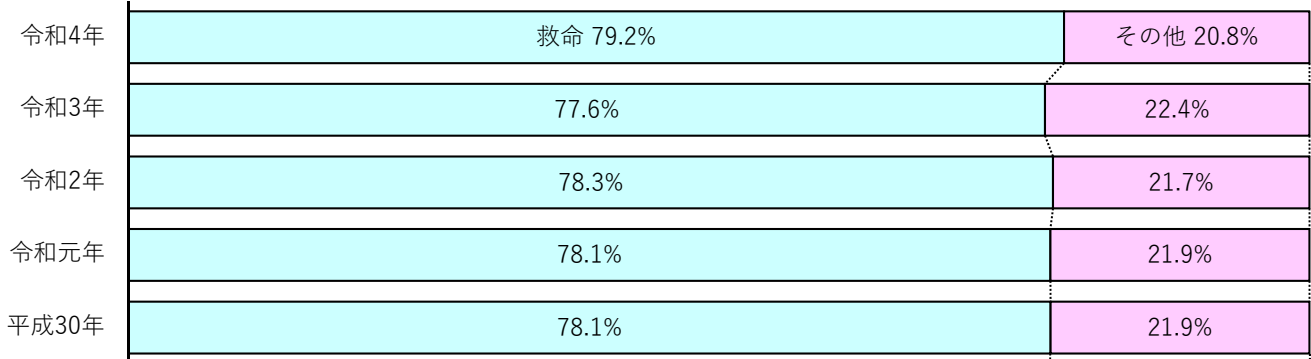
5 PA連携と救急出場件数

過去5年の推移をみると、救急出場件数に占めるPA連携件数の割合は、ほぼ横ばいです。運用区分別では「救命」が79.2%を占め、次いで「搬送困難」の割合が多くなっています。

図表 2-1-9 PA連携活動の件数及び救急出場件数に占める割合の推移



図表 2-1-10 PA連携活動運用区分別構成比率の推移



図表 2-1-11 所属別 PA 連携活動件数

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA 連携 の割合
丸の内	512	63	5	1	8	1	590	3,714	15.9%
麹町	449	95	8	-	14	4	570	3,510	16.2%
神田	725	130	15	9	45	-	924	5,361	17.2%
京橋	728	185	10	1	9	2	935	6,038	15.5%
日本橋	574	122	4	-	12	-	712	4,543	15.7%
臨港	525	62	9	-	12	5	613	3,751	16.3%
芝	1,183	156	14	2	6	6	1,367	8,427	16.2%
麻布	771	178	26	235	55	81	1,346	5,214	25.8%
赤坂	556	298	18	51	85	1	1,009	4,265	23.7%
高輪	741	414	14	74	249	16	1,508	5,032	30.0%
品川	1,190	220	11	-	10	6	1,437	9,023	15.9%
大井	870	122	13	-	17	14	1,036	6,837	15.2%
荏原	1,100	320	10	-	12	3	1,445	8,069	17.9%
大森	1,761	321	11	38	51	22	2,204	13,298	16.6%
田園調布	1,323	358	6	4	25	9	1,725	9,928	17.4%
蒲田	1,860	286	17	-	34	18	2,215	12,047	18.4%
矢口	1,136	207	19	1	20	17	1,400	8,167	17.1%
目黒	2,204	487	26	-	12	16	2,745	15,550	17.7%
世田谷	2,998	803	21	108	36	50	4,016	22,323	18.0%
玉川	1,699	494	11	-	15	26	2,245	11,518	19.5%
成城	2,288	414	11	-	14	18	2,745	14,733	18.6%
渋谷	2,735	702	53	373	50	27	3,940	21,016	18.7%
四谷	671	158	14	57	82	3	985	4,890	20.1%
牛込	937	263	11	1	6	5	1,223	7,260	16.8%
新宿	3,261	443	128	1,668	82	21	5,603	24,013	23.3%
中野	1,336	330	8	2	16	1	1,693	9,423	18.0%
野方	1,578	325	6	1	15	12	1,937	10,504	18.4%
杉並	2,707	646	26	-	44	27	3,450	17,717	19.5%
荻窪	1,953	436	20	36	157	32	2,634	12,411	21.2%
小石川	939	192	15	-	20	1	1,167	6,996	16.7%
本郷	728	181	18	64	74	9	1,074	6,785	15.8%
豊島	1,651	290	27	3	16	25	2,012	11,916	16.9%
池袋	1,458	224	14	-	3	4	1,703	10,216	16.7%
王子	1,217	186	9	1	16	5	1,434	8,416	17.0%
赤羽	1,573	198	14	18	49	36	1,888	10,007	18.9%
滝野川	898	183	5	-	8	4	1,098	5,943	18.5%
板橋	1,778	315	16	-	16	9	2,134	13,356	16.0%
志村	3,462	598	34	-	30	76	4,200	22,794	18.4%
練馬	2,117	381	6	-	8	15	2,527	13,758	18.4%
光が丘	1,490	225	8	-	52	42	1,817	10,203	17.8%
石神井	3,078	452	18	-	59	75	3,682	17,111	21.5%

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA 連携 の割合
上野	1,162	338	30	298	36	11	1,875	8,595	21.8%
浅草	540	144	7	1	12	2	706	3,709	19.0%
日本堤	940	289	17	3	23	14	1,286	6,954	18.5%
荒川	1,311	298	12	-	18	4	1,643	8,928	18.4%
尾久	751	274	12	1	42	9	1,089	5,548	19.6%
千住	1,258	190	7	10	164	1	1,630	7,532	21.6%
足立	4,063	539	28	-	39	30	4,699	25,799	18.2%
西新井	2,571	309	22	-	29	58	2,989	16,726	17.9%
本所	1,317	375	27	3	67	12	1,801	9,777	18.4%
向島	1,152	352	12	-	15	12	1,543	9,337	16.5%
深川	2,188	356	16	2	36	9	2,607	15,956	16.3%
城東	2,204	380	19	-	68	53	2,724	16,115	16.9%
本田	2,735	553	28	51	32	28	3,427	19,647	17.4%
金町	1,880	264	16	-	30	55	2,245	11,411	19.7%
江戸川	2,209	318	15	-	42	41	2,625	14,492	18.1%
葛西	2,308	136	18	-	15	33	2,510	13,992	17.9%
小岩	2,201	390	12	131	41	40	2,815	12,980	21.7%
立川	2,730	573	19	-	15	23	3,360	17,403	19.3%
武蔵野	1,228	241	11	-	9	12	1,501	8,737	17.2%
三鷹	1,465	282	11	-	11	16	1,785	10,031	17.8%
府中	2,394	351	11	-	15	23	2,794	13,837	20.2%
昭島	1,096	218	10	-	10	10	1,344	6,832	19.7%
調布	1,987	317	9	-	14	25	2,352	12,690	18.5%
小金井	844	158	7	-	16	8	1,033	6,025	17.1%
小平	1,731	258	10	-	7	15	2,021	10,969	18.4%
東村山	1,578	246	11	-	16	33	1,884	9,933	19.0%
国分寺	1,028	176	5	-	4	5	1,218	6,203	19.6%
狛江	736	178	-	-	2	9	925	4,299	21.5%
北多摩西部	1,528	242	8	-	4	18	1,800	9,472	19.0%
清瀬	792	118	10	-	15	39	974	4,751	20.5%
東久留米	1,186	242	3	-	37	22	1,490	7,252	20.5%
西東京	1,737	332	18	3	16	14	2,120	11,496	18.4%
八王子	5,980	1,024	42	210	54	136	7,446	34,139	21.8%
青梅	1,368	163	8	-	10	38	1,587	7,131	22.3%
町田	4,579	716	48	-	36	283	5,662	24,628	23.0%
日野	1,484	411	8	-	49	55	2,007	9,445	21.2%
福生	1,447	258	21	32	9	22	1,789	8,409	21.3%
多摩	1,528	283	13	-	21	62	1,907	8,722	21.9%
秋川	1,131	191	3	-	4	10	1,339	5,285	25.3%
奥多摩	90	36	1	-	-	3	130	556	23.4%
計	131,217	24,982	1,314	3,493	2,627	2,037	165,670	871,826	19.0%

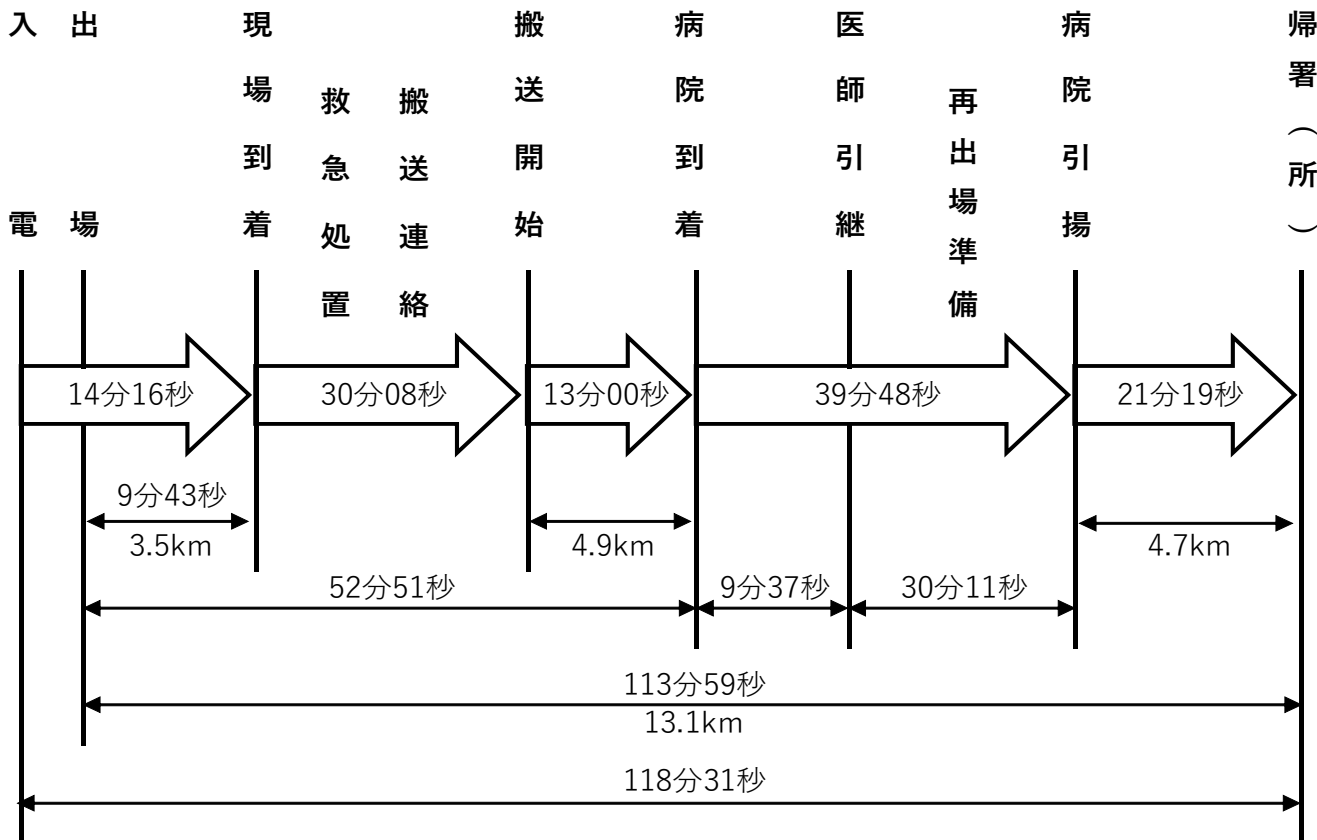
※ 本表において、PA 連携活動及び救急出場の件数に東京消防庁管外への出場は含まれません。

※ PA 連携の割合 = PA 連携活動件数 / 管内救急出場件数

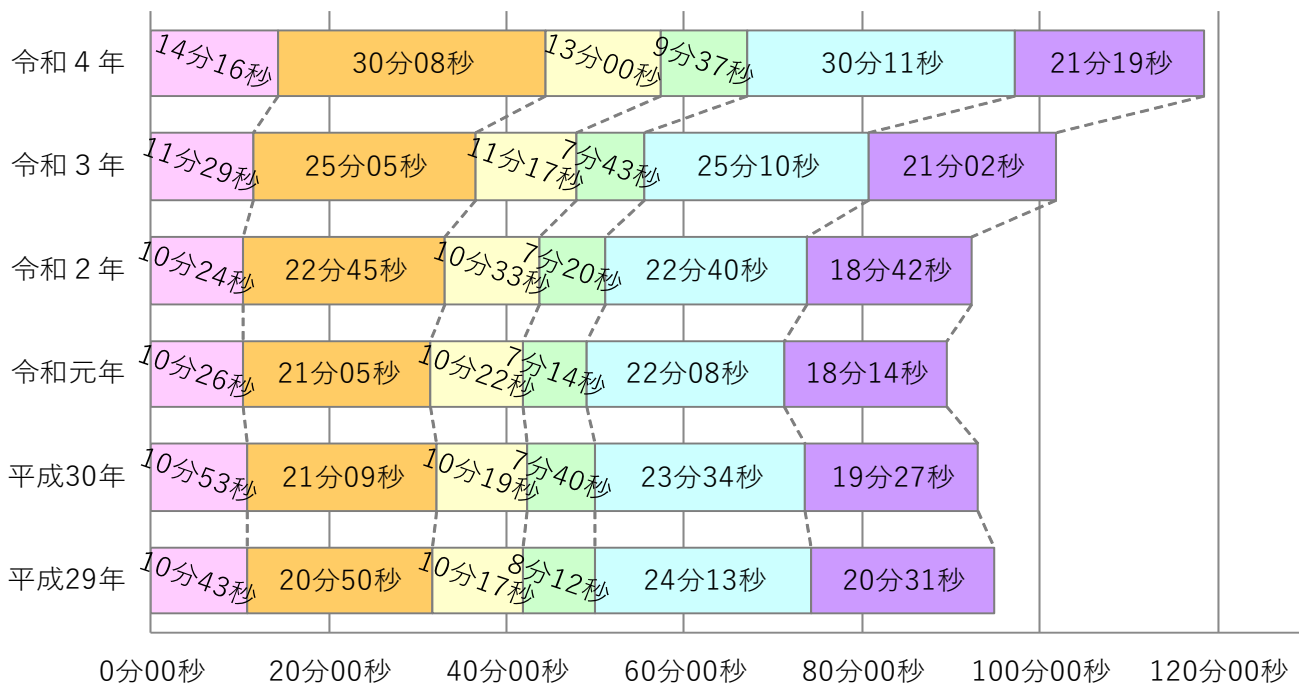
6 活動時間・距離

令和4年中の入電してから救急隊が帰署（所）するまでの救急活動平均所要時間は118分31秒で、出場してから帰署（所）するまでの平均走行距離は13.1kmです。

図表 2-1-12 救急活動時間と走行距離



■ 入電～現着 ■ 現着～現発 ■ 現発～病着 ■ 病着～引継 ■ 引継～病院引揚 ■ 病院引揚～帰署



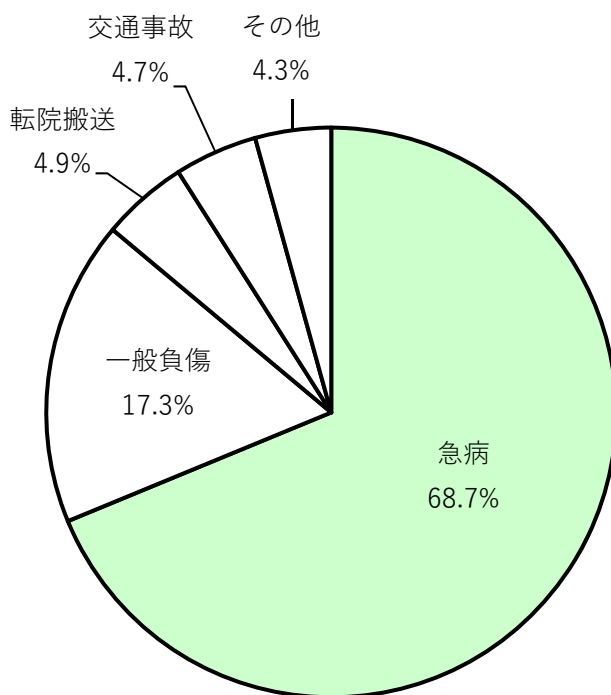
※ それぞれの数値は計算により四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

7 事故種別ごとの出場件数

全出場件数のうち、事故種別が「急病」の事案が最も多く、68.7%を占めています。

図表 2-1-13 事故種別ごとの出場件数

合計	872,075	100.0%
急病	599,469	68.7%
一般負傷	150,587	17.3%
転院搬送	42,990	4.9%
交通事故	41,101	4.7%
その他	37,928	4.3%
自損行為	6,664	0.8%
加害	5,257	0.6%
労働災害事故	5,241	0.6%
運動競技事故	4,616	0.5%
火災事故	3,354	0.4%
資器材等輸送	712	0.1%
水難事故	565	0.1%
医師搬送	181	0.0%
自然災害事故	8	0.0%
その他（上記以外）	11,330	1.3%



8 不搬送件数

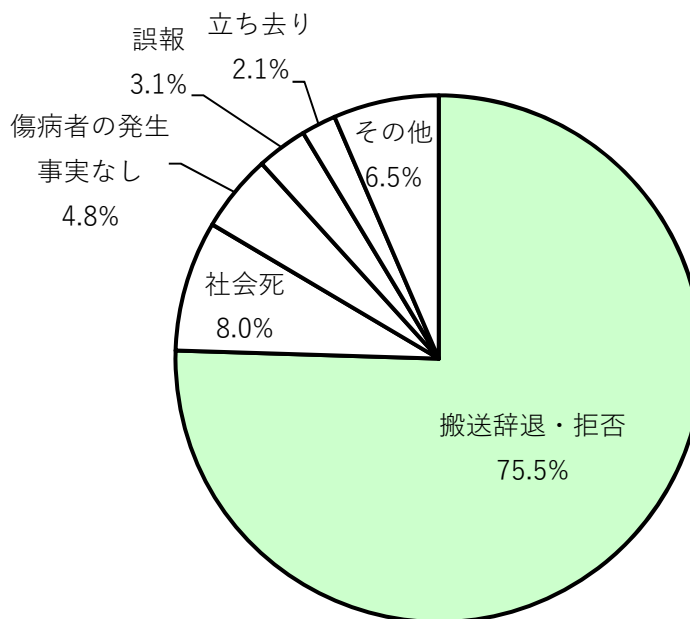
出場件数のうち 19.0%が不搬送であり、その内「搬送辞退・拒否」が 75.5%を占めています。

図表 2-1-14 不搬送件数の内訳

合計	872,075	100.0%
搬送件数	705,996	81.0%
不搬送件数	166,079	19.0%

(不搬送の内訳)

搬送辞退・拒否	125,377	75.5%
社会死	13,318	8.0%
傷病者の発生事実なし	7,892	4.8%
誤報	5,191	3.1%
立ち去り	3,542	2.1%
その他	10,759	6.5%

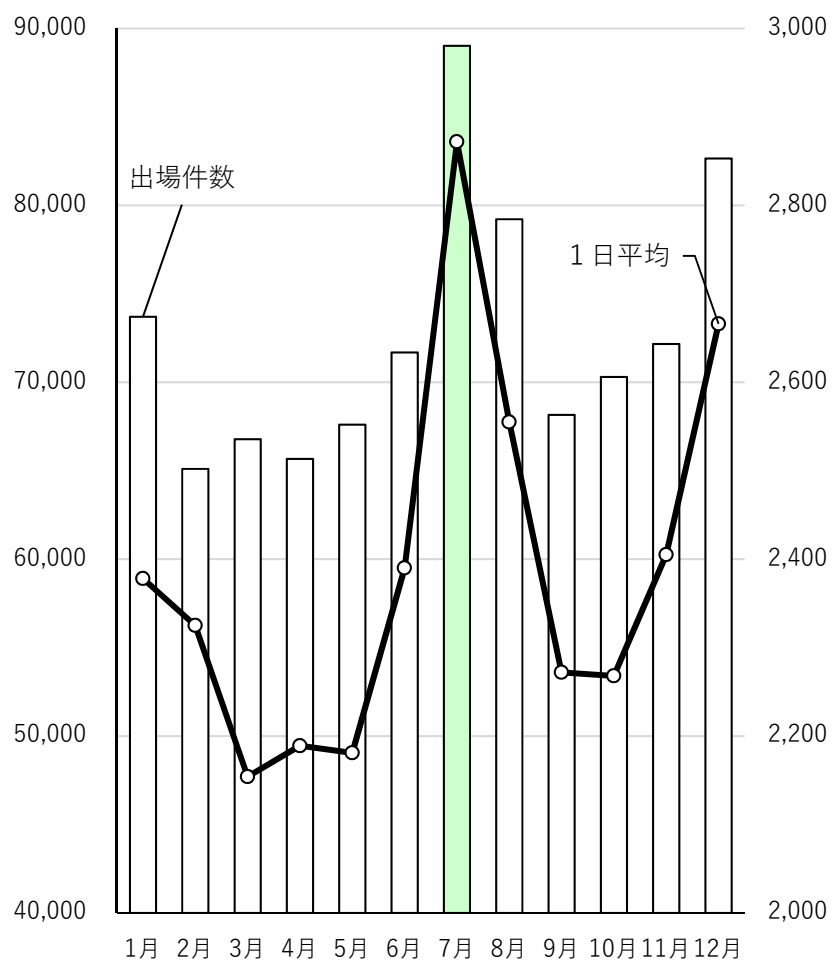


9 月別・曜日別出場件数

月別の1日平均では7月が、曜日別の1日平均では月曜日が高い割合を占めています。

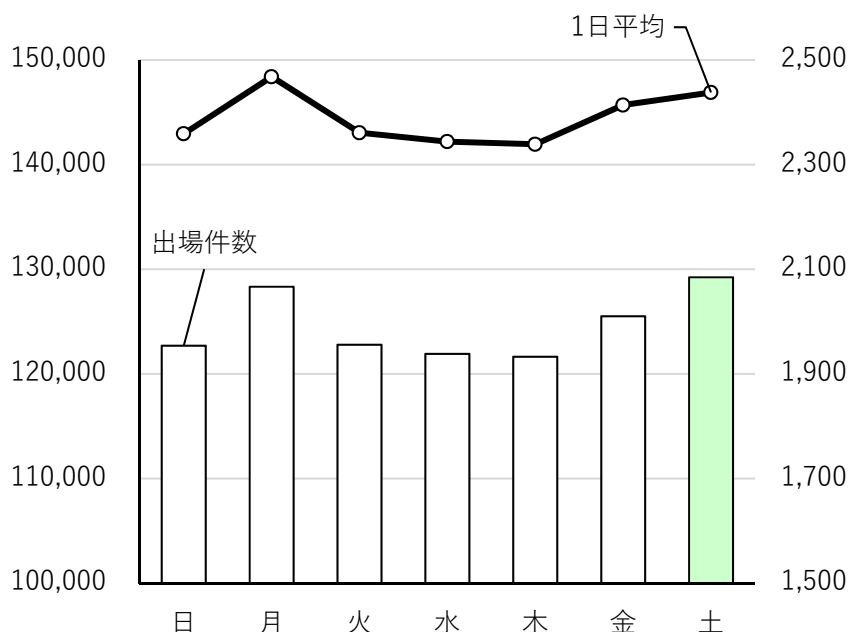
図表 2-1-15 月別出場件数

月	出場件数	1日平均
1月	73,706	2,378
2月	65,103	2,325
3月	66,783	2,154
4月	65,673	2,189
5月	67,601	2,181
6月	71,688	2,390
7月	89,026	2,872
8月	79,219	2,555
9月	68,160	2,272
10月	70,298	2,268
11月	72,163	2,405
12月	82,655	2,666
合計	872,075	2,389



図表 2-1-16 曜日別出場件数

曜日	出場件数	1日平均
日	122,685	2,359
月	128,328	2,468
火	122,778	2,361
水	121,909	2,344
木	121,639	2,339
金	125,503	2,414
土	129,233	2,438
合計	872,075	2,389

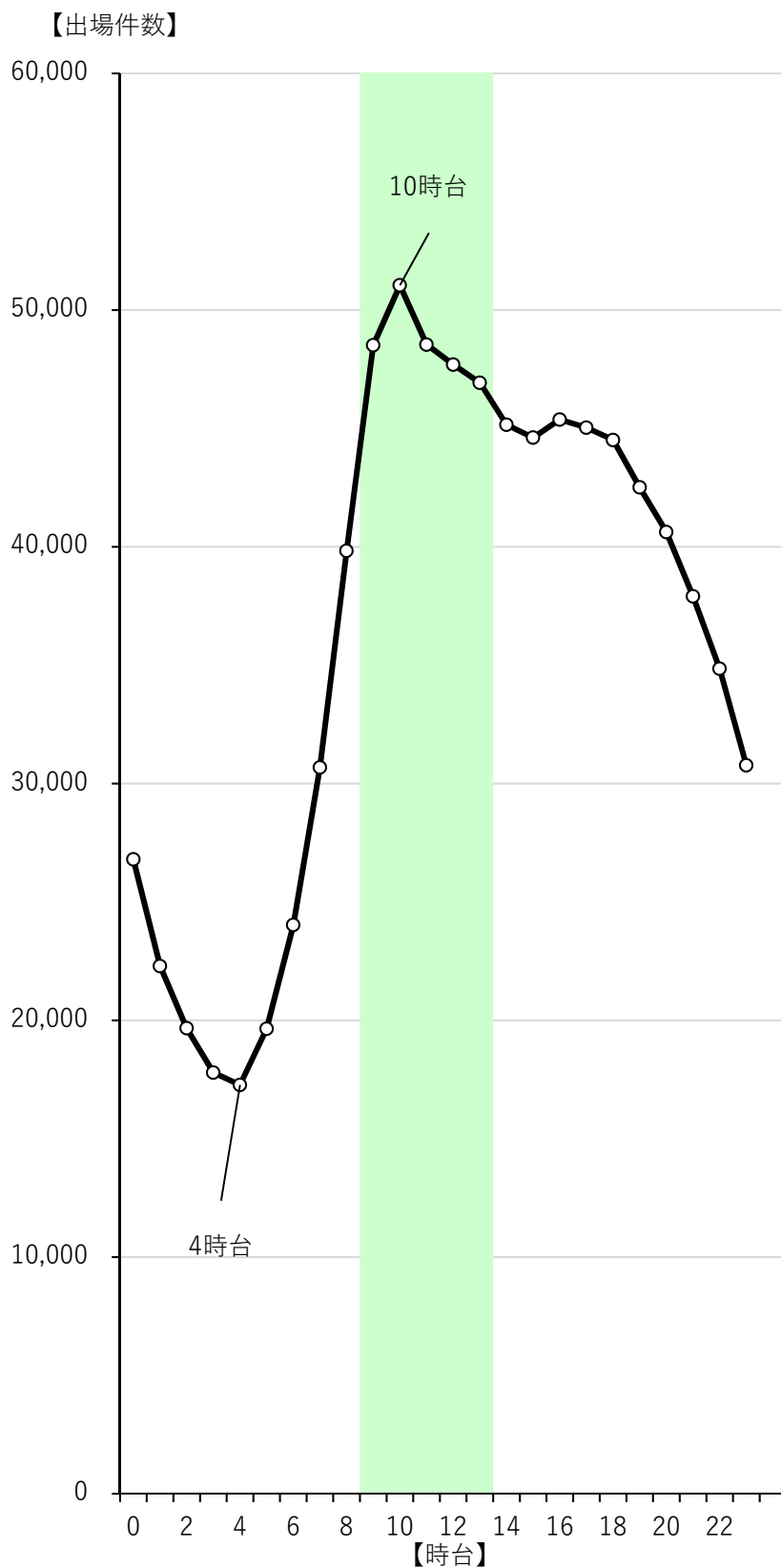


10 時間帯別出場件数

時間帯別では、10時台が最も多く、9時台から13時台が高い割合を占めています。

図表 2-1-17 時間帯別出場件数

時間帯	出場件数	構成比
0時台	26,795	3.1%
1時台	22,292	2.6%
2時台	19,664	2.3%
3時台	17,793	2.0%
4時台	17,270	2.0%
5時台	19,641	2.3%
6時台	24,023	2.8%
7時台	30,682	3.5%
8時台	39,829	4.6%
9時台	48,514	5.6%
10時台	51,048	5.9%
11時台	48,542	5.6%
12時台	47,698	5.5%
13時台	46,930	5.4%
14時台	45,157	5.2%
15時台	44,611	5.1%
16時台	45,377	5.2%
17時台	45,034	5.2%
18時台	44,513	5.1%
19時台	42,509	4.9%
20時台	40,626	4.7%
21時台	37,911	4.3%
22時台	34,849	4.0%
23時台	30,767	3.5%
合計	872,075	100.0%



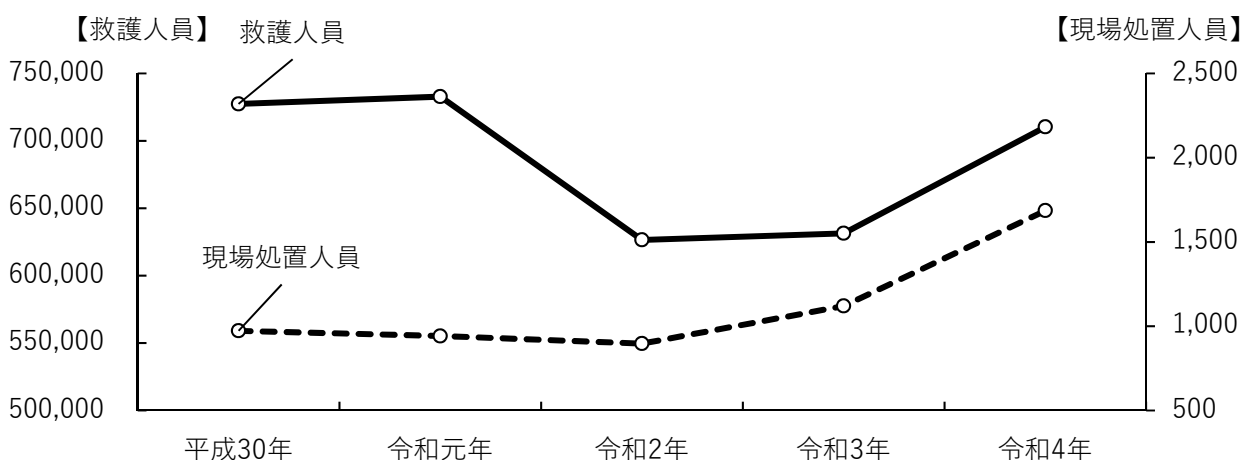
第2節 救護人員

1 救護人員

令和4年中の救護人員は710,381人、搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は708,695人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は1,686人となっています。

図表 2-2-1 救護人員の推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
搬送人員	726,428	731,900	625,639	630,287	708,695
現場処置人員	973	942	897	1,120	1,686
救護人員	727,401	732,842	626,536	631,407	710,381



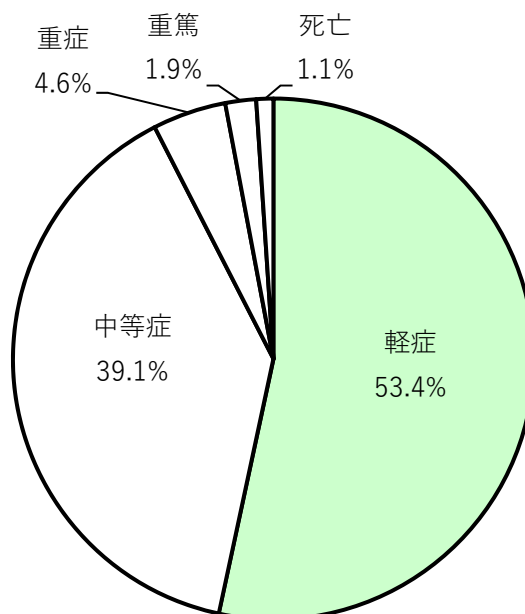
2 搬送人員

(1) 初診時程度

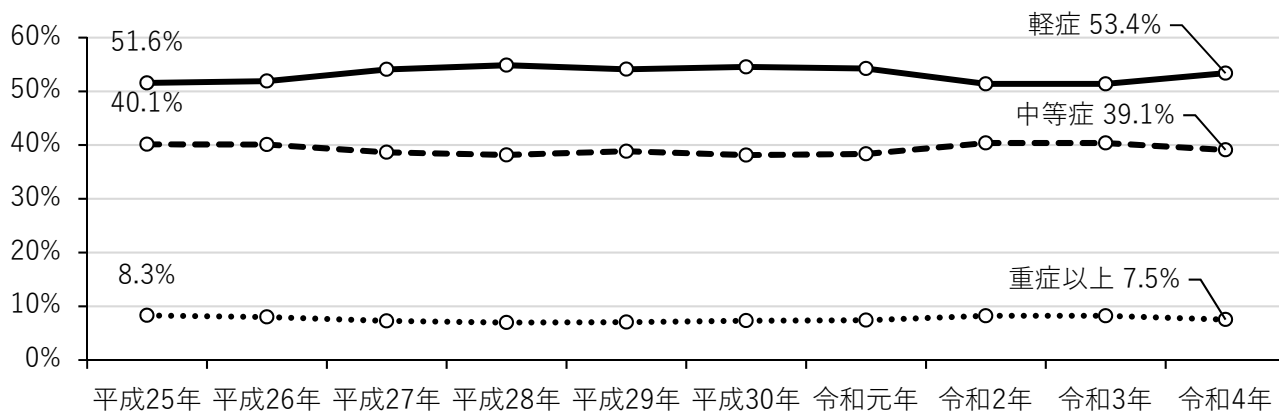
搬送人員のうち「軽症」が最も多く、53.4%を占めています。

図表 2-2-2 初診時程度別搬送人員

程度	搬送人員	割合
軽症	378,221	53.4%
中等症	277,104	39.1%
重症	32,331	4.6%
重篤	13,561	1.9%
死亡	7,478	1.1%
合計	708,695	100.0%



図表 2-2-3 過去 10 年間の初診時程度別割合の推移

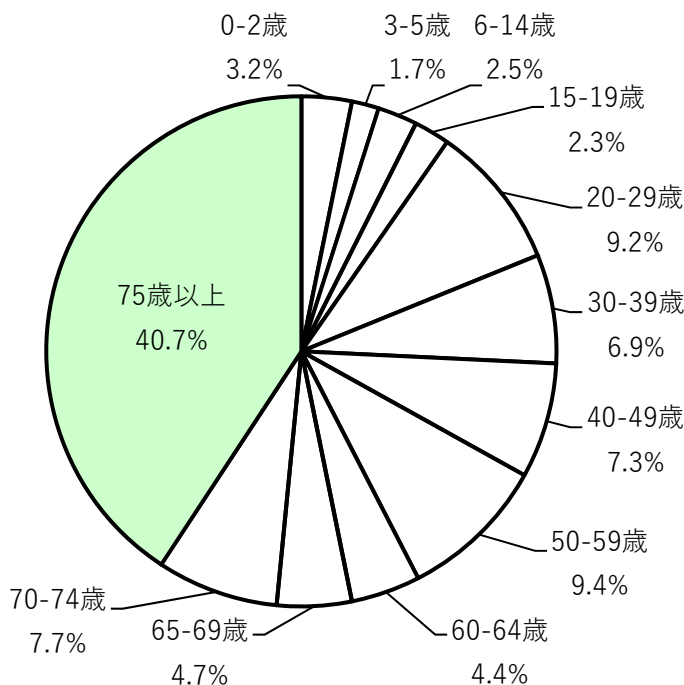


(2) 年齢層

令和 4 年の搬送人員を年齢層別で見ると、75 歳以上の割合が最多となっています。

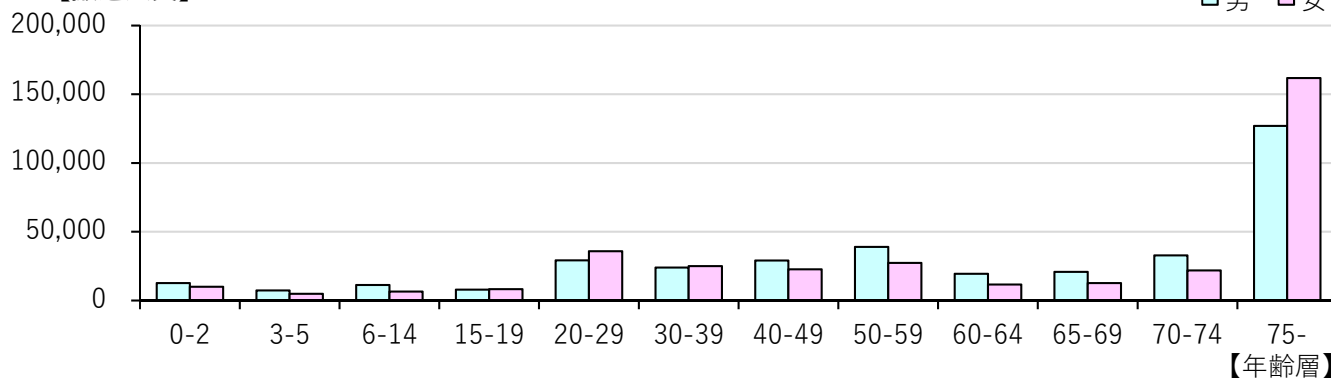
図表 2-2-4 年齢層別・性別搬送人員

年齢層	搬送人員	構成比
0-2 歳	22,572	3.2%
3-5 歳	12,166	1.7%
6-14 歳	17,821	2.5%
15-19 歳	16,041	2.3%
20-29 歳	65,037	9.2%
30-39 歳	48,883	6.9%
40-49 歳	51,857	7.3%
50-59 歳	66,316	9.4%
60-64 歳	31,134	4.4%
65-69 歳	33,512	4.7%
70-74 歳	54,604	7.7%
75 歳以上	288,752	40.7%
高齢者計	376,868	53.2%
合計	708,695	100.0%



年齢	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-
男	12,624	7,335	11,297	7,846	29,158	23,914	29,113	38,990	19,452	20,857	32,765	126,984
女	9,948	4,831	6,524	8,195	35,879	24,969	22,744	27,326	11,682	12,655	21,839	161,768
合計	22,572	12,166	17,821	16,041	65,037	48,883	51,857	66,316	31,134	33,512	54,604	288,752

【搬送人員】



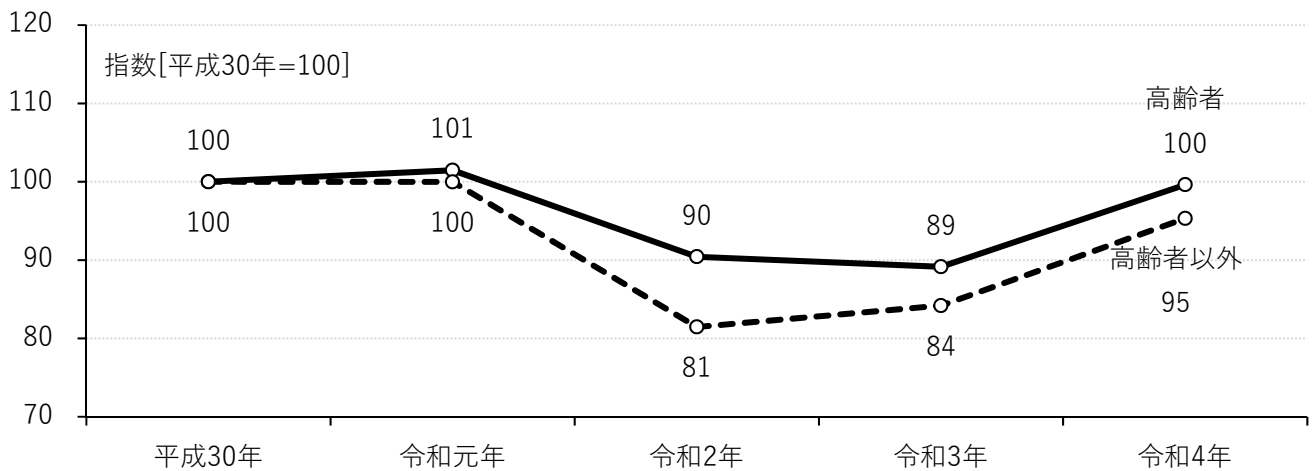
3 高齢者搬送人員

(1) 搬送人員の推移

65歳以上の高齢者の搬送人員は376,868人で、全搬送人員の53.2%を占めています。また、平成30年を100とした指数で見ると、高齢者搬送人員の増加率は100で高齢者以外を上回っています。

図表 2-2-5 高齢者搬送人員の推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全搬送人員	726,428	731,900	625,639	630,287	708,695
高齢者	378,314	383,856	342,085	337,224	376,868
高齢者以外	348,114	348,044	283,554	293,063	331,827
高齢者の割合	52.1%	52.4%	54.7%	53.5%	53.2%

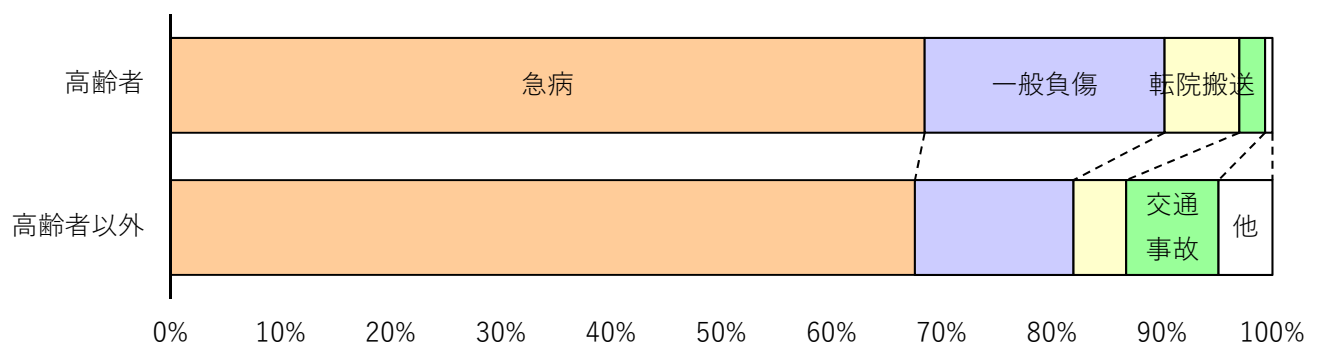


(2) 事故種別

高齢者を事故種別で見ると、高齢者以外と比べ急病、一般負傷及び転院搬送の占める割合が高く、交通事故の占める割合が低くなっています。

図表 2-2-6 事故種別高齢者搬送人員

事故種別	高齢者		高齢者以外	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
急病	257,926	68.4%	224,154	67.6%
一般負傷	82,046	21.8%	47,737	14.4%
転院搬送	25,543	6.8%	15,877	4.8%
交通事故	8,843	2.3%	27,819	8.4%
その他	2,510	0.7%	16,240	4.9%
合計	376,868	100.0%	331,827	100.0%



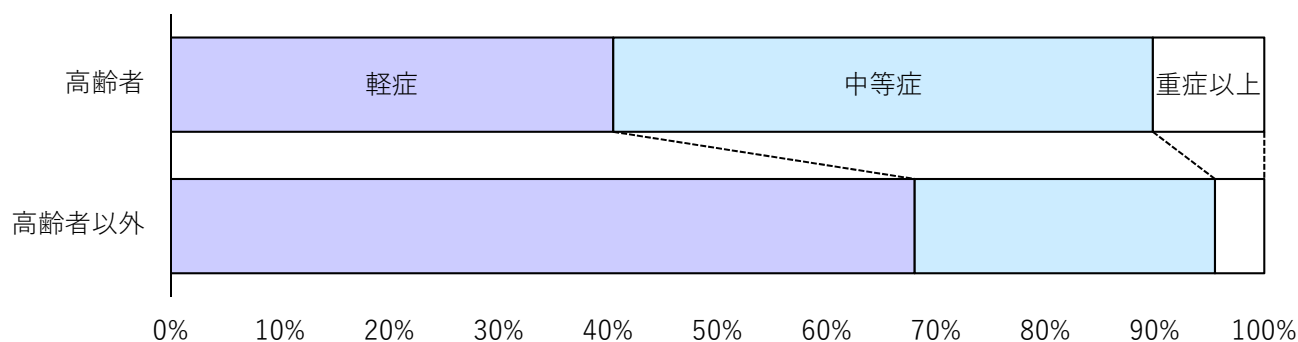
(3) 初診時程度

高齢者を初診時程度で見ると、高齢者以外と比べ中等症以上の占める割合が高くなっています。

また、主な事故種別における高齢者の搬送割合をみると、急病及び転院搬送に占める中等症以上の割合が高くなっています。

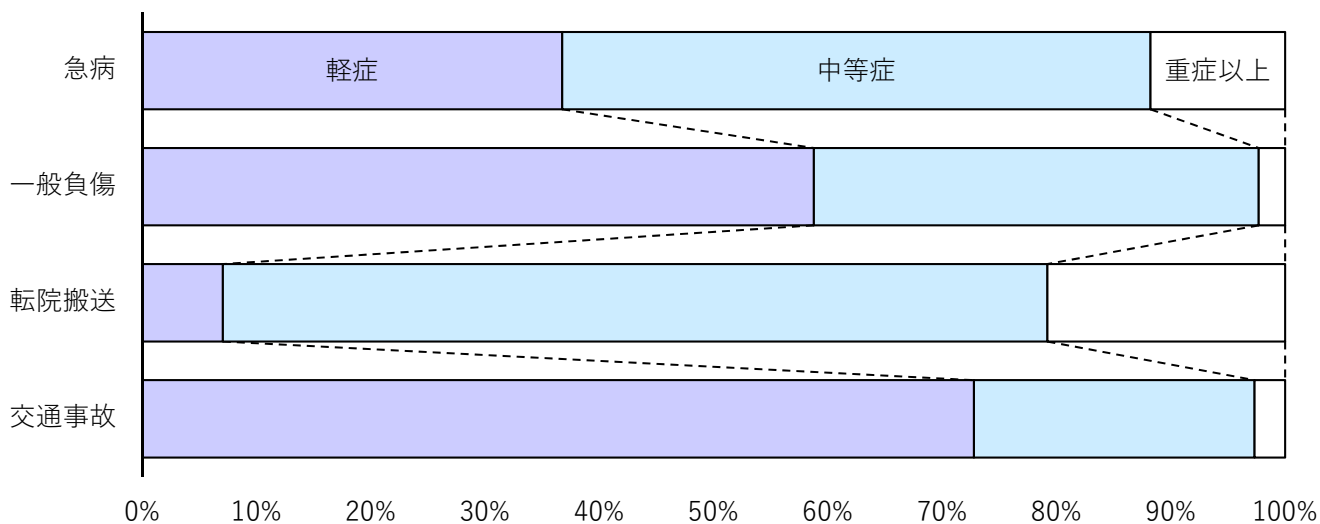
図表 2-2-7 初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	高齢者		高齢者以外	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	152,492	40.5%	225,729	68.0%
中等症	185,982	49.3%	91,122	27.5%
重症	22,460	6.0%	9,871	3.0%
重篤	9,472	2.5%	4,089	1.2%
死亡	6,462	1.7%	1,016	0.3%
合計	376,868	100.0%	331,827	100.0%



図表 2-2-8 事故種別・初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	急病		一般負傷		転院搬送		交通事故	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	94,791	36.8%	48,215	58.8%	1,803	7.1%	6,435	72.8%
中等症	132,768	51.5%	31,937	38.9%	18,427	72.1%	2,171	24.6%
重症	16,980	6.6%	941	1.1%	4,212	16.5%	152	1.7%
重篤	7,591	2.9%	550	0.7%	1,067	4.2%	72	0.8%
死亡	5,796	2.2%	403	0.5%	34	0.1%	13	0.1%
合計	257,926	100.0%	82,046	100.0%	25,543	100.0%	8,843	100.0%



4 収容医療機関・医療施設

傷病者を収容した医療機関数及び搬送人員を開設主体別にみると、私立医療機関が大部分を占めています。

東京消防庁管内の医療機関に収容した人員は693,419人（98.0%）で、このうち、救急告示医療機関に685,229（96.9%）を収容しています。

図表 2-2-9 開設主体別収容医療機関数、搬送人員

区分	収容医療機関数		搬送人員						合計	割合
			告示		非告示		管轄外			
	実数	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合		
国立	21	2.9%	51,491	7.5%	743	9.1%	1,840	13.1%	54,074	7.6%
公立	34	4.7%	69,415	10.1%	100	1.2%	2,308	16.5%	71,823	10.2%
公的	12	1.7%	44,123	6.4%	175	2.1%	2	0.0%	44,300	6.3%
私立病院	540	74.4%	516,018	75.3%	4,200	51.3%	9,686	69.2%	529,904	74.9%
私立診療所	119	16.4%	4,182	0.6%	2,972	36.3%	159	1.1%	7,313	1.0%
合計	726	100.0%	685,229	100.0%	8,190	100.0%	13,995	100.0%	707,414	100.0%

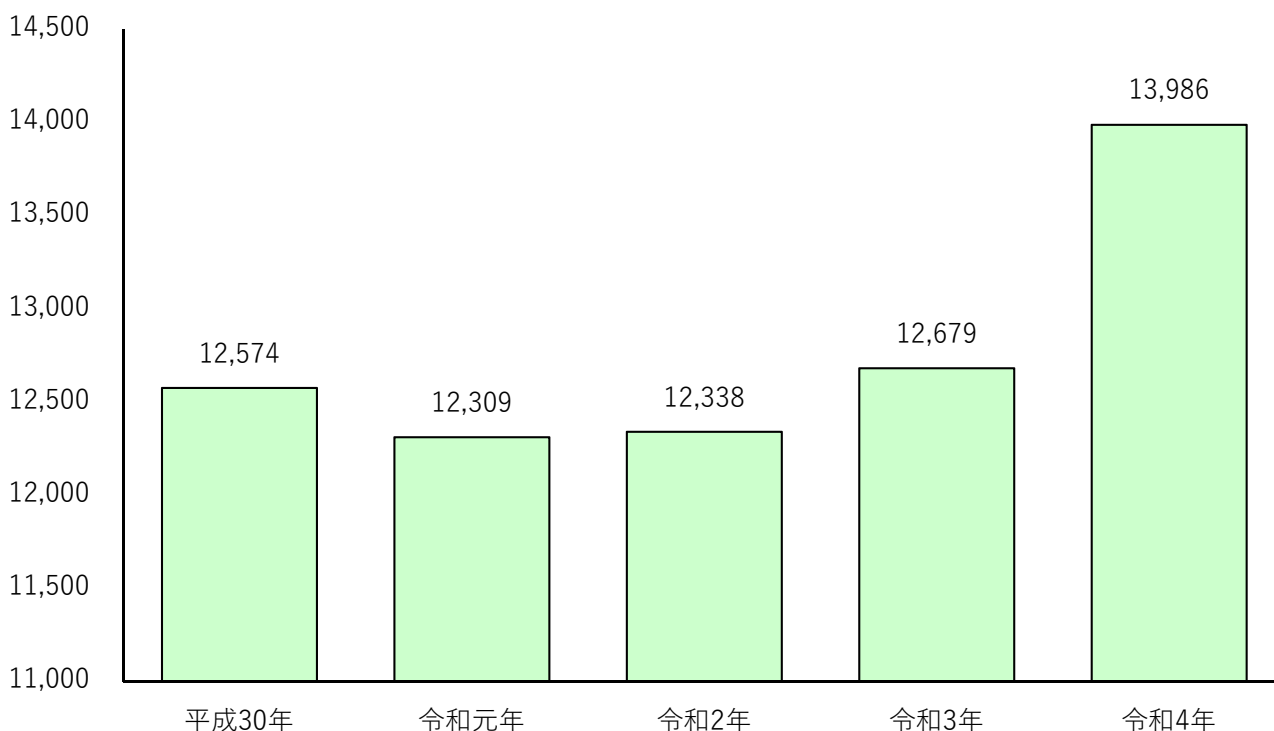
5 心臓機能停止傷病者搬送人員（ウツタイン様式による統計）

(1) 搬送人員の推移

「ウツタイン様式」とは、心臓機能停止傷病者に関する国際的に統一された統計基準の様式であり、平成18年から同様式で統計処理を開始しました。

令和4年中に、発症時点から医療機関に収容するまでの間に心臓機能が停止した傷病者（以下「心停止傷病者」という。）の搬送人員は、13,986人です。

図表 2-2-10 心停止傷病者搬送人員の推移

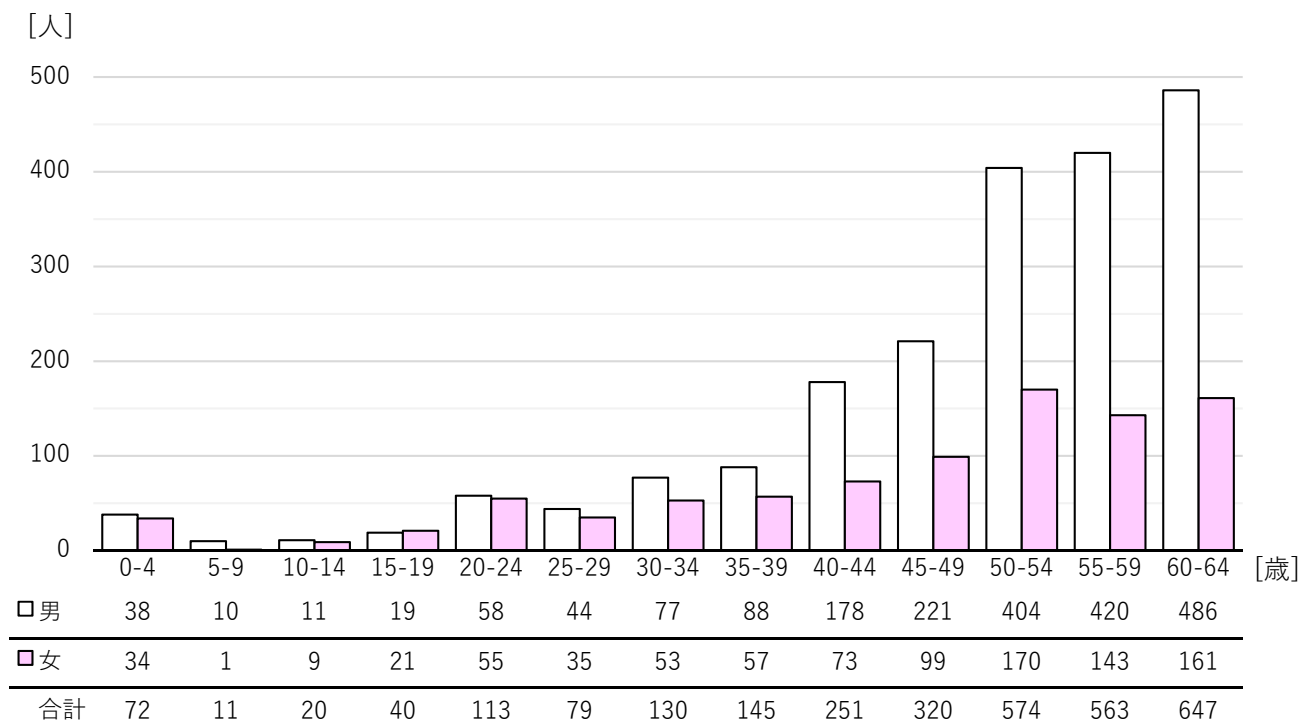


(2) 性別・年齢層別搬送人員（高齢者群・非高齢者群）

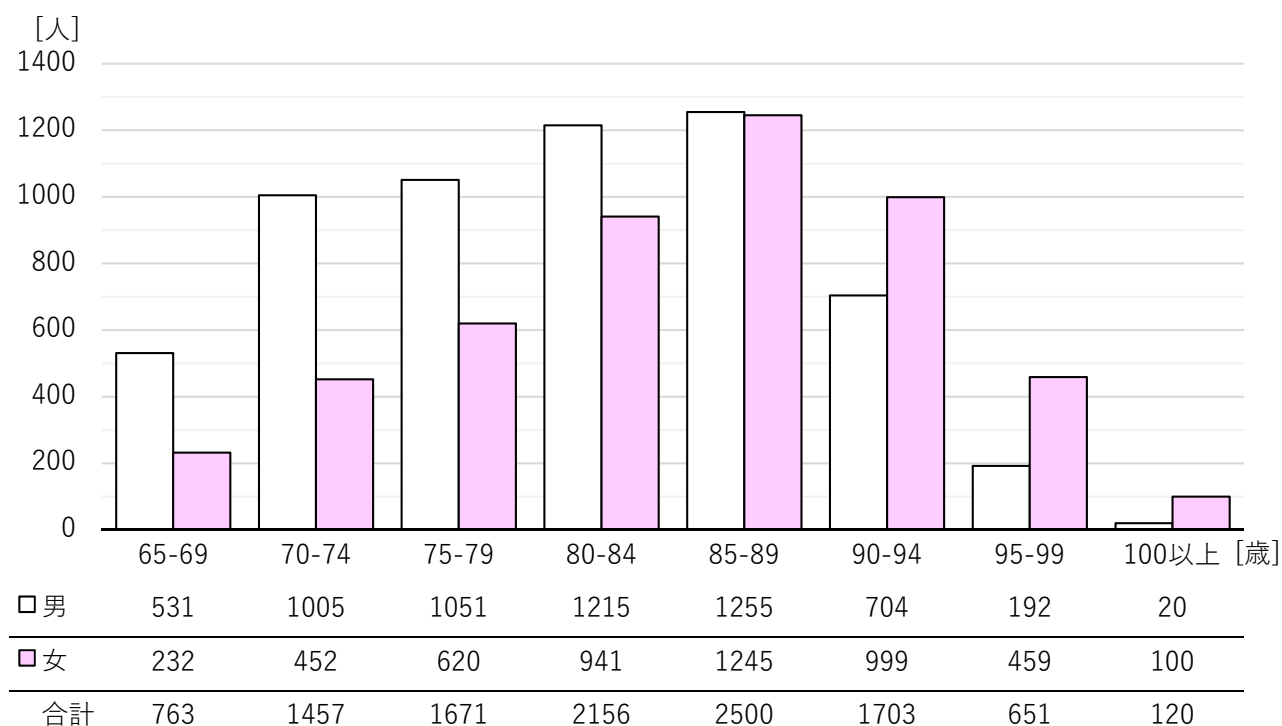
搬送人員の実数は、15歳から19歳及び90歳以上の年齢層で女性が男性を上回りますが、それ以外の年齢層において男性が女性を上回っています。

5歳から9歳までと45歳から74歳までの年齢層で、男性が女性の約2倍以上の搬送人員となっています。

図表 2-2-11 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



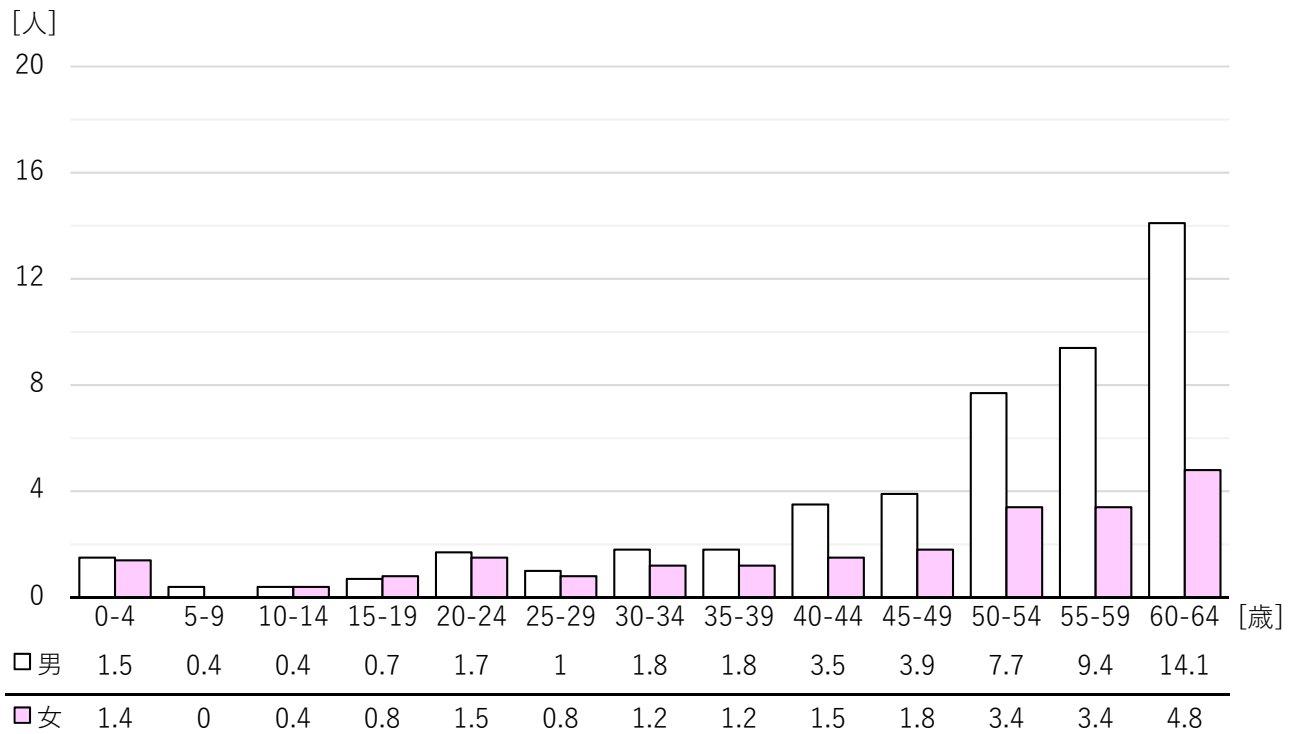
図表 2-2-12 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）



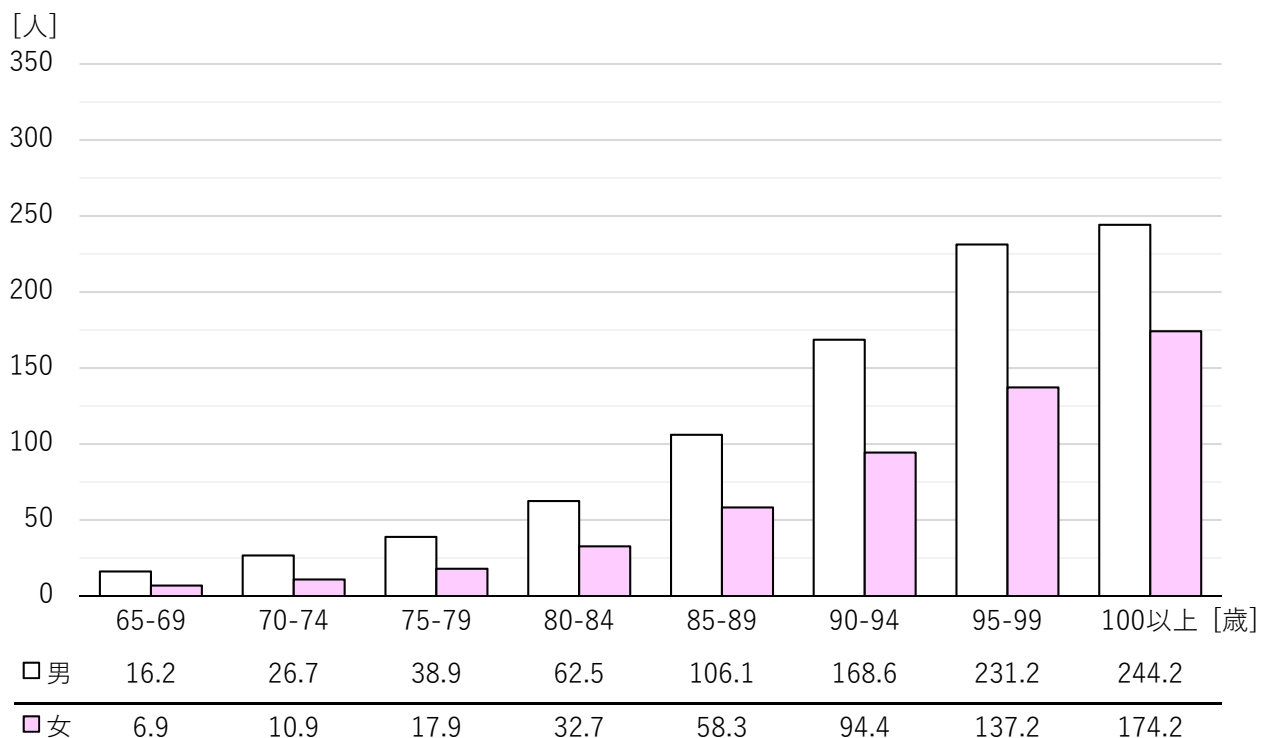
一方、人口に対する搬送人員の発生頻度を比較する目安として、人口（令和4年1月1日現在の東京都住民基本台帳から算出した東京都人口）1万人に対する搬送人員（以下「対人口搬送人員」という。）を各性別・年齢層別に算出した結果は、次のとおりです。

対人口搬送人員は、10-14歳及び15-19歳を除く全ての年齢層で、男性の比率が高い結果となっています。このことから、女性より男性の方が突然の心臓機能の停止をきたし、救急搬送の対象となる頻度が高いと推測されます。

図表 2-2-13 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



図表 2-2-14 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）



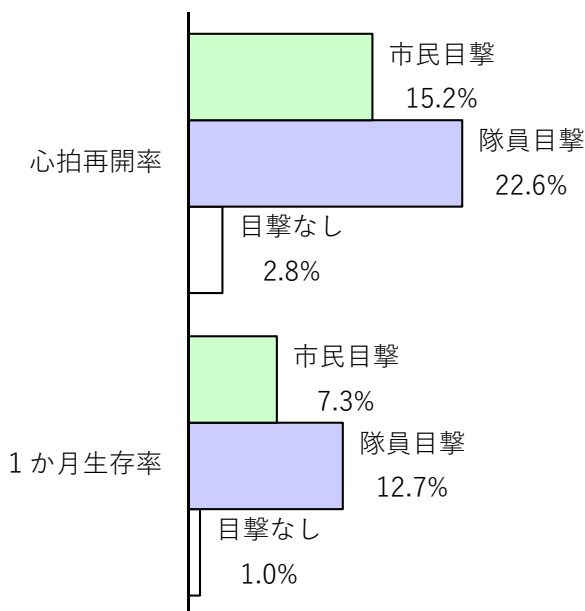
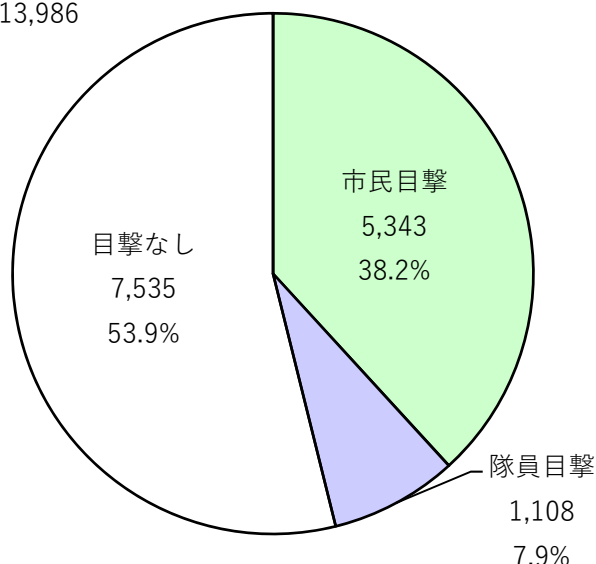
(3) 心停止の目撃

心停止の目撃があった傷病者は、市民目撃及び隊員目撃を併せて全体の46.1%です。目撃があった場合の1か月生存率は、目撃がなかった場合と比較して約9倍となっています。

図表 2-2-15 心停止の目撃有無別搬送人員

目撃情報	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
目撃あり	6,451	46.1%	1,060	16.4%	530	8.2%
市民目撃	5,343	38.2%	810	15.2%	389	7.3%
隊員目撃	1,108	7.9%	250	22.6%	141	12.7%
目撃なし	7,535	53.9%	211	2.8%	72	1.0%
合計	13,986	100.0%	1,271	9.1%	602	4.3%

N=13,986



「心停止の目撃」とは、傷病者が心停止に陥った時の事故の状況、又は行為等（倒れた、意識を失った、車にはねられた等）を、目撃又は音を聞いた人（以下「目撃者」という。）がいた場合で、かつその時刻を目撃者が確定又は推定できる場合を言います。

「市民目撃」とは、救急現場に居合わせた人（以下「バイスタンダー」という。）が目撃した場合を指します。

「隊員目撃」とは、救急隊員・消防隊員等（以下「救急隊員等」という。）が、現場到着後に傷病者が心停止になったところを確認した場合を指します。

「収容前心拍再開」とは、救急隊が医療機関の医師に引継ぐ前に傷病者が心拍再開したものを指します。継続性は問わず、一時的に再開し、再び心停止状態になったものも含まれます。

「1か月生存」とは、傷病者が医療機関に収容された日から1か月後の日の傷病者の生存の有無を表します。なお、1か月生存の状況が追跡できず不明だった傷病者については、統計処理上、生存していないものに計上しています。

(4) バイスタンダーによる応急手当

隊員目撃を除いた搬送人員 12,878 人について、バイスタンダー（心停止目撃の有無を問わない。）による応急手当（心停止傷病者に対して有効な手当＝人工呼吸・胸骨圧迫・AED 等による除細動処置等に限定）の実施状況は次のとおりです。

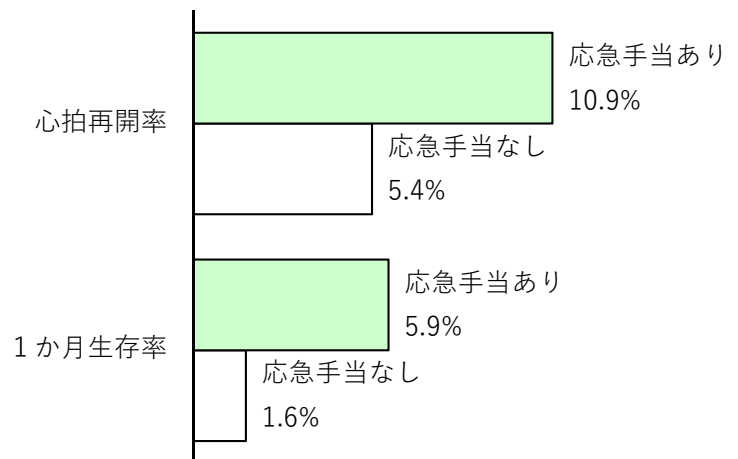
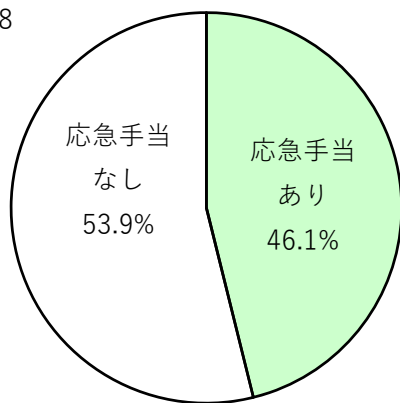
バイスタンダーによる応急手当の実施率は、市民目撃があった場合が 50.7%となっており、市民目撃がなかった場合の 42.9%と比較すると、7.8 ポイント高くなっています。

また、市民目撃があった場合は、応急手当実施の有無により、1 か月生存率に約 3.3 倍の差が生じています。

図表 2-2-16 バイスタンダーによる応急手当実施状況（隊員目撃を除く）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1 か月生存数	1 か月生存率
応急手当あり	5,941	46.1%	646	10.9%	351	5.9%
応急手当なし	6,937	53.9%	375	5.4%	110	1.6%
合計	12,878	100.0%	1,021	7.9%	461	3.6%

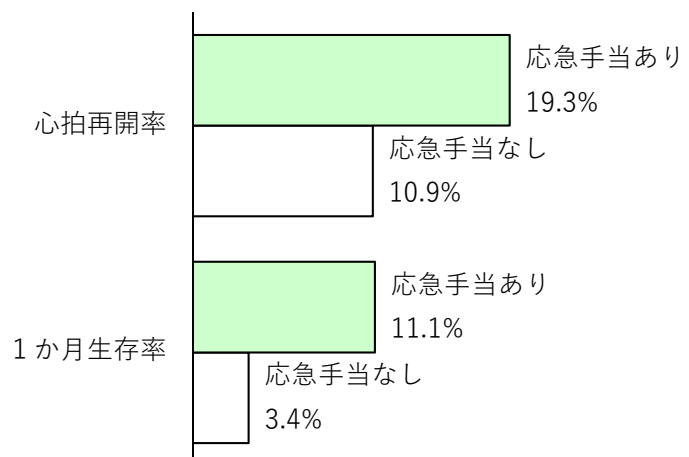
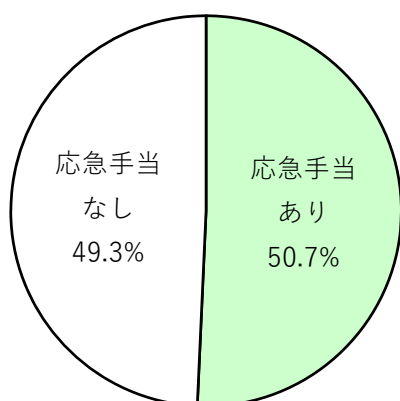
N=12,878



図表 2-2-17 バイスタンダーによる応急手当実施状況（市民目撃あり）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1 か月生存数	1 か月生存率
応急手当あり	2,710	50.7%	522	19.3%	300	11.1%
応急手当なし	2,633	49.3%	288	10.9%	89	3.4%
合計	5,343	100.0%	810	15.2%	389	7.3%

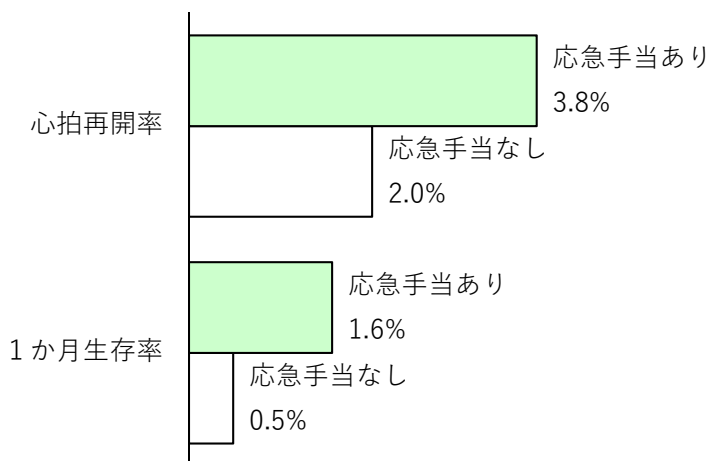
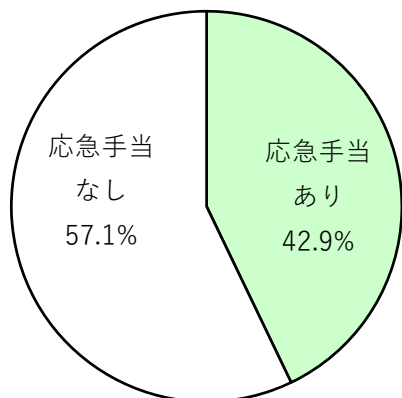
N=5,343



図表 2-2-18 バイスタンダーによる応急手当実施状況（目撃なし）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
応急手当あり	3,231	42.9%	124	3.8%	51	1.6%
応急手当なし	4,304	57.1%	87	2.0%	21	0.5%
合計	7,535	100.0%	211	2.8%	72	1.0%

N=7,535



(5) バイスタンダーによる応急手当の開始時期

市民目撃があり、かつバイスタンダーにより応急手当が実施された傷病者（以下「目撃あり・手当あり群」と言います。）2,710人について、市民目撃から応急手当の開始までの所要時間の状況は、次のとおりです。

平均所要時間は3分56秒で、1か月生存率は、市民目撃から応急手当の開始までの時間が短時間であるほど高い結果となっており、収容前心拍再開率は、3分以内が一番高く、次いで4分から6分、7分から10分、11分以上の順になっています。

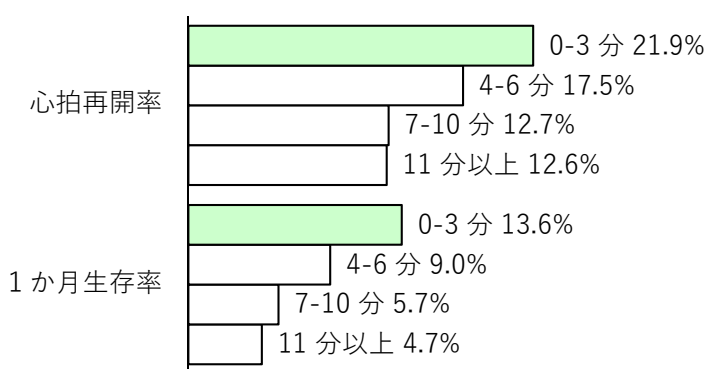
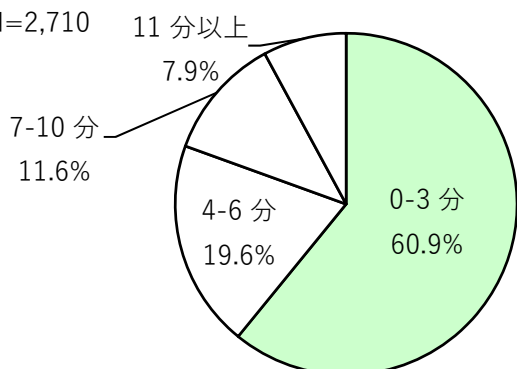
全体の60.9%は、3分以内に応急手当が開始され、心拍再開率が21.9%、1か月生存率が13.6%となっていますが、市民目撃から10分を超えてから応急手当が開始された群は、心拍再開率が12.6%、1か月生存率が4.7%となっています。このことから、早期の応急手当の開始が重要であることがわかります。

図表 2-2-19 市民目撃から応急手当開始までの所要時間

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
0-3分	1,650	60.9%	362	21.9%	224	13.6%
4-6分	532	19.6%	93	17.5%	48	9.0%
7-10分	314	11.6%	40	12.7%	18	5.7%
11分以上	214	7.9%	27	12.6%	10	4.7%
合計	2,710	100.0%	522	19.3%	300	11.1%

平均3分56秒

N=2,710



(6) 救急隊員等の救急処置の開始時期

市民目撃があったものの、バイスタンダーによる有効な応急手当が実施されなかった傷病者（以下「目撃あり・手当なし群」と言う。）2,631人について、市民目撃から救急隊員等による救命処置が開始されるまでの所要時間の状況は、次のとおりです

目撃あり・手当あり群の60.9%が3分以内に応急手当が開始されているのに対して、目撃あり・手当なし群は、救急隊等が傷病者に接触するまでの時間（市民目撃～通報、通報～救急隊等の現場到着及び現場到着～傷病者の所在場所に至るまでの所要時間）がかかるため、7分以上の群が全体の74.8%を占め、平均所要時間は13分21秒となっています。

なお市民目撃には、通報後に心停止となった事案が含まれていることから、市民目撃が通報前の事案に限定した場合は、さらに所要時間が延伸する結果になると考えられます。

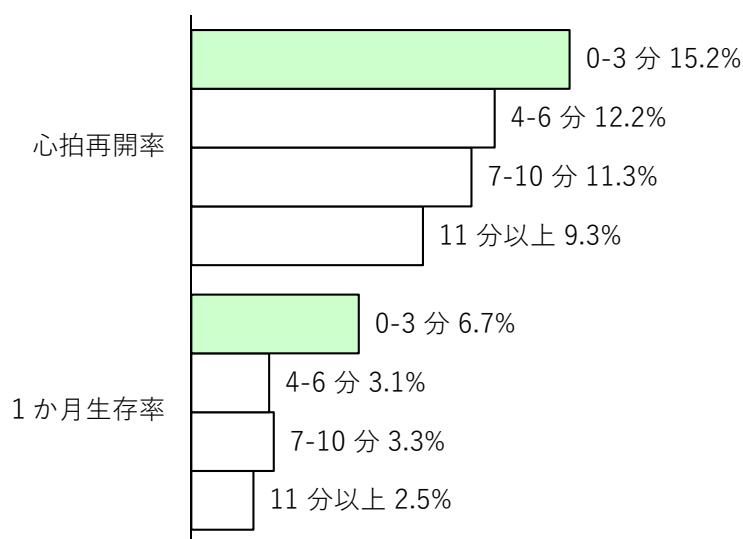
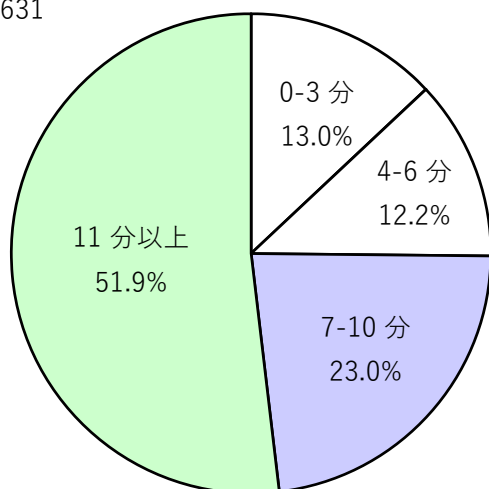
また、同じ所要時間であっても、目撃あり・手当なし群の方が、目撃あり・手当あり群より、収容前心拍再開、1か月生存状況ともに低い結果となっています。これは、バイスタンダーが応急手当を実施しようとしても、物理的に困難な事案（2次的災害や感染危険がある場合、又は傷病者への接触自体が困難である場合等）や、救命が極めて困難な事案が、目撃あり・手当なし群に多く含まれているためと考えられます。

図表 2-2-20 市民目撃から隊員等処置開始までの所要時間

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
0-3分	342	13.0%	52	15.2%	23	6.7%
4-6分	320	12.2%	39	12.2%	10	3.1%
7-10分	604	23.0%	68	11.3%	20	3.3%
11分以上	1,365	51.9%	127	9.3%	34	2.5%
合計	2,631	100.0%	286	10.9%	87	3.3%

平均13分21秒

N=2,631



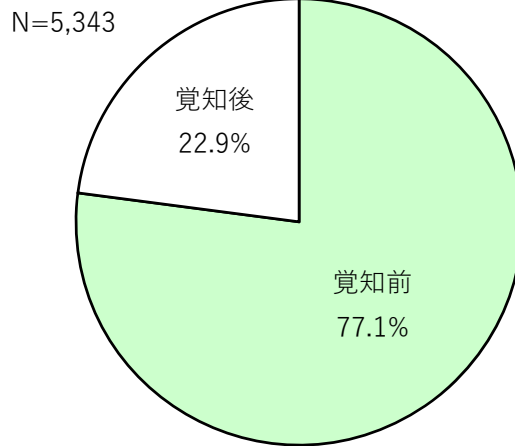
(7) 市民目撃から覚知までの所要時間

市民目撃があった傷病者 5,343 人のうち、覚知前に目撃された（心停止後に通報された）傷病者と覚知後に目撃された（通報後に心停止となった）傷病者の状況は、次のとおりです。

覚知（時刻）とは、東京消防庁総合指令室が通報を確認した時刻を指し、通報の時刻とは近似した時刻となりますが、必ずしも一致するとは限りません。

図表 2-2-21 市民目撃の時期

市民目撃の時期	搬送人員	割合
覚知前	4,118	77.1%
覚知後	1,225	22.9%
合計	5,343	100.0%

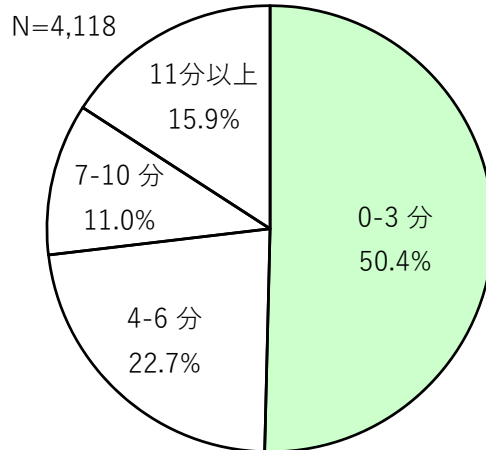


覚知前に心停止となった傷病者 4,118 人について、市民目撃から覚知までの平均所要時間は 6 分 25 秒で、全体の 50.4%は市民目撃から 3 分以内に覚知されていますが、49.6%は 4 分以上、うち半数以上は 7 分以上となっています。

図表 2-2-22 市民目撃から覚知までの所要時間

	搬送人員	割合
0-3 分	2,075	50.4%
4-6 分	936	22.7%
7-10 分	454	11.0%
11 分以上	653	15.9%
合計	4,118	100.0%

平均 6 分 25 秒



(8) 除細動処置の効果（バイスタンダーによる AED 使用の効果）

心停止傷病者のうち、心室細動等の心電図波形を呈する傷病者に対しては、除細動処置の救命効果が高いとされています。除細動処置は、AED（自動体外式除細動器）を使用することにより非医療従事者にも行うことが認められており、効果的に使用されることにより、救命効果の向上が期待されます。

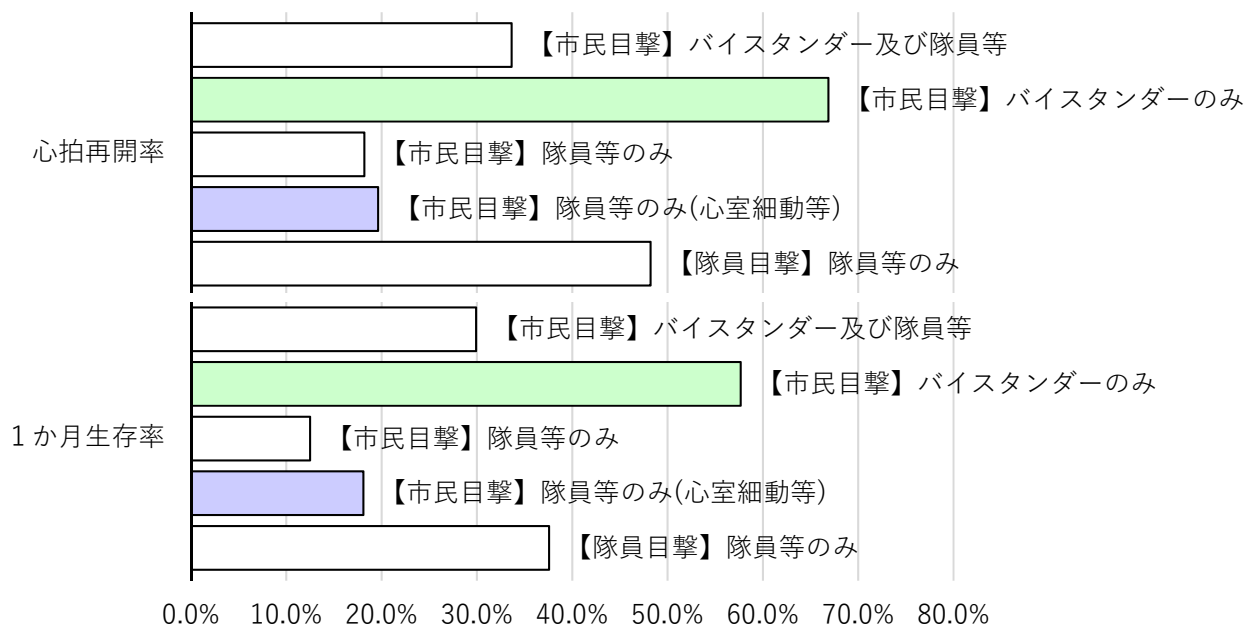
市民目撃があり、かつバイスタンダーのみが除細動処置を実施した場合は、収容前心拍再開率が 66.9%、1 か月生存率が 57.7%と、高い比率になっています。

一方、市民目撃があったもののバイスタンダーによる除細動がなく、救急隊員等が最初の除細動施行者となった場合（初期心電図が心室細動等であった場合に限定）は、収容前心拍再開率が19.6%、1か月生存率が18.1%と、バイスタンダーによる除細動施行事案と比較して低い比率となっています。

これは、心停止目撃から除細動処置が施行されるまでの平均所要時間をみると、バイスタンダーによる除細動の場合は5分35秒であるのに対し、救急隊員等による除細動の場合は12分54秒と、約2.3倍の時間を要していることに関連があると考えられます。

図表 2-2-23 バイスタンダー及び救急隊員等による除細動処置の施行状況

	搬送人員	目撃－除細動 平均時間	心拍 再開数	心拍 再開率	1か月 生存数	1か月 生存率
全除細動事案	1,596	－	422	26.4%	319	20.0%
実施者＝バイスタンダー及び隊員等	138	－	43	31.2%	35	25.4%
うち市民目撃	107	7分27秒	36	33.6%	32	29.9%
実施者＝バイスタンダーのみ	220	－	129	58.6%	108	49.1%
うち市民目撃	163	5分35秒	109	66.9%	94	57.7%
実施者＝隊員等のみ	1,238	－	250	20.2%	176	14.2%
うち隊員目撃	197	4分15秒	95	48.2%	74	37.6%
うち市民目撃	704	16分45秒	128	18.2%	88	12.5%
うち初期心電図＝心室細動等	387	12分54秒	76	19.6%	70	18.1%



「心室細動等」とは、心停止傷病者の心電図測定時の波形が、「心室細動（VF）」又は「心室頻拍（VT）」という致死的不整脈であった場合を指します。これらの波形は、心臓が痙攣し有効な血液量の拍出が得られていない状態を示しており、除細動処置が唯一の救命処置とされ、かつ当該処置が奏効すれば救命の可能性が高いとされています。

医学的に、心室細動等は心停止後の時間の経過とともに心室細動等以外の波形（「無脈性電気的活動（PEA）」「心静止（Asystole）」）に変化し、除細動処置の適応ではなくなると言われています。初期心電図が心室細動等であれば、波形の変化をきたす前に救急隊が傷病者に接触できたことを示す一つの指標となります。

(9) 発生場所別の心停止目撃・応急手当・除細動処置の実施状況

発生場所別の心停止目撃、応急手当及び除細動の実施状況は、次のとおりです。

育児児童施設や学校、芸術、文化施設、運動施設、官公庁、行政施設等は、搬送人員は少ないものの、心停止目撃率、応急手当実施率及び除細動施行率が高く、心拍再開率、1か月生存率ともに高い結果となっています。

これらの場所は、頻繁に人の往来があり、心停止が目撃され、バイスタンダーによる応急手当が早期に行われる可能性が高く、かつAEDの設置整備が推進され早期に除細動処置が施行される環境にあるため、心拍再開率等が高率であると推測されます。

図表 2-2-24 発生場所別心停止目撃・応急手当・除細動実施状況

発生場所区分		搬送人員		目撃あり※1		応急手当あり※2		除細動あり※3		心拍再開		1か月生存	
		実数	平均年齢	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
(合計)		13,986	75.3	6,451	46.1%	5,941	42.5%	1,596	11.4%	1,271	9.1%	602	4.3%
居住・介護・宿泊施設	住宅(専用・共同・寮・寄宿舎)	9,631	75.9	4,049	42.0%	3,523	36.6%	837	8.7%	677	7.0%	253	2.6%
	認知症高齢者グループホーム	70	87.8	34	48.6%	24	34.3%	5	7.1%	4	5.7%	3	4.3%
	特別養護老人ホーム	788	88.2	360	45.7%	547	69.4%	33	4.2%	34	4.3%	6	0.8%
	その他老人施設	222	86.0	118	53.2%	135	60.8%	21	9.5%	33	14.9%	12	5.4%
	ホテル・旅館・簡易宿泊所	53	63.3	25	47.2%	18	34.0%	9	17.0%	3	5.7%	3	5.7%
	介護老人保健施設	213	87.7	87	40.8%	148	69.5%	15	7.0%	10	4.7%	4	1.9%
	有料老人ホーム	598	87.8	248	41.5%	346	57.9%	34	5.7%	34	5.7%	5	0.8%
	サービス付高齢者向け住宅	85	84.4	37	43.5%	36	42.4%	1	1.2%	6	7.1%	2	2.4%
	自助施設・グループホーム等(認知症以外)	101	77.8	56	55.4%	54	53.5%	7	6.9%	10	9.9%	3	3.0%
会社・工場等	会社・オフィス	136	58.3	79	58.1%	63	46.3%	45	33.1%	36	26.5%	28	20.6%
	工場・製造所・作業場	59	58.6	37	62.7%	28	47.5%	16	27.1%	12	20.3%	8	13.6%
	その他仕事場業態の場所	12	60.1	7	58.3%	7	58.3%	7	58.3%	4	33.3%	2	16.7%
販売・サービス業施設		272	63.9	198	72.8%	143	52.6%	87	32.0%	55	20.2%	40	14.7%
娯楽・遊戯施設		50	61.3	36	72.0%	20	40.0%	15	30.0%	10	20.0%	3	6.0%
健康・保養・美容施設		63	70.9	30	47.6%	38	60.3%	9	14.3%	12	19.0%	7	11.1%
医療等施設	病院	91	63.5	64	70.3%	72	79.1%	18	19.8%	31	34.1%	16	17.6%
	診療所・クリニック・医院	124	67.6	106	85.5%	103	83.1%	34	27.4%	36	29.0%	19	15.3%
	助産所・鍼灸院・接骨院等	7	71.4	4	57.1%	4	57.1%	-	0.0%	1	14.3%	1	14.3%
育児児童施設・学校		30	42.1	23	76.7%	16	53.3%	10	33.3%	7	23.3%	6	20.0%
芸術・文化施設		16	67.1	14	87.5%	12	75.0%	4	25.0%	7	43.8%	5	31.3%
運動施設		68	61.8	53	77.9%	60	88.2%	35	51.5%	30	44.1%	21	30.9%
公園・遊園地等		70	58.7	20	28.6%	22	31.4%	15	21.4%	9	12.9%	6	8.6%
宗教施設・斎場等		19	63.6	9	47.4%	11	57.9%	4	21.1%	2	10.5%	1	5.3%
官公庁・行政施設		51	61.5	38	74.5%	38	74.5%	16	31.4%	18	35.3%	11	21.6%
道路・車両・交通施設	線路・軌道敷	21	46.3	13	61.9%	3	14.3%	5	23.8%	1	4.8%	2	9.5%
	駅	145	58.9	110	75.9%	99	68.3%	71	49.0%	52	35.9%	48	33.1%
	空港	7	68.3	5	71.4%	6	85.7%	1	14.3%	1	14.3%	1	14.3%
	駐車場・駐輪施設	56	59.7	22	39.3%	17	30.4%	8	14.3%	6	10.7%	1	1.8%
	一般道路(公道・私道・施設内道路)	787	63.6	512	65.1%	310	39.4%	208	26.4%	120	15.2%	78	9.9%
高速道路・自動車専用道路		10	46.9	9	90.0%	3	30.0%	1	10.0%	-	0.0%	-	0.0%
自然環境・土地	農地(田・畑)	6	74.0	2	33.3%	2	33.3%	1	16.7%	-	0.0%	-	0.0%
	山林	10	54.6	4	40.0%	3	30.0%	3	30.0%	1	10.0%	-	0.0%
	河川・水路	63	53.4	12	19.0%	5	7.9%	2	3.2%	2	3.2%	1	1.6%
	海	3	56.0	1	33.3%	1	33.3%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%
	その他自然環境・土地	10	58.0	4	40.0%	2	20.0%	3	30.0%	2	20.0%	2	20.0%
建築・工事現場		34	58.5	21	61.8%	18	52.9%	14	41.2%	4	11.8%	3	8.8%
その他		5	68.0	4	80.0%	4	80.0%	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%

※1 市民目撃及び隊員目撃

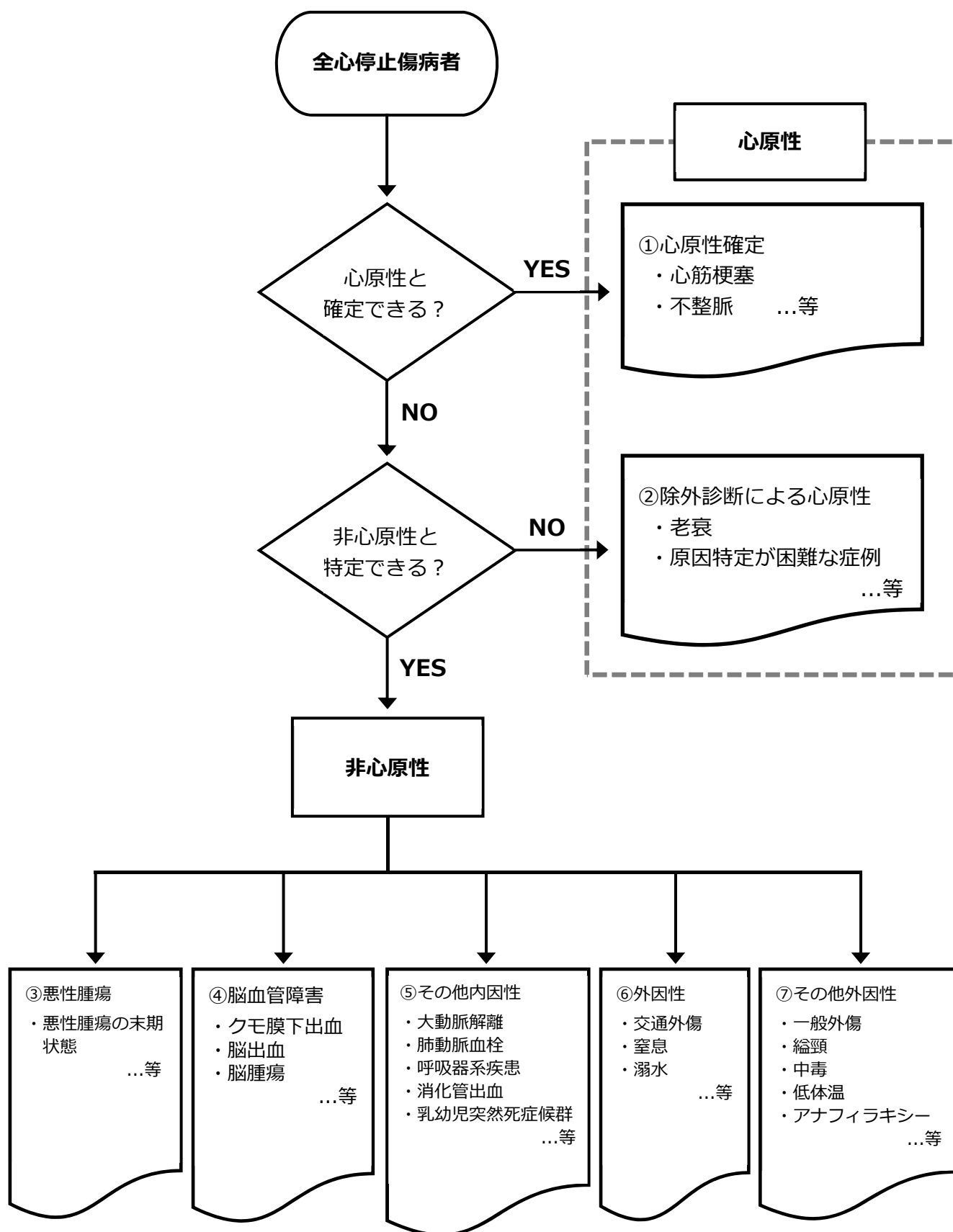
※2 胸骨圧迫・人工呼吸・除細動

※3 バイスタンダーを含む

(10) 心停止の推定原因

ウツタイン様式では、心停止をきたした原因を次に示すフローに基づき分類しています。これは、病態分類として大きく「心原性」と「非心原性」に分類し、それをさらに詳細分類したものです。

図表 2-2-25 ウツタイン様式による心停止の推定原因の分類フロー

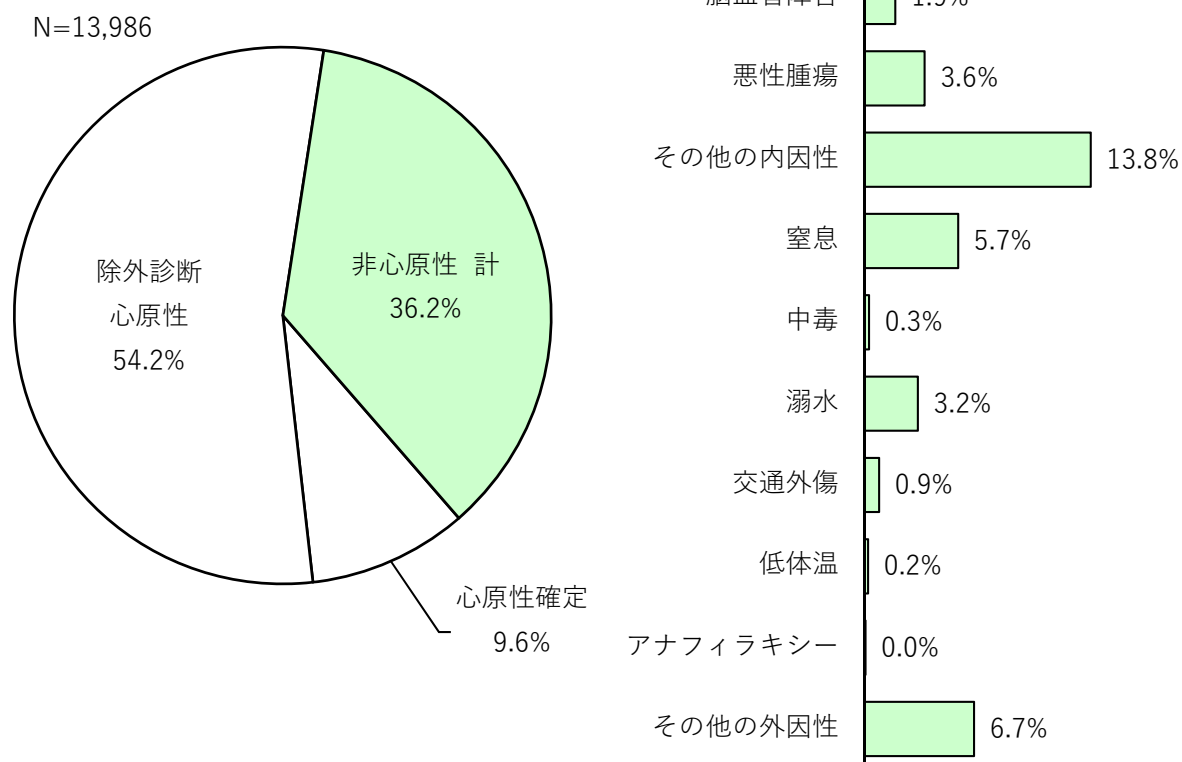


心停止の推定原因別の搬送人員、收容前心拍再開、及び1か月生存等の状況は、次のとおりです。

図表 2-2-26 心停止推定原因別の搬送人員

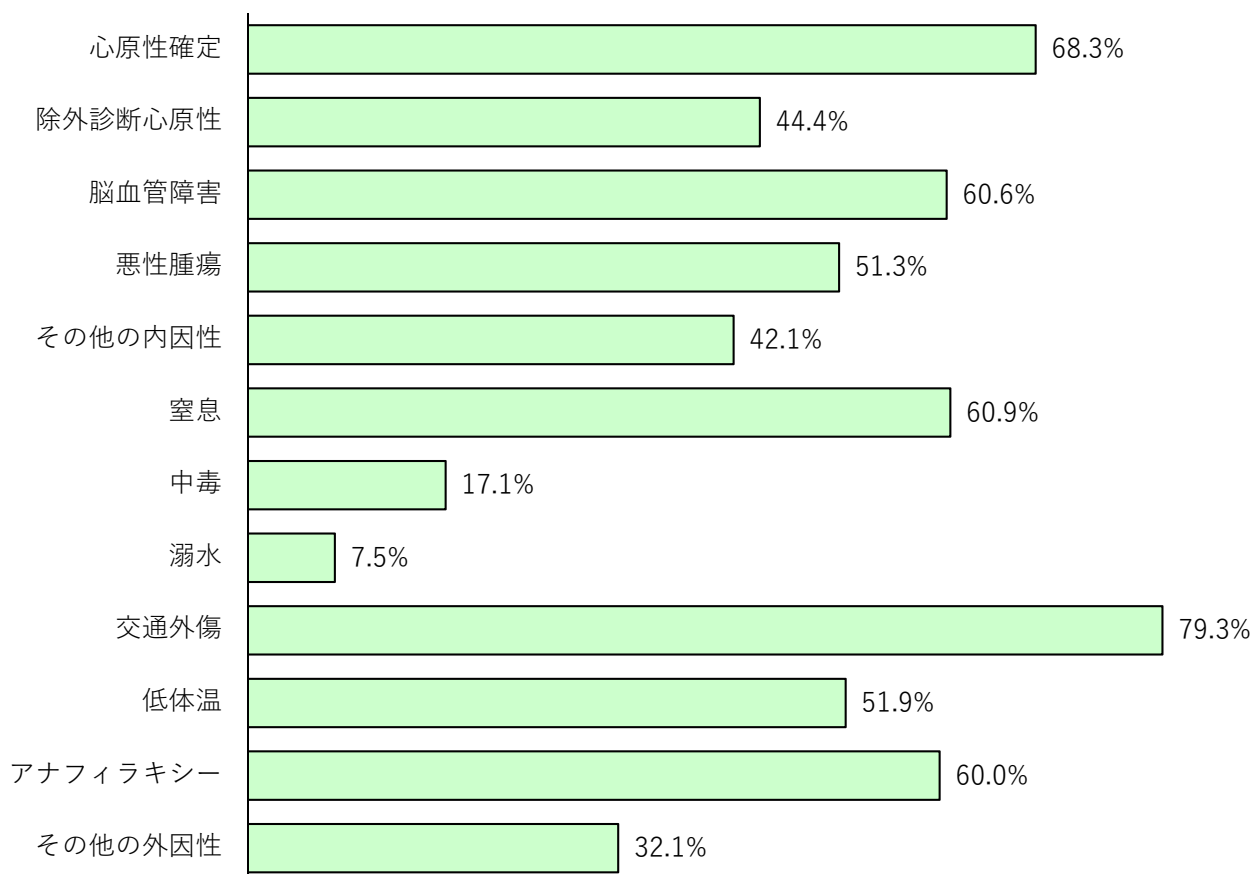
心停止の推定原因		搬送人員	割合
心原性	心原性確定	1,342	9.6%
	除外診断心原性	7,585	54.2%
	(心原性 計)	8,927	63.8%
非心原性	脳血管障害	259	1.9%
	悪性腫瘍	509	3.6%
	その他の内因性	1,925	13.8%
	窒息	796	5.7%
	中毒	35	0.3%
	溺水	451	3.2%
	交通外傷	121	0.9%
	低体温	27	0.2%
	アナフィラキシー	5	0.0%
	その他の外因性	931	6.7%
	(非心原性 計)	5,059	36.2%
合計		13,986	100.0%

[非心原性の内訳]



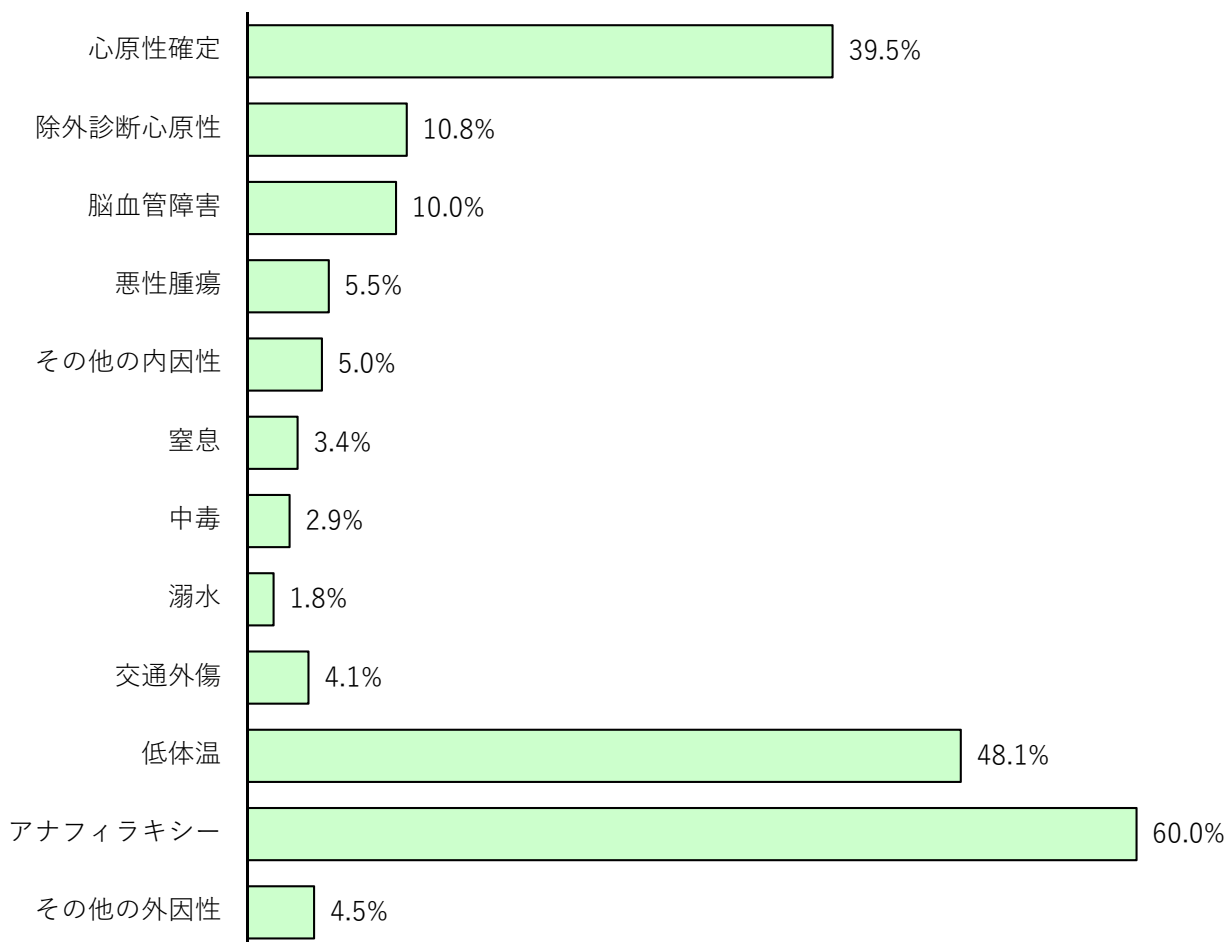
図表 2-2-27 心停止推定原因別の心停止目撃状況

心停止の推定原因		搬送人員 (A)	心停止 目撃数 (B)	割合 (B/A)	目撃状況			
					市民目撃 (C)	割合 (C/A)	隊員目撃 (D)	割合 (D/A)
心原性	心原性確定	1,342	917	68.3%	719	53.6%	198	14.8%
	除外診断心原性	7,585	3,368	44.4%	2,835	37.4%	533	7.0%
	(心原性 計)	8,927	4,285	48.0%	3,554	39.8%	731	8.2%
非心原性	脳血管障害	259	157	60.6%	111	42.9%	46	17.8%
	悪性腫瘍	509	261	51.3%	209	41.1%	52	10.2%
	その他の内因性	1,925	811	42.1%	633	32.9%	178	9.2%
	窒息	796	485	60.9%	451	56.7%	34	4.3%
	中毒	35	6	17.1%	4	11.4%	2	5.7%
	溺水	451	34	7.5%	34	7.5%	0	0.0%
	交通外傷	121	96	79.3%	86	71.1%	10	8.3%
	低体温	27	14	51.9%	3	11.1%	11	40.7%
	アナフィラキシー	5	3	60.0%	3	60.0%	0	0.0%
	その他の外因性	931	299	32.1%	255	27.4%	44	4.7%
	(非心原性 計)	5,059	2,166	42.8%	1,789	35.4%	377	7.5%
合計		13,986	6,451	46.1%	5,343	38.2%	1,108	7.9%



図表 2-2-28 心停止推定原因別の除細動施行状況

心停止の推定原因		搬送人員	除細動施行者数	除細動施行率
心原性	心原性確定	1,342	530	39.5%
	除外診断心原性	7,585	816	10.8%
	(心原性 計)	8,927	1,346	15.1%
非心原性	脳血管障害	259	26	10.0%
	悪性腫瘍	509	28	5.5%
	その他の内因性	1925	97	5.0%
	窒息	796	27	3.4%
	中毒	35	1	2.9%
	溺水	451	8	1.8%
	交通外傷	121	5	4.1%
	低体温	27	13	48.1%
	アナフィラキシー	5	3	60.0%
	その他の外因性	931	42	4.5%
	(非心原性 計)	5,059	250	4.9%
合計		13,986	1,596	11.4%



図表 2-2-29 心停止推定原因別の心拍再開状況

心停止推定原因別の心拍再開状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員 (A)	心拍再開数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	心拍再開数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	心拍再開数 (F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,342	380	28.3%	917	337	36.8%	425	43	10.1%
	除外診断心原性	7,585	477	6.3%	3,368	382	11.3%	4,217	95	2.3%
	（心原性 計）	8,927	857	9.6%	4,285	719	16.8%	4,642	138	3.0%
非心原性	脳血管障害	259	87	33.6%	157	79	50.3%	102	8	7.8%
	悪性腫瘍	509	20	3.9%	261	17	6.5%	248	3	1.2%
	その他の内因性	1925	111	5.8%	811	98	12.1%	1114	13	1.2%
	窒息	796	132	16.6%	485	113	23.3%	311	19	6.1%
	中毒	35	3	8.6%	6	2	33.3%	29	1	3.4%
	溺水	451	7	1.6%	34	1	2.9%	417	6	1.4%
	交通外傷	121	7	5.8%	96	6	6.3%	25	1	4.0%
	低体温	27	3	11.1%	14	2	14.3%	13	1	7.7%
	アナフィラキシー	5	0	0.0%	3	0	0.0%	2	0	0.0%
	その他の外因性	931	44	4.7%	299	23	7.7%	632	21	3.3%
	（非心原性 計）	5,059	414	8.2%	2,166	341	15.7%	2,893	73	2.5%
合計	13,986	1,271	9.1%	6,451	1,060	16.4%	7,535	211	2.8%	

（※隊員目撃及び市民目撃）

心停止推定原因別の心拍再開状況（応急手当有無別）

心停止の推定原因		市民目撃 (応急手当あり)			市民目撃 (応急手当なし)			目撃なし (応急手当あり)			目撃なし (応急手当なし)		
		搬送人員 (A)	心拍再開数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	心拍再開数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	心拍再開数 (F)	割合 (F/E)	搬送人員 (G)	心拍再開数 (H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	448	186	41.5%	271	56	20.7%	200	30	15.0%	225	13	5.8%
	除外診断心原性	1,424	180	12.6%	1,411	117	8.3%	1,926	51	2.6%	2,291	44	1.9%
	（心原性 計）	1,872	366	19.6%	1,682	173	10.3%	2,126	81	3.8%	2,516	57	2.3%
非心原性	脳血管障害	65	36	55.4%	46	20	43.5%	49	3	6.1%	53	5	9.4%
	悪性腫瘍	79	8	10.1%	130	6	4.6%	96	0	0.0%	152	3	2.0%
	その他の内因性	311	37	11.9%	322	34	10.6%	497	9	1.8%	617	4	0.6%
	窒息	268	64	23.9%	183	42	23.0%	140	15	10.7%	171	4	2.3%
	中毒	3	1	33.3%	1	0	0.0%	2	0	0.0%	27	1	3.7%
	溺水	18	1	5.6%	16	0	0.0%	158	3	1.9%	259	3	1.2%
	交通外傷	22	2	9.1%	64	2	3.1%	2	0	0.0%	23	1	4.3%
	低体温	1	0	0.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%	11	1	9.1%
	アナフィラキシー	0	0	0.0%	3	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
	その他の外因性	71	7	9.9%	184	11	6.0%	158	13	8.2%	474	8	1.7%
（非心原性 計）	838	156	18.6%	951	115	12.1%	1,105	43	3.9%	1,788	30	1.7%	
合計	2,710	522	19.3%	2,633	288	10.9%	3,231	124	3.8%	4,304	87	2.0%	

図表 2-2-30 心停止推定原因別の1か月生存状況

心停止推定原因別の1か月生存状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員 (A)	1か月生存数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	1か月生存数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	1か月生存数 (F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,342	313	23.3%	917	284	31.0%	425	29	6.8%
	除外診断心原性	7,585	148	2.0%	3,368	123	3.7%	4,217	25	0.6%
	(心原性 計)	8,927	461	5.2%	4,285	407	9.5%	4,642	54	1.2%
非心原性	脳血管障害	259	27	10.4%	157	26	16.6%	102	1	1.0%
	悪性腫瘍	509	5	1.0%	261	4	1.5%	248	1	0.4%
	その他の内因性	1925	37	1.9%	811	34	4.2%	1114	3	0.3%
	窒息	796	46	5.8%	485	43	8.9%	311	3	1.0%
	中毒	35	4	11.4%	6	3	50.0%	29	1	3.4%
	溺水	451	1	0.2%	34	0	0.0%	417	1	0.2%
	交通外傷	121	3	2.5%	96	3	3.1%	25	0	0.0%
	低体温	27	4	14.8%	14	2	14.3%	13	2	15.4%
	アナフィラキシー	5	0	0.0%	3	0	0.0%	2	0	0.0%
	その他の外因性	931	14	1.5%	299	8	2.7%	632	6	0.9%
	(非心原性 計)	5,059	141	2.8%	2,166	123	5.7%	2,893	18	0.6%
合計	13,986	602	4.3%	6,451	530	8.2%	7,535	72	1.0%	

（※隊員目撃及び市民目撃）

心停止推定原因別の1か月生存状況（応急手当有無別）

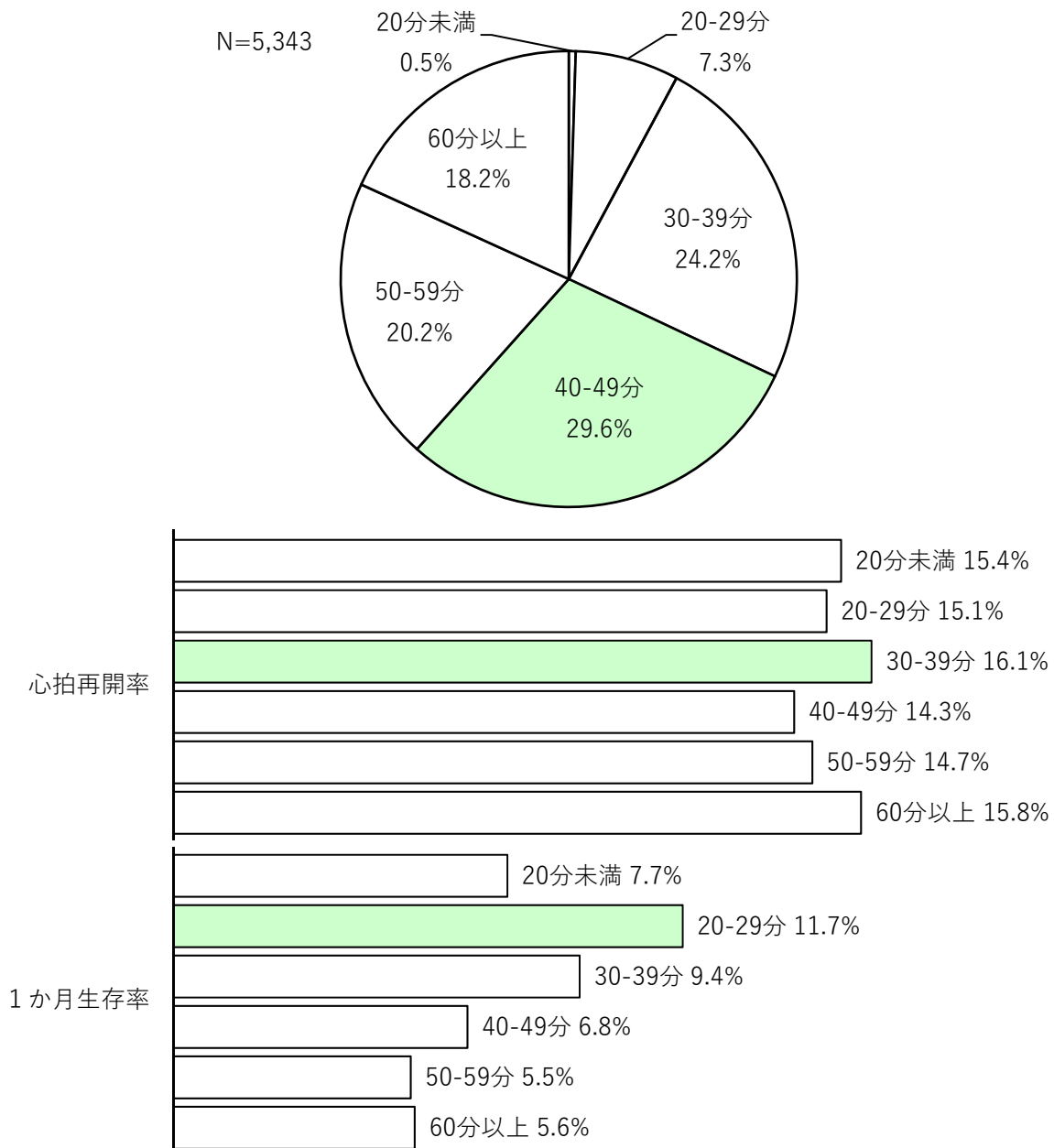
心停止の推定原因		市民目撃 (応急手当あり)			市民目撃 (応急手当なし)			目撃なし (応急手当あり)			目撃なし (応急手当なし)		
		搬送人員 (A)	1か月生存数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	1か月生存数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	1か月生存数 (F)	割合 (F/E)	搬送人員 (G)	1か月生存数 (H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	448	161	35.9%	271	44	16.2%	200	21	10.5%	225	8	3.6%
	除外診断心原性	1,424	66	4.6%	1,411	22	1.6%	1,926	18	0.9%	2,291	7	0.3%
	(心原性 計)	1,872	227	12.1%	1,682	66	3.9%	2,126	39	1.8%	2,516	15	0.6%
非心原性	脳血管障害	65	18	27.7%	46	2	4.3%	49	0	0.0%	53	1	1.9%
	悪性腫瘍	79	2	2.5%	130	0	0.0%	96	1	1.0%	152	0	0.0%
	その他の内因性	311	21	6.8%	322	7	2.2%	497	2	0.4%	617	1	0.2%
	窒息	268	27	10.1%	183	11	6.0%	140	3	2.1%	171	0	0.0%
	中毒	3	1	33.3%	1	0	0.0%	2	0	0.0%	27	1	3.7%
	溺水	18	0	0.0%	16	0	0.0%	158	1	0.6%	259	0	0.0%
	交通外傷	22	1	4.5%	64	1	1.6%	2	0	0.0%	23	0	0.0%
	低体温	1	0	0.0%	2	0	0.0%	2	1	50.0%	11	1	9.1%
	アナフィラキシー	0	0	0.0%	3	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
	その他の外因性	71	3	4.2%	184	2	1.1%	158	4	2.5%	474	2	0.4%
(非心原性 計)	838	73	8.7%	951	23	2.4%	1,105	12	1.1%	1,788	6	0.3%	
合計	2,710	300	11.1%	2,633	89	3.4%	3,231	51	1.6%	4,304	21	0.5%	

(1) 市民目撃から医療機関収容所要時間区分別心拍再開・1か月生存

市民目撃があった傷病者 5,343 人のうち、市民目撃から医療機関に収容されるまでの所要時間等の状況は次のとおりです。

図表 2-2-31 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別搬送人員内訳

	搬送人員		心拍再開数		1か月生存数	
		割合		心拍再開率		1か月生存率
20分未満	26	0.5%	4	15.4%	2	7.7%
20-29分	392	7.3%	59	15.1%	46	11.7%
30-39分	1,293	24.2%	208	16.1%	121	9.4%
40-49分	1,580	29.6%	226	14.3%	107	6.8%
50-59分	1,080	20.2%	159	14.7%	59	5.5%
60分以上	972	18.2%	154	15.8%	54	5.6%
合計	5,343	100.0%	810	15.2%	389	7.3%



(12) 収容前心拍再開有無別1か月生存

市民目撃があった傷病者 5,343 人のうち、収容前心拍再開があった群の 810 人及び収容前心拍再開がなかった群の 4,533 人の 1 か月生存状況等は、次のとおりです。

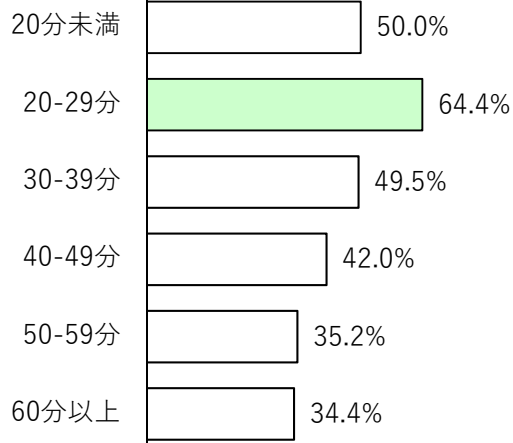
収容前に心拍再開があった群は、収容前に心拍再開がなかった群と比較して、1 か月生存率に顕著な差が見られます。

図表 2-2-32 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別 1 か月生存状況（収容前心拍再開あり群）

	搬送人員	割合	1 か月生存数	1 か月生存率
20分未満	4	0.5%	2	50.0%
20-29分	59	7.3%	38	64.4%
30-39分	208	25.7%	103	49.5%
40-49分	226	27.9%	95	42.0%
50-59分	159	19.6%	56	35.2%
60分以上	154	19.0%	53	34.4%
合計	810	100.0%	347	42.8%

平均 51 分 25 秒

[1 か月生存率]

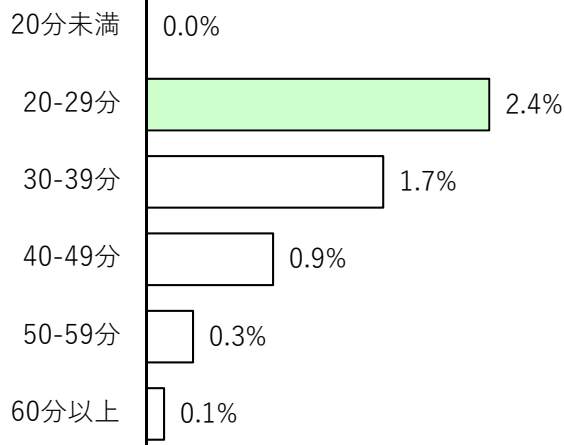


図表 2-2-33 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別 1 か月生存状況（収容前心拍再開なし群）

	搬送人員	割合	1 か月生存数	1 か月生存率
20分未満	22	0.5%	0	0.0%
20-29分	333	7.3%	8	2.4%
30-39分	1,085	23.9%	18	1.7%
40-49分	1,354	29.9%	12	0.9%
50-59分	921	20.3%	3	0.3%
60分以上	818	18.0%	1	0.1%
合計	4,533	100.0%	42	0.9%

平均 48 分 39 秒

[1 か月生存率]



(13) 市民目撃から心拍再開所要時間別1か月生存

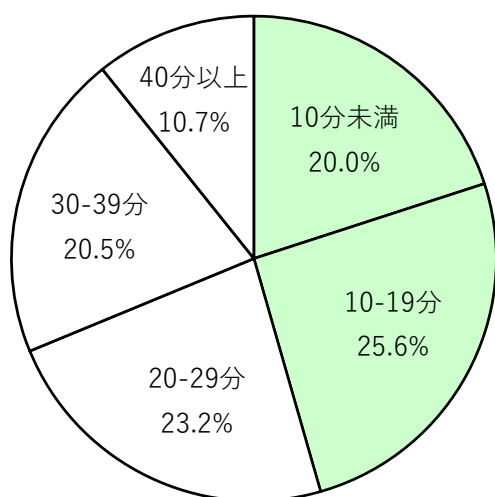
市民目撃があり、収容前に心拍再開があった傷病者 810 人のうち、市民目撃から心拍再開までの所要時間と心拍再開時期別の1か月生存状況は、次のとおりです。

市民目撃から心拍再開所要時間の平均は22分29秒で、20分未満に心拍再開した傷病者群の1か月生存率は69.1%と、20分以上に心拍再開した傷病者群の20.9%より、48.2ポイント高くなっています。

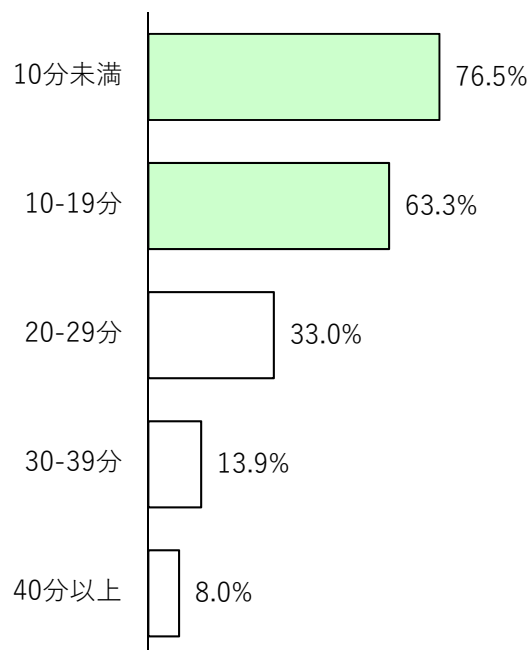
また、隊員等が到着する前にバイスタンダー等の応急手当により心拍再開した群は、全体の21.4%で、1か月生存率80.3%と、隊員等が到着後に心拍再開した群の1か月生存率32.7%とを比較すると、47.6ポイント高くなっています。

図表 2-2-34 市民目撃から初回心拍再開までの所要時間別搬送人員内訳

心停止の推定原因	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
10分未満	162	20.0%	124	76.5%
10-19分	207	25.6%	131	63.3%
20分未満 計	369	45.6%	255	69.1%
20-29分	188	23.2%	62	33.0%
30-39分	166	20.5%	23	13.9%
40分以上	87	10.7%	7	8.0%
20分以上 計	441	54.4%	92	20.9%
合計	810	100.0%	347	42.8%

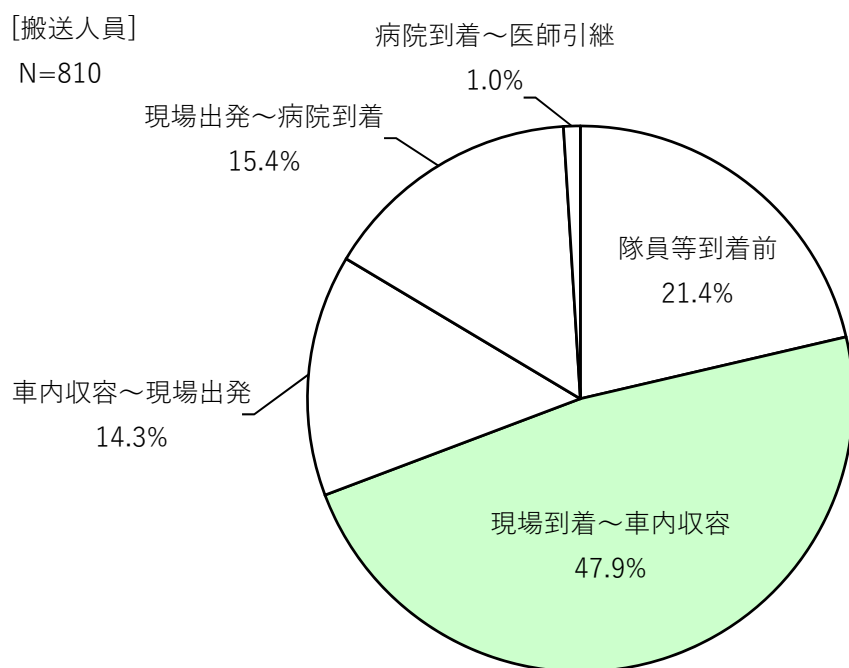
[搬送人員]
N=810

[1か月生存率]

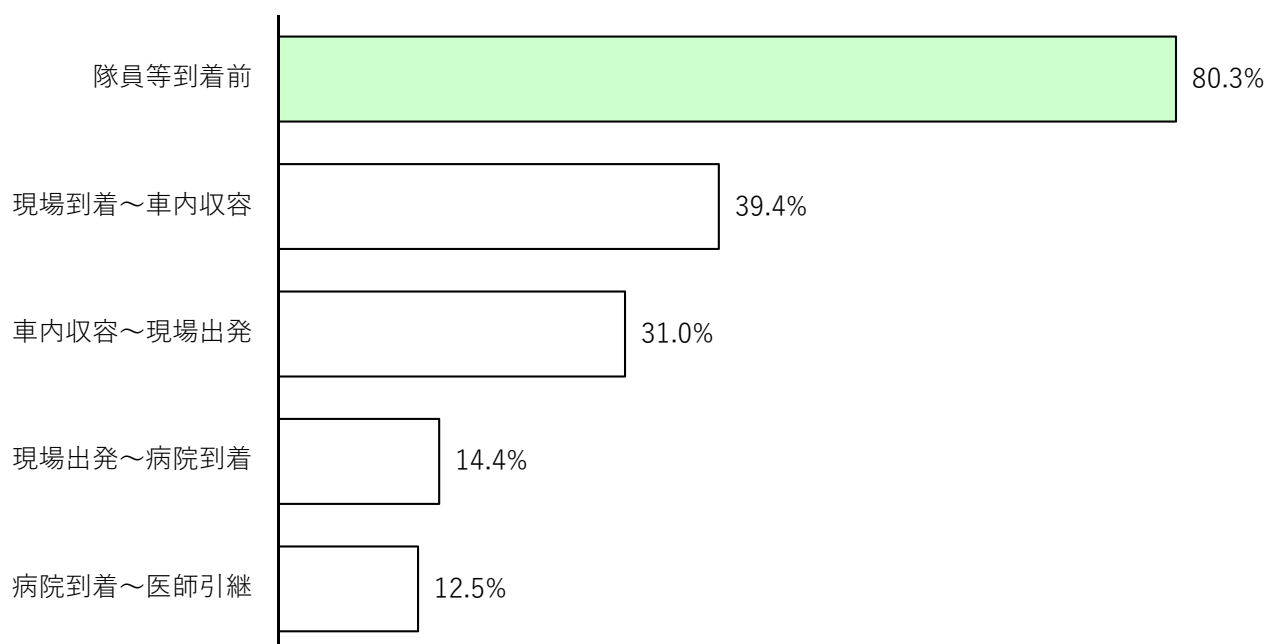


図表 2-2-35 初回心拍再開時期内訳（収容前心拍再開あり群）

再開時期	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
隊員等到着前	173	21.4%	139	80.3%
現場到着～車内収容	388	47.9%	153	39.4%
車内収容～現場出発	116	14.3%	36	31.0%
現場出発～病院到着	125	15.4%	18	14.4%
病院到着～医師引継	8	1.0%	1	12.5%
隊員等到着後計	637	78.6%	208	32.7%
合計	810	100.0%	347	42.8%



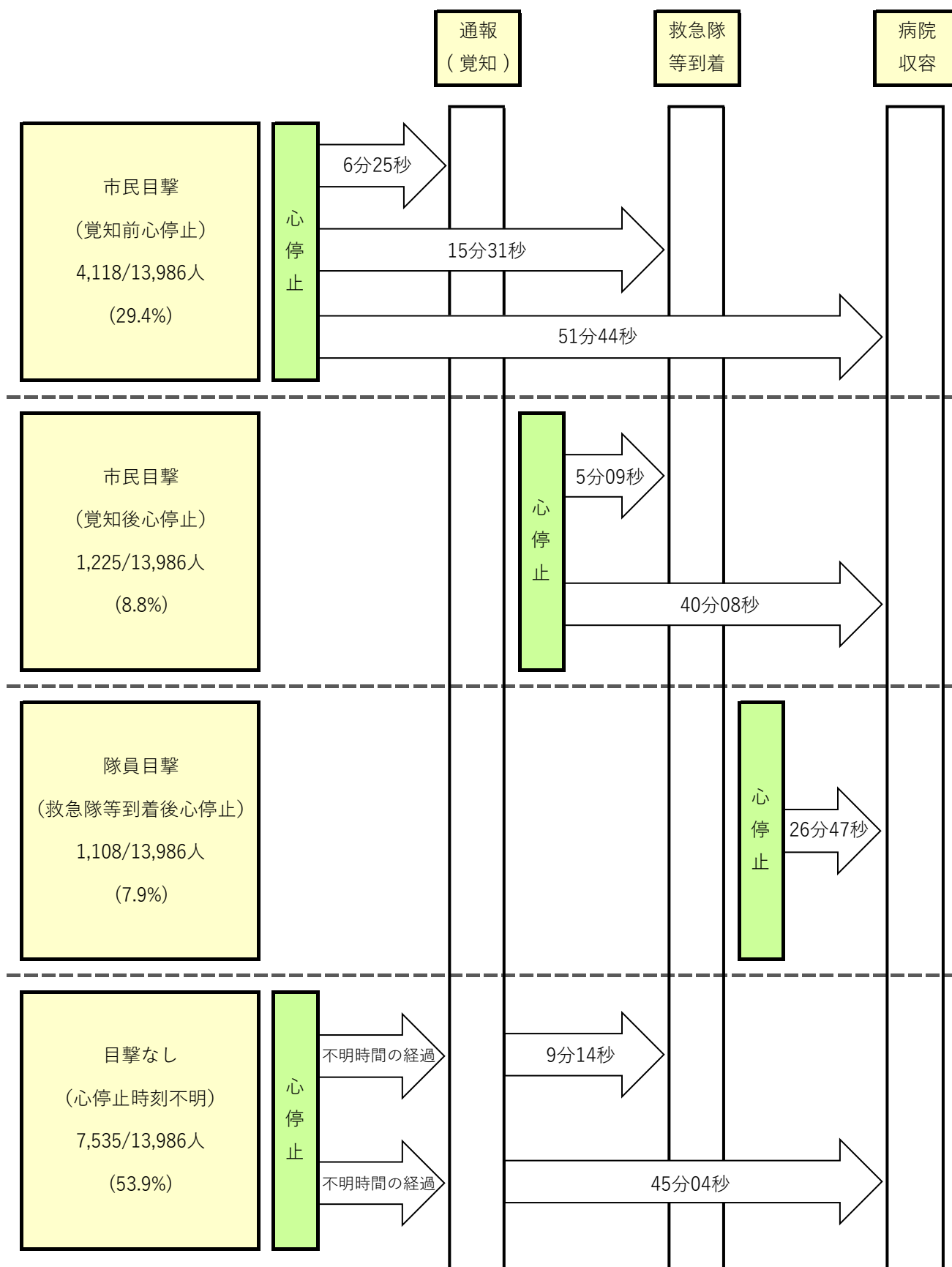
[1か月生存率]



(14) 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間

心停止傷病者が心停止となってから医療機関に収容されるまでの平均所要時間を、心停止目撃の時期別に区分して集計した結果は、次のとおりです。

図表 2-2-36 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間



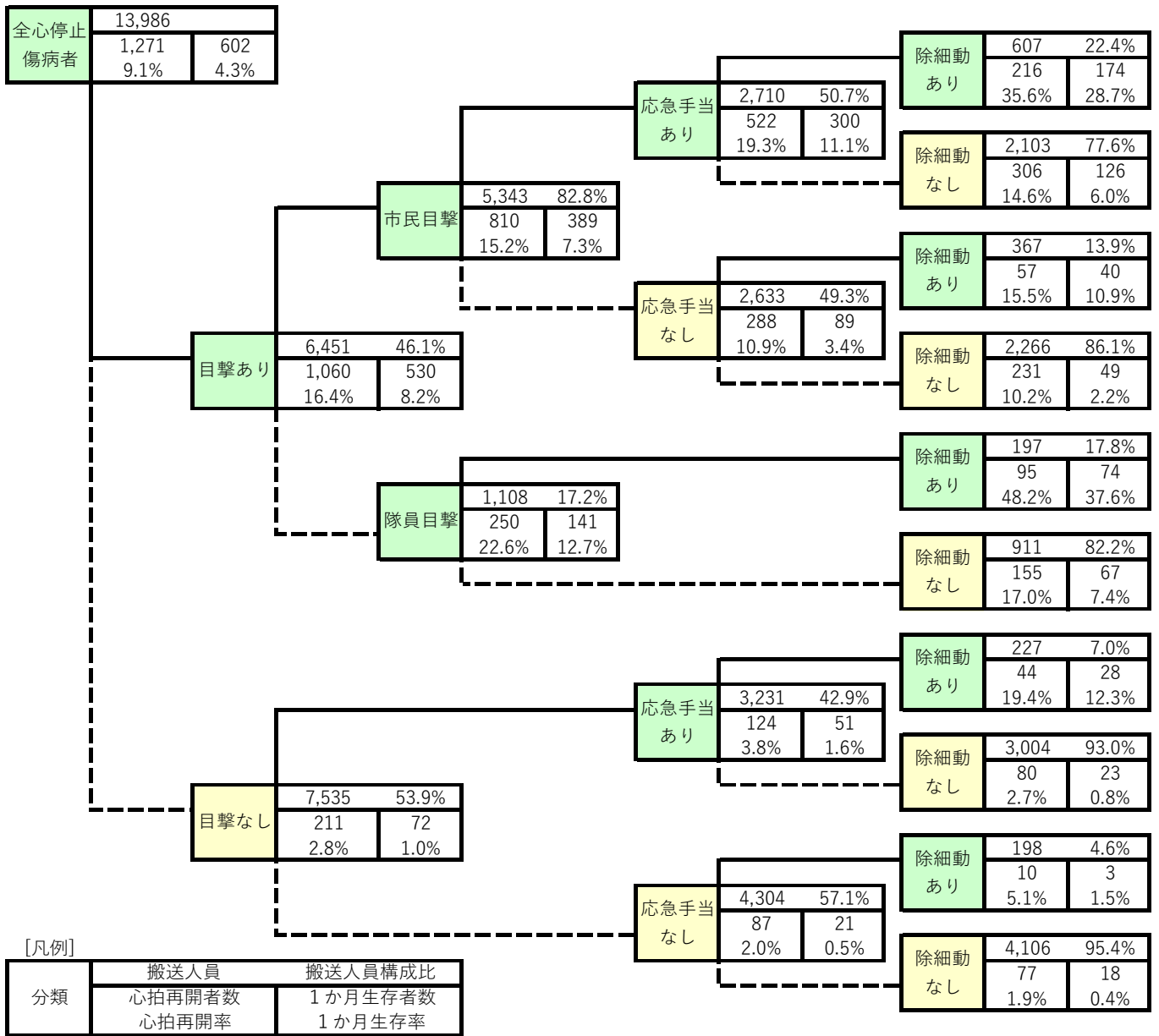
(15) 救命効果のテンプレート

前(3)から(14)の分析結果の概略を表したテンプレート（統計系統図）は次のとおりです。

テンプレートを部分的に見みると、心停止目撃、応急手当、除細動があった群の方がなかった群より心拍再開、1か月生存状況が良い結果となっていますが、なかった群の方があった群より搬送人員の実数が大幅に多いため、全体の心拍再開、1か月生存状況は良い結果とはなっていません。

あった群の搬送人員がなかった群の搬送人員を上回り、かつ「救命の連鎖」が途切れることなく行われ、救命効果が向上されることが今後望まれます。

図表 2-2-37 救命効果のテンプレート



図表 2-2-38 救命の連鎖 (Chain of Survival)



大切な命を救うために必要な行動を、迅速に途切れることなく行う重要性を表すもの。

第3節 救急処置

1 救急隊員による救急処置

全搬送人員 708,695 人で処置内容及び処置実施人数は以下のとおりです。

図表 2-3-1 救急処置内容

処置内容	処置実施人員	搬送人員に対する割合
心肺蘇生	13,333	1.9%
人工呼吸	14,870	2.1%
気道確保	34,222	4.8%
ラリングアルマスク※	35	0.0%
食道閉鎖式エアウェイ※	4,953	0.7%
気管内チューブ※	498	0.1%
静脈路確保（心肺機能停止前）※	2,158	0.3%
静脈路確保（心肺機能停止後）※	4,012	0.6%
薬剤投与（アドレナリン）※	1,668	0.2%
薬剤投与（ブドウ糖）※	684	0.1%
除細動	1,181	0.2%
血糖測定	2,098	0.3%
保温処置	406,912	57.4%
心電図測定	271,783	38.3%
酸素吸入	100,909	14.2%
固定（部分・全身）	42,995	6.1%
被覆・創傷処置	34,023	4.8%
止血処置	20,236	2.9%
医療処置継続	1,333	0.2%
冷却	3,965	0.6%

※は特定行為を示します。

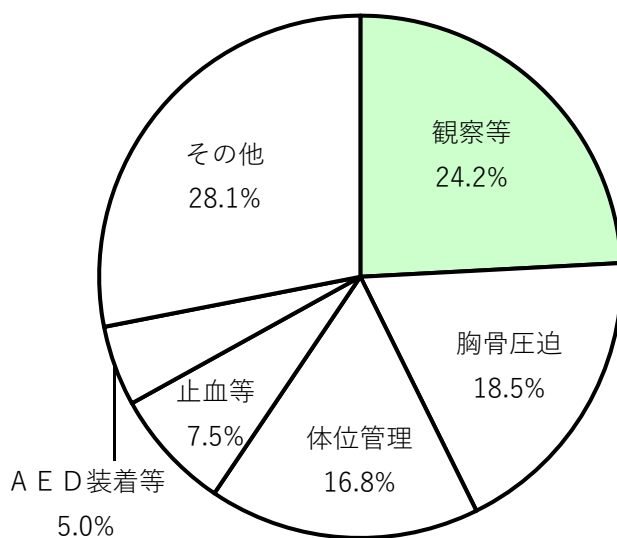
2 都民等による応急手当

(1) 応急手当の状況

傷病者に対して、家族、友人、近隣者などにより、救急隊が到着するまでの間に、28,958件の応急手当が実施されています。

図表 2-3-2 応急手当内容

応急手当内容	実施件数	割合
観察・バイタルサイン測定等	6,996	24.2%
胸骨圧迫（心マッサージ）	5,362	18.5%
体位管理	4,854	16.8%
止血・創傷処置	2,175	7.5%
A E D装着、心電図測定	1,441	5.0%
保温・冷却	937	3.2%
在宅療法・既往における処置対応	925	3.2%
移動（危険回避）	626	2.2%
人工呼吸	405	1.4%
異物除去	401	1.4%
除細動	310	1.1%
気道確保	252	0.9%
固定処置	169	0.6%
その他	4,105	14.2%
合計	28,958	100.0%

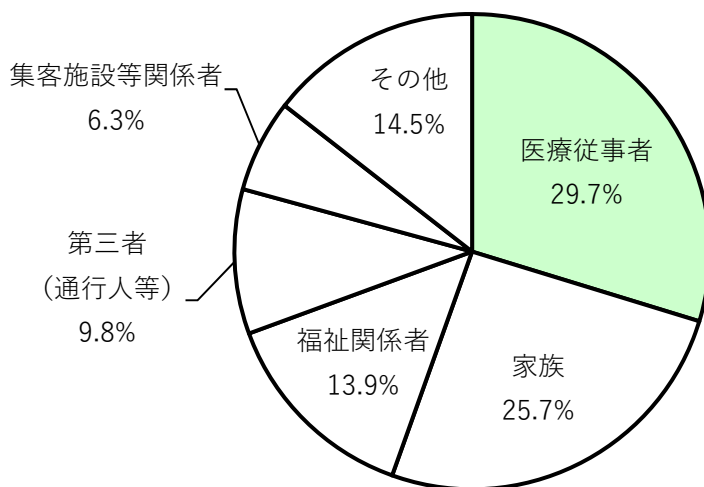


(2) 応急手当実施者

都民等による応急手当を実施者別にみると、医療従事者が最も多くなっています。

図表 2-3-3 応急手当実施者

実施者別	実施件数	割合
医療従事者	7,136	29.7%
家族	6,176	25.7%
福祉関係者	3,347	13.9%
第三者（通行人等）	2,361	9.8%
集客施設等関係者	1,514	6.3%
職場・学校関係者	1,157	4.8%
友人・近隣者	845	3.5%
警察	537	2.2%
医療機関スタッフ	500	2.1%
消防職員・消防団員	134	0.6%
その他	297	1.2%
合計	24,004	100.0%



(3) 事故種別ごとの応急手当内容・実施者

都民等による応急手当の内容と実施者を事故種別ごとにみると、次のとおりとなっています。

図表 2-3-4 事故種別ごとの応急手当内容、応急手当実施者

応急手当内容	合計	交通事故	火災事故	運動競技	自然災害	水難事故	労働災害	一般負傷	自損行為	加害	急病
観察・バイタルサイン測定等	6,996	102	1	34	-	2	22	764	20	-	6,051
胸骨圧迫（心マッサージ）	5,362	46	2	16	-	62	10	396	176	-	4,654
体位管理	4,854	231	1	43	-	2	41	1,210	34	13	3,279
止血・創傷処置	2,175	196	1	38	-	-	74	1,706	28	20	112
AED装着、心電図測定	1,441	17	1	10	-	13	3	107	19	-	1,271
保温・冷却	937	43	2	80	-	1	20	411	-	5	375
在宅療法・既往における処置対応	925	-	-	-	-	-	-	64	-	-	861
移動（危険回避）	626	71	1	9	-	17	8	200	51	1	268
人工呼吸	405	3	-	3	-	9	-	35	14	-	341
異物除去	401	1	-	-	-	-	-	306	1	-	93
除細動	310	3	-	5	-	1	2	4	-	-	295
気道確保	252	9	-	4	-	1	-	16	7	-	215
固定処置	169	27	-	61	-	-	5	69	-	-	7
その他	4,105	134	3	23	-	3	19	654	30	8	3,231
合計	28,958	883	12	326	-	111	204	5,942	380	47	21,053

処置実施者	合計	交通事故	火災事故	運動競技	自然災害	水難事故	労働災害	一般負傷	自損行為	加害	急病
医療従事者	7,136	131	1	50	-	2	28	956	32	2	5,934
家族	6,176	50	5	16	-	45	14	1,362	165	10	4,509
福祉関係者	3,347	4	-	1	-	3	1	475	7	2	2,854
第三者（通行人等）	2,361	342	-	3	-	8	7	1,058	16	9	918
集客施設等関係者	1,514	21	-	32	-	18	5	451	7	3	977
職場・学校関係者	1,157	10	-	86	-	-	113	265	15	3	665
友人・近隣者	845	23	1	54	-	2	4	231	22	2	506
警察	537	104	2	-	-	2	3	130	35	13	248
医療機関スタッフ	500	2	-	5	-	-	2	57	3	-	431
消防職員・消防団員	134	23	-	1	-	-	-	52	2	-	56
その他	297	48	1	3	-	2	2	67	1	-	173
合計	24,004	758	10	251	-	82	179	5,104	305	44	17,271

※ 応急手当実施件数は転院搬送に係るものを除きます。

※ 1人の傷病者に対して複数の処置が実施された場合は、処置者1名につき3つの処置まで計上しています。

※ 1人の傷病者に対して複数名が処置を実施した場合は、4名まで処置実施者として計上しています。

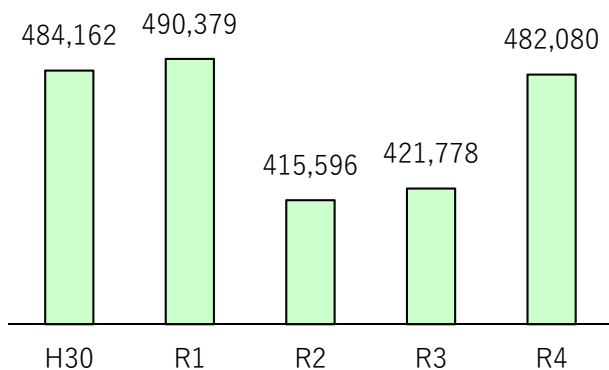
第4節 事故種別ごとの活動統計

1 事故種別ごとの搬送人員推移

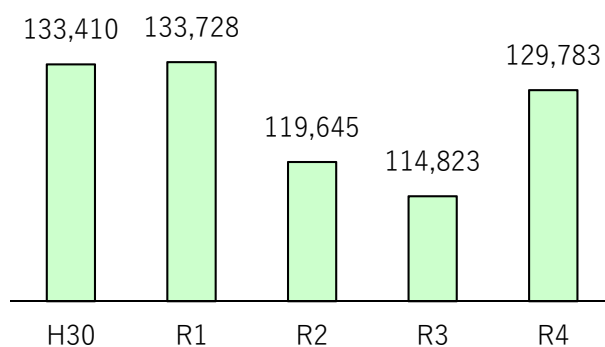
図表 2-4-1 事故種別ごとの搬送人員推移

事故種別	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
急病	484,162	490,379	415,596	421,778	482,080
一般負傷	133,410	133,728	119,645	114,823	129,783
交通事故	45,333	42,844	35,653	35,577	36,662
労働災害事故	5,222	5,314	4,450	4,501	5,118
運動競技事故	5,409	5,256	2,917	3,465	4,547
自損行為	3,608	3,833	3,978	4,051	4,525
加害	5,272	4,813	3,915	3,601	3,711
火災事故	682	606	616	565	584
水難事故	487	455	363	257	261
自然災害事故	20	14	7	10	4
転院搬送	42,823	44,658	38,499	41,659	41,420

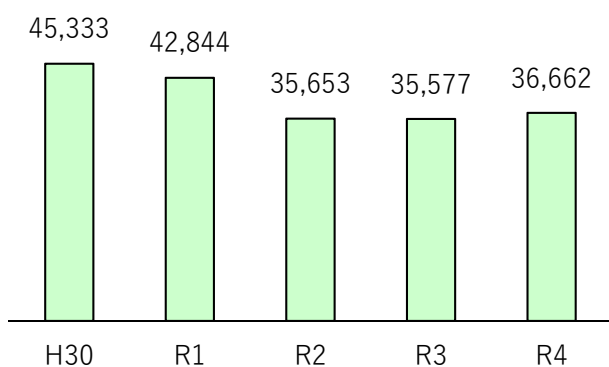
急病



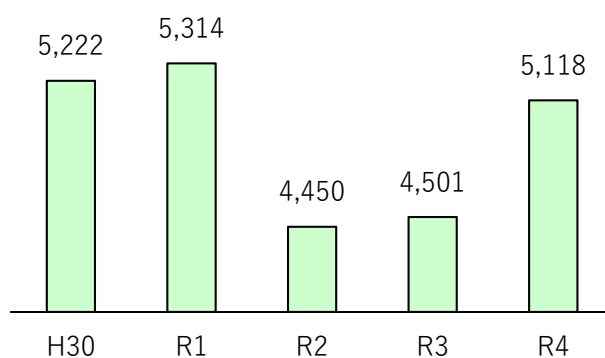
一般負傷



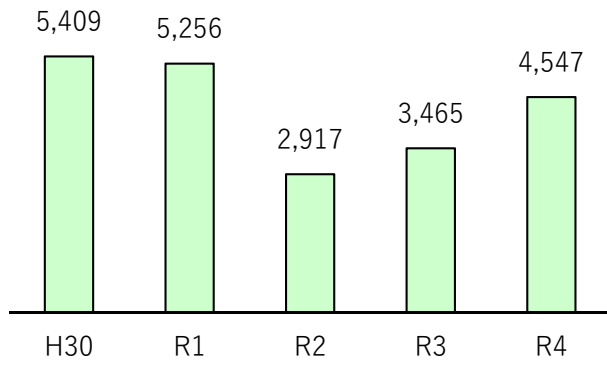
交通事故



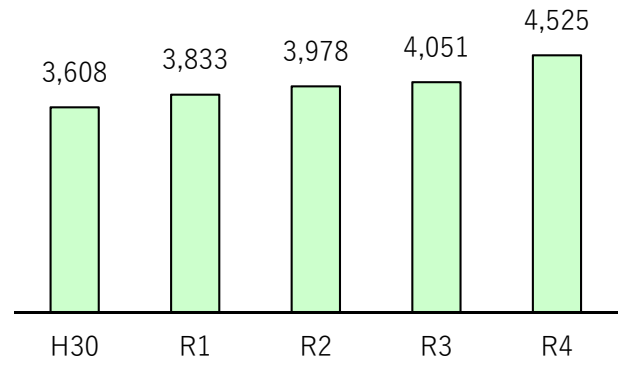
労働災害事故



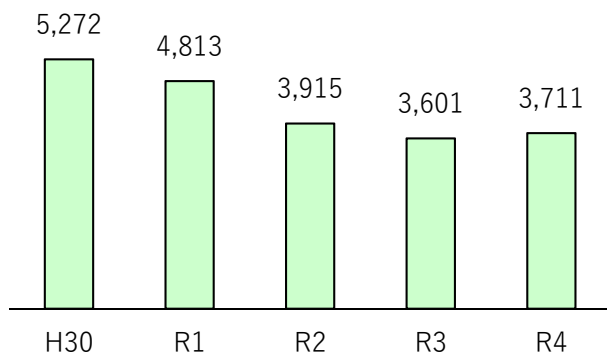
運動競技事故



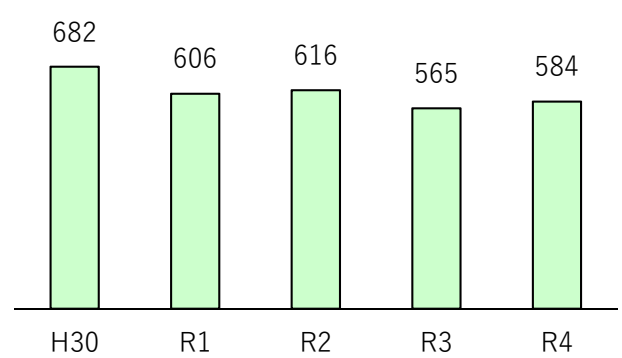
自損行為



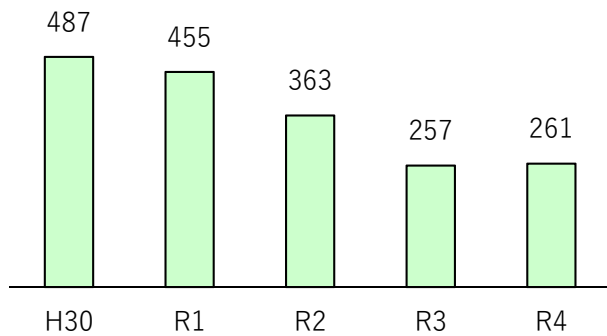
加害



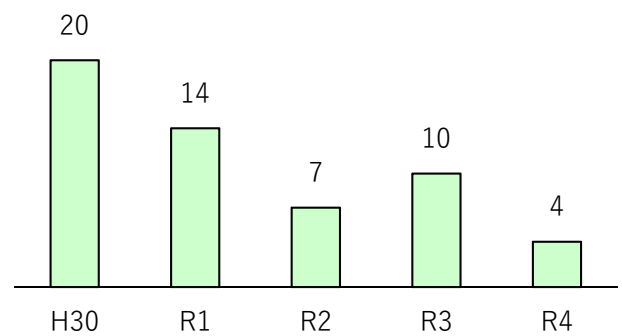
火災事故



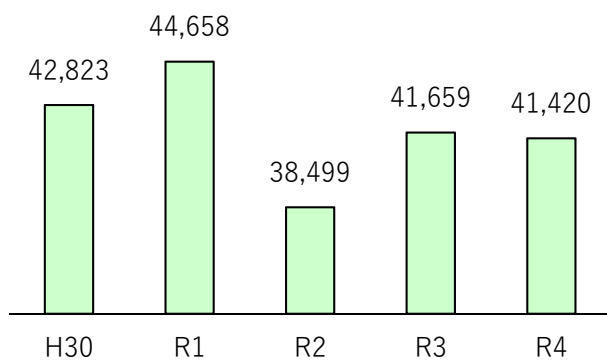
水難事故



自然災害事故



転院搬送

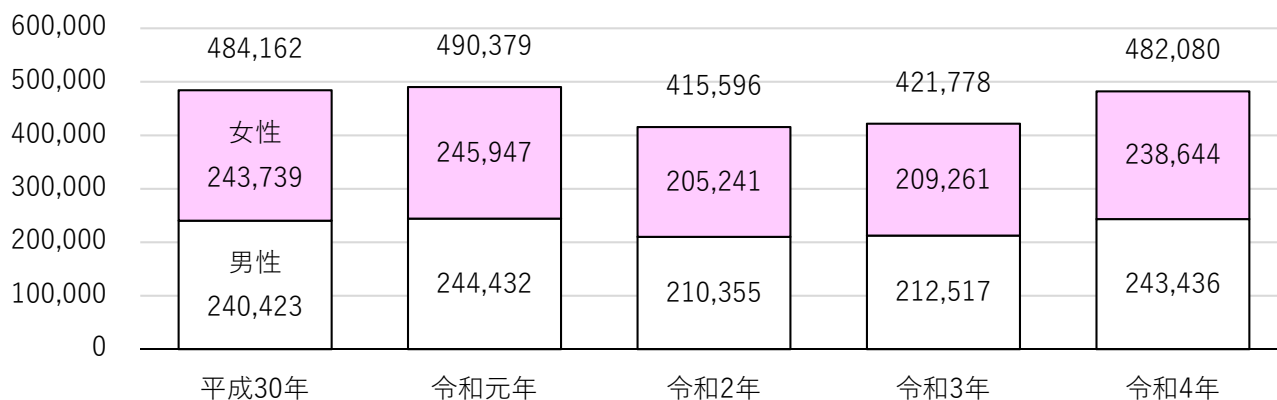


2 急病

(1) 搬送人員推移

急病の搬送人員は482,080人で、前年に比べ60,302人（14.3%）増加しています。

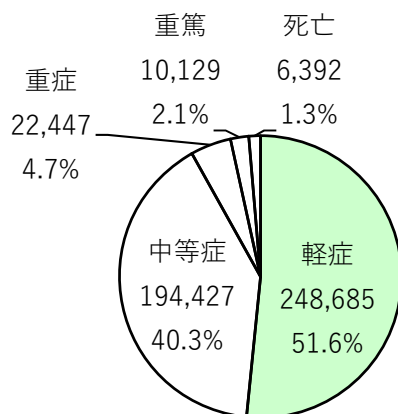
図表 2-4-2 急病の搬送人員推移



(2) 初診時程度

急病の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が51.6%を占めています。

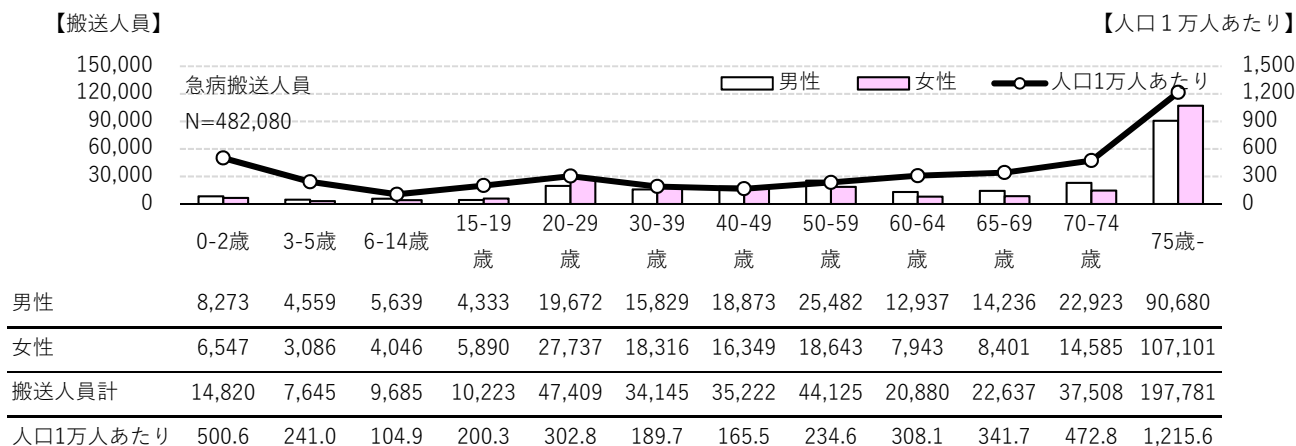
図表 2-4-3 急病の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

急病の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く全体の41.0%の割合を占めています。

図表 2-4-4 急病の年齢層別搬送人員



(4) 病態

急病の搬送人員を病態別でみると、「痛み」が最も高い割合を占めています。

図表 2-4-5 急病の病態別搬送人員

病態		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
痛み	頭痛・頭重感	7	72	467	568	2,301	1,963	1,682	1,871	606	514	611	2,727	13,389
	胸痛	1	28	146	277	1,111	1,000	1,560	2,306	958	938	1,290	5,522	15,137
	腹痛	155	464	1,357	1,980	10,250	8,064	7,020	6,827	2,512	2,183	2,992	11,155	54,959
	腰背部痛	1	1	19	99	1,007	1,589	2,150	2,406	897	793	1,297	6,472	16,731
	筋骨格系の痛み	13	44	83	57	443	542	744	1,104	652	609	1,051	5,568	10,910
	感覚器系の痛み	9	57	35	32	137	110	119	138	63	43	83	297	1,123
	その他痛み	24	57	146	178	600	411	410	510	224	260	345	1,590	4,755
意識障害	意識消失・失神 (一過性)	163	138	427	686	1,826	1,037	1,279	1,879	943	1,037	1,675	9,556	20,646
	意識障害・混濁 (遷延性)	128	117	206	223	1,369	663	927	1,566	942	994	1,809	12,064	21,008
	異常行動・言動・興奮	8	9	37	25	45	42	72	109	69	87	119	452	1,074
	無寡動・昏迷・自発性欠如	5	11	18	29	86	35	51	87	34	34	59	348	797
発熱	5,202	2,325	2,593	2,072	8,182	4,122	2,698	2,678	1,297	1,616	3,399	29,645	65,829	
痙攣・麻痺・感覚異常	痙攣	5,921	2,378	1,684	761	1,461	880	844	836	355	294	380	1,256	17,050
	不随意運動・振戦・ふるえ	79	46	42	63	204	186	178	255	100	141	222	960	2,476
	運動麻痺	4	3	7	11	76	171	471	1,177	659	829	1,269	5,366	10,043
	知覚麻痺	-	-	5	18	104	146	191	299	128	126	159	444	1,620
	言語・構語障害	-	1	3	5	30	70	189	465	303	398	668	3,111	5,243
	視野障害 (視野狭窄等)	1	6	8	6	31	34	49	83	33	42	54	177	524
	聴覚障害 (耳閉、耳鳴、難聴)	-	-	3	3	13	9	7	18	9	13	8	45	128
	その他麻痺等	1	2	3	22	95	127	158	198	108	97	135	407	1,353
めまい	dizziness (一般的めまい)	-	-	37	176	862	802	1,043	1,503	810	869	1,459	4,907	12,468
	vertigo (回転するめまい)	-	1	25	101	812	1,116	1,729	2,383	1,101	1,072	1,557	4,294	14,191
動悸等	動悸・不整脈感	2	4	48	125	838	902	1,207	1,364	637	637	928	3,098	9,790
	胸部違和感・胸内苦悶	1	1	23	30	250	246	365	678	315	340	555	3,250	6,054
呼吸器症状	鼻出血	18	39	74	21	67	96	210	358	173	207	291	1,000	2,554
	呼吸困難	136	156	128	55	247	284	430	742	496	714	1,291	7,816	12,495
	呼吸困難 (過換気)	3	-	133	514	1,964	926	715	494	94	61	48	171	5,123
	息切れ、息苦しさ	192	254	376	288	1,301	1,246	1,425	1,859	940	1,174	2,153	12,979	24,187
	咯血・血痰	5	4	4	3	15	21	24	44	29	35	79	272	535
	咳・嚔声・喀痰異常	382	395	138	38	208	196	158	167	58	104	141	1,424	3,409
	その他呼吸器症状	86	54	33	17	96	53	77	75	55	84	165	2,381	3,176
消化器症状	嘔吐・嘔気	1,187	559	677	637	4,774	2,494	1,753	1,851	786	807	1,323	6,793	23,641
	下痢	66	15	12	30	213	171	113	176	105	97	145	682	1,825
	吐血	12	10	10	13	84	136	233	414	206	203	357	1,633	3,311
	下血・血便	55	11	13	32	160	185	327	548	337	394	598	3,206	5,866
	腹部膨満感・違和感	7	4	4	7	35	54	82	121	78	91	149	604	1,236
	便秘・排便困難	24	4	5	2	21	32	46	114	83	147	263	1,359	2,100
	その他消化器症状	18	2	4	4	30	37	41	53	42	46	86	450	813
泌尿器・生殖器症状	血尿	-	1	3	7	59	41	47	88	54	51	87	659	1,097
	乏尿・尿閉	6	5	-	5	22	46	65	201	186	217	399	1,455	2,607
	生殖器出血	-	-	3	9	120	258	153	60	6	9	16	97	731
	月経異常・月経困難	-	-	2	4	17	10	17	6	-	-	-	-	56
	その他泌尿器・生殖器症状	9	6	20	27	50	40	46	51	14	20	44	190	517
産科症状・新生児	80	-	1	10	158	316	78	-	-	-	1	-	644	
皮膚症状	黄疸	1	-	-	-	-	4	3	3	6	7	9	55	88
	発疹・湿疹	230	126	130	83	278	192	173	143	44	44	50	204	1,697
	皮下出血 (紫斑等)	2	-	-	1	4	1	4	4	1	2	3	30	52
	壊疽・壊死	-	-	-	1	-	1	11	11	9	12	20	46	111
	搔痒感	15	25	35	21	89	69	49	57	10	12	15	74	471
	その他皮膚症状	35	10	16	10	42	25	56	68	33	37	43	291	666
全身症状	虚脱・脱力感・歩行困難	82	42	155	402	2,573	1,254	1,684	2,787	1,760	2,251	4,300	20,907	38,197
	脱水・栄養失調・全身衰弱	21	14	22	24	77	68	140	256	182	241	482	3,309	4,836
	不安感・孤独感	3	-	3	21	95	95	124	115	39	28	45	144	712
	悪心・悪寒	5	13	32	51	308	193	174	210	83	96	185	893	2,243
	不定愁訴	9	2	-	5	40	40	54	83	25	34	51	233	576
	その他全身症状	167	40	62	80	382	298	390	451	233	308	489	3,022	5,922
その他	239	89	168	254	1,747	996	1,177	1,775	958	1,138	2,056	12,691	23,288	

(5) 疾患

急病の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「症状・徴候・診断名不明確」が55.3%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-6 急病の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	266,691	55.3%
呼吸器系疾患	41,451	8.6%
消化器系疾患	36,542	7.6%
心・循環器疾患	25,935	5.4%
その他の疾患系	24,648	5.1%
脳血管障害	23,834	4.9%
腎泌尿器・生殖器疾患	12,187	2.5%
感覚器・神経系疾患	12,018	2.5%
その他	38,774	8.0%
合計	482,080	100.0%

(6) 発生場所

急病の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が73.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-7 急病の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	355,948	73.8%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	26,128	5.4%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	23,772	4.9%
駅	13,317	2.8%
特別養護老人ホーム	10,996	2.3%
一般飲食店	8,958	1.9%
会社・オフィス	7,987	1.7%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	3,564	0.7%
その他	31,410	6.5%
合計	482,080	100.0%

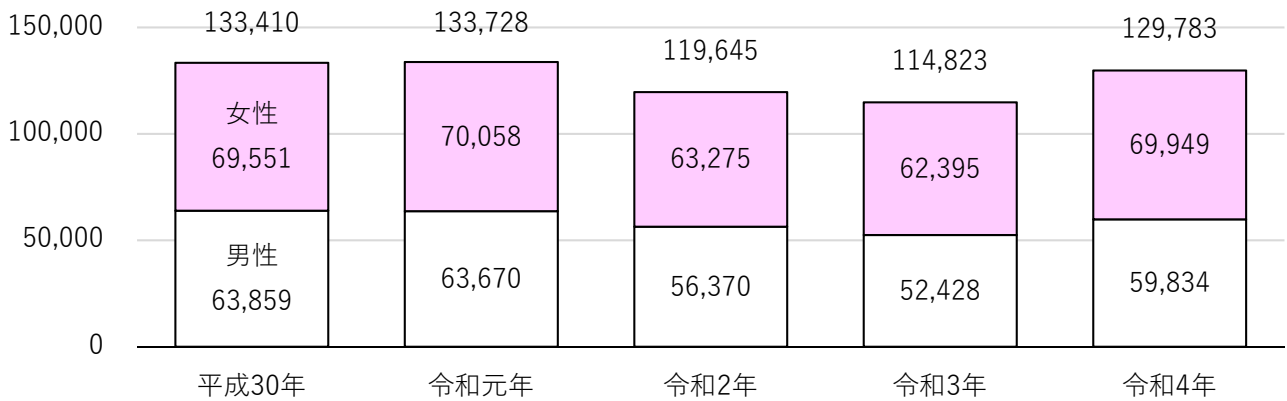
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

3 一般負傷

(1) 搬送人員推移

一般負傷（転倒や転落、誤って手を切ったなどの不慮の事故）の搬送人員は129,783人で、前年に比べ14,960人（13.0%）増加しています。

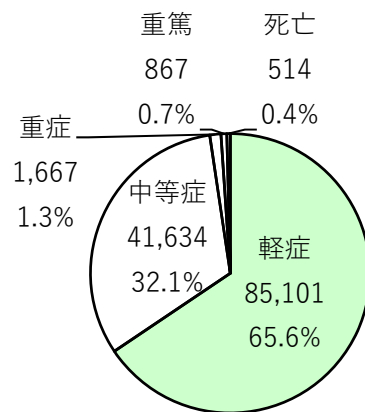
図表 2-4-8 一般負傷の搬送人員推移



(2) 初診時程度

一般負傷の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が65.6%を占めています。

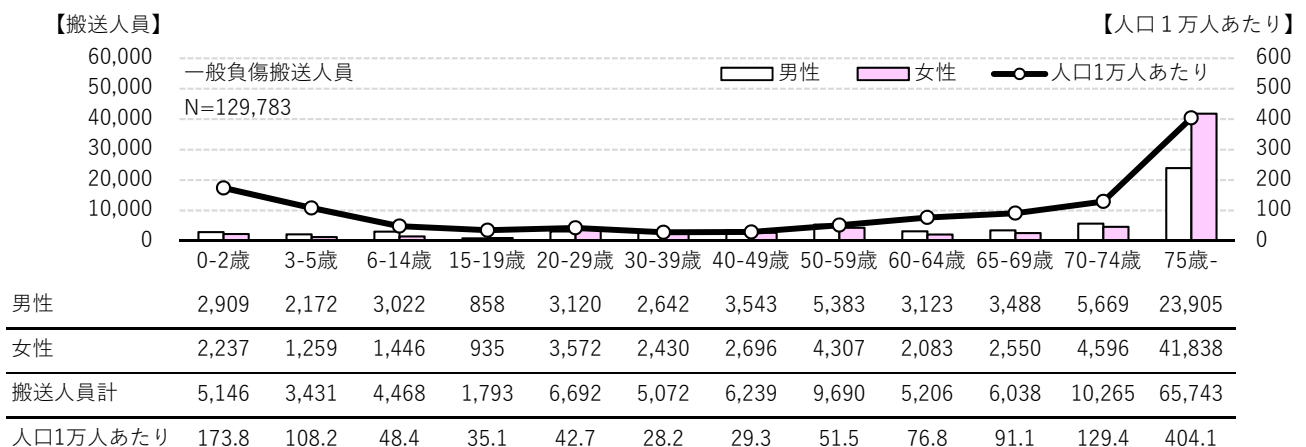
図表 2-4-9 一般負傷の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

一般負傷の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の50.7%の割合を占めています。

図表 2-4-10 一般負傷の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

一般負傷の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-11 一般負傷の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層(歳)												合計
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-	
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	57	35	67	95	367	302	279	333	149	190	314	1,644	3,832
	転倒	1,226	1,238	1,456	384	1,895	1,759	2,827	5,544	3,367	4,218	7,257	50,641	81,812
	転落・滑落	1,277	628	596	136	551	462	594	1,099	574	579	882	4,156	11,534
	墜落・飛び降り	81	53	105	15	55	34	70	46	13	15	38	60	585
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	161	115	102	32	87	78	83	90	32	33	42	179	1,034
	轢かれ・踏まれ	7	4	6	2	7	10	7	8	4	2	3	17	77
	衝突・ぶつかり	396	443	740	127	332	272	277	349	152	128	194	708	4,118
	殴打・蹴られ	5	10	39	15	44	31	32	14	6	3	3	11	213
	ひきずられ・引っ張られ	103	51	9	4	21	6	13	21	6	3	6	58	301
	噛まれ・引っ掻き	29	13	30	25	68	69	74	79	33	50	45	152	667
	埋没・圧迫・押され	8	4	9	2	14	16	11	20	5	3	6	25	123
	飛来物・落下物	16	17	61	17	42	28	33	43	15	10	18	43	343
	その他行動・作用	85	55	94	57	265	165	151	193	79	74	110	434	1,762
	不明	122	70	64	44	306	238	307	408	204	216	396	3,362	5,737
危険物接触作用 ・環境暴露	刃物・鋭利物	90	54	161	96	421	335	299	237	107	72	96	229	2,197
	鈍器物	4	7	15	1	10	7	8	9	1	1	7	6	76
	爆発・破裂物	-	-	2	-	1	2	3	1	1	1	2	-	13
	銃器・武器	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	2
	高熱固体・燃焼物	22	6	6	1	8	3	5	12	2	1	2	14	82
	高熱液体・燃焼物	235	62	64	16	80	54	78	60	27	17	40	95	828
	高熱気体・燃焼物	5	2	-	1	5	7	8	3	2	1	3	12	49
	有毒固体・燃焼物	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	4
	有毒液体・燃焼物	-	-	3	1	3	2	3	1	-	3	1	-	17
	有毒気体・燃焼物	-	-	2	1	9	9	3	2	1	-	-	6	33
	電流・感電	3	1	3	-	1	2	2	2	-	-	-	-	14
その他危険物	1	1	2	1	3	2	5	3	-	1	-	3	22	
窒息・誤飲・異物	絞首・絞首	1	-	1	1	2	9	5	5	-	2	-	4	30
	窒息・誤飲(気道)	233	47	43	3	11	15	37	71	28	33	95	840	1,456
	溺水・入水	11	3	1	1	1	-	3	2	6	12	24	197	261
	異物(食道・消化器)	453	124	86	17	62	49	57	88	40	29	69	421	1,495
	異物(感覚器官)	35	43	10	4	29	13	15	19	8	2	7	21	206
	異物(性器・泌尿器)	1	-	2	-	3	2	3	1	1	1	2	12	28
	その他窒息・異物	50	18	9	5	10	8	5	7	2	4	6	41	165
薬物服用 ・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	8	1	23	132	418	223	184	122	29	22	31	54	1,247
	麻薬・覚醒剤	-	-	-	6	23	10	3	2	-	-	-	1	45
	その他医薬品	25	9	40	98	229	122	100	77	27	14	20	72	833
	消毒剤・洗浄剤	11	1	4	5	9	19	8	21	4	3	5	26	116
	有機溶剤	2	-	-	-	1	2	1	1	-	1	-	1	9
	殺虫剤・農薬・除草剤	2	1	1	-	3	7	-	7	2	4	3	17	47
	重金属・腐食剤	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	日常生活用品	35	23	19	6	46	32	24	17	6	7	7	20	242
	自然毒・食中毒	75	53	79	43	132	81	54	55	15	13	11	21	632
その他薬物・中毒	35	19	32	56	376	121	82	67	25	17	17	23	870	
自然環境作用	高温環境	13	25	211	205	405	283	341	401	178	198	410	1,797	4,467
	低温環境	-	-	-	-	6	7	6	12	9	11	35	141	227
	その他自然環境	-	1	3	1	5	3	5	7	1	1	1	12	40
その他	222	194	268	136	324	173	134	130	44	43	57	166	1,891	

(5) 外傷形態

一般負傷の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が47.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-12 一般負傷の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	62,064	47.8%
骨折	23,903	18.4%
外傷系その他	16,055	12.4%
開放創・離断	7,548	5.8%
症状・徴候・診断名不明確	6,324	4.9%
脱臼・捻挫	3,820	2.9%
中毒	2,655	2.0%
窒息・異物誤飲	2,629	2.0%
その他	4,785	3.7%
合計	129,783	100.0%

(6) 発生場所

一般負傷の搬送人員を発生場所別でみると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が52.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-13 一般負傷の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	67,652	52.1%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	28,890	22.3%
駅	5,873	4.5%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	5,301	4.1%
一般飲食店	3,008	2.3%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	2,222	1.7%
特別養護老人ホーム	1,785	1.4%
デパート・スーパー・量販店	1,743	1.3%
その他	13,309	10.3%
合計	129,783	100.0%

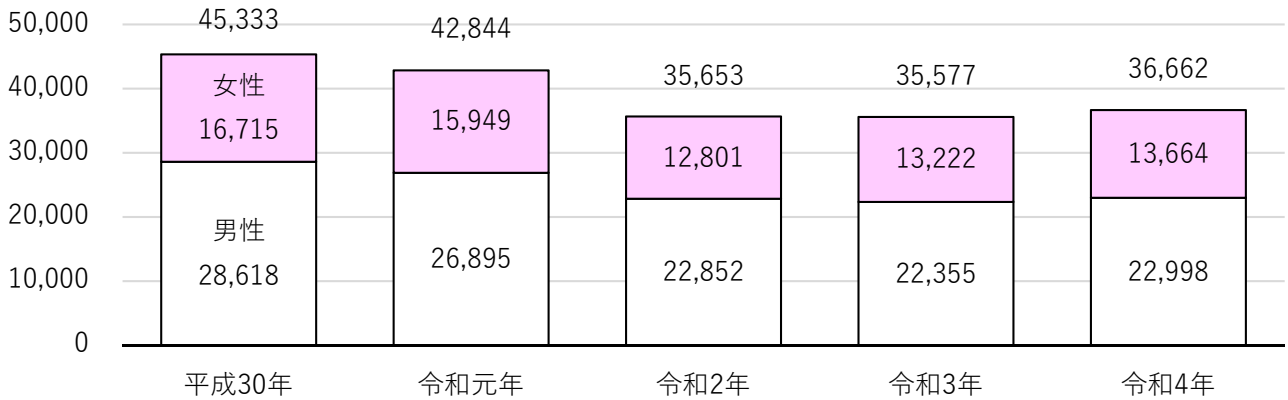
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

4 交通事故

(1) 搬送人員推移

交通事故（交通機関相互の衝突、接触又は単一事故、歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故）の搬送人員は 36,662 人で、前年に比べ 1,085 人（3.0%）増加しています。

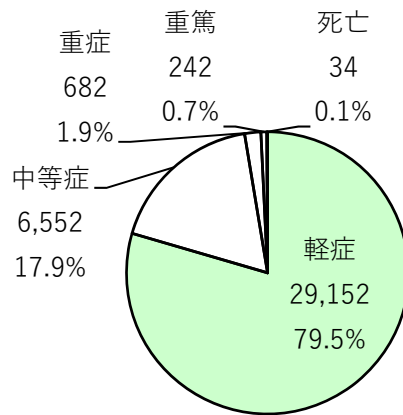
図表 2-4-14 交通事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

交通事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が 79.5% を占めています。

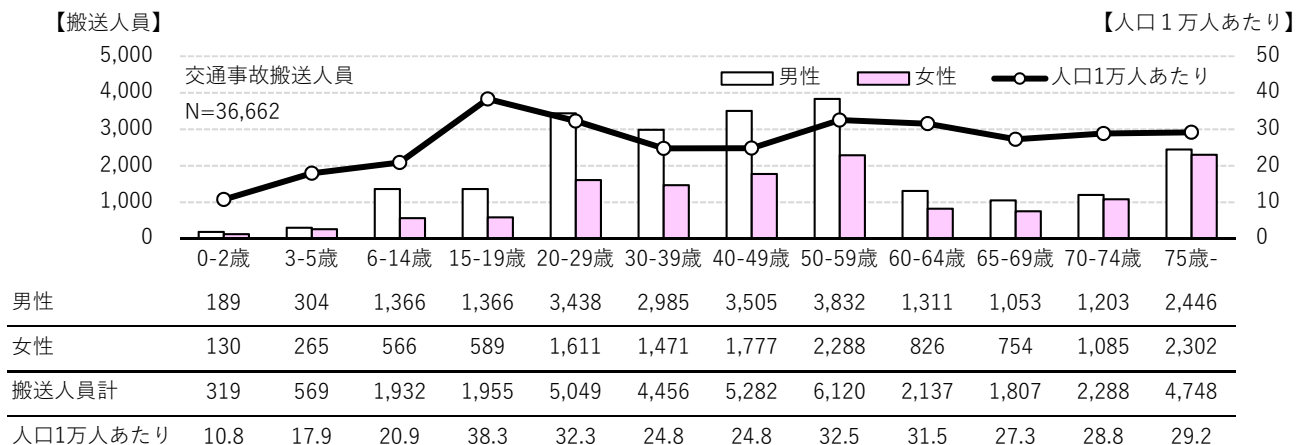
図表 2-4-15 交通事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

交通事故の搬送人員を年齢層別で見ると、20 歳代から 50 歳代が多く、各年齢層ともに男性が多くなっています。また、人口に対する比率は、15 歳から 19 歳が最も高くなっています。

図表 2-4-16 交通事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

交通事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「自転車乗車」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-17 交通事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
交通事故等	歩行者で受傷	44	139	428	83	526	420	531	738	280	241	344	866	4,640
	自動車乗車で受傷	88	88	188	209	1,249	1,057	1,344	1,524	518	380	387	616	7,648
	自動二輪乗車で受傷	2	2	32	468	1,465	1,077	1,224	1,279	358	209	182	183	6,481
	自転車乗車で受傷	182	333	1,267	1,191	1,777	1,877	2,159	2,537	973	965	1,365	3,040	17,666
	鉄道乗車で受傷	1	1	2	-	3	3	3	1	-	1	1	5	21
	船舶乗船で受傷	-	-	-	-	1	1	2	2	-	-	-	-	6
	その他交通機関で受傷	2	6	14	2	20	15	13	27	3	6	4	30	142
不明	-	-	1	2	8	6	6	12	5	5	5	8	58	

※「歩行者で受傷」は、歩行者が自動車、二輪車及び自転車等と衝突・接触し受傷したものです。

※「自動車乗車で受傷」及び「自転車乗車で受傷」等は、運転中及び同乗中のものを含みます。

(5) 外傷形態

交通事故の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が 65.4%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-18 交通事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	23,995	65.4%
外傷系その他	4,770	13.0%
骨折	3,261	8.9%
脱臼・捻挫	2,346	6.4%
開放創・離断	854	2.3%
脊椎・髄損傷	560	1.5%
症状・徴候・診断名不明確	471	1.3%
内部・臓器損傷	154	0.4%
その他	251	0.7%
合計	36,662	100.0%

(6) 発生場所

交通事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「一般道路（公道・私道・施設内道路）」が 91.0% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-19 交通事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
一般道路（公道・私道・施設内道路）	33,358	91.0%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	937	2.6%
高速道路・自動車専用道路	934	2.5%
駐車場・駐輪施設	216	0.6%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	149	0.4%
線路・軌道敷	136	0.4%
警察署・交番	115	0.3%
コンビニエンスストア	114	0.3%
その他	703	1.9%
合計	36,662	100.0%

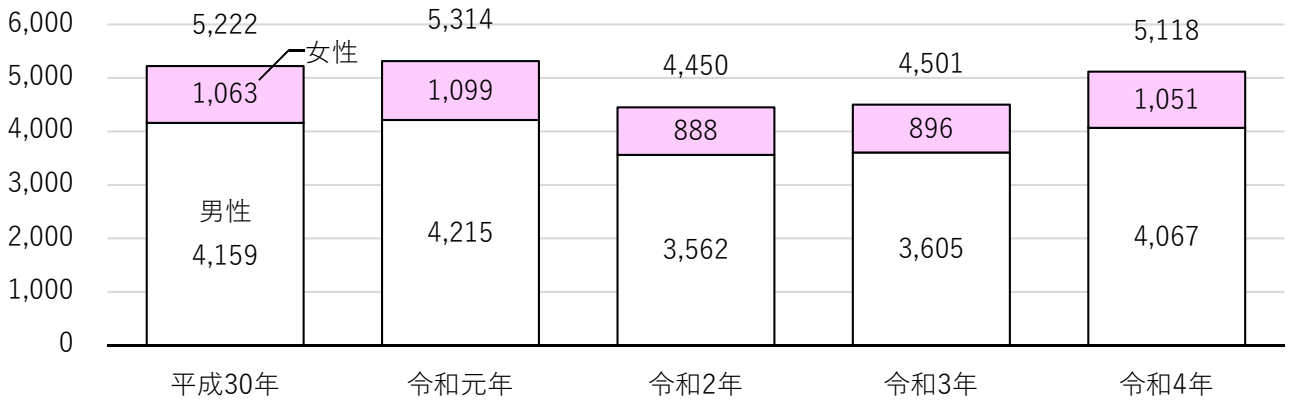
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

5 労働災害事故

(1) 搬送人員推移

労働災害事故（工場、事業所、作業所、工事現場等において就業中に発生した事故）の搬送人員は5,118人で、前年に比べ617人（13.7%）増加しています。

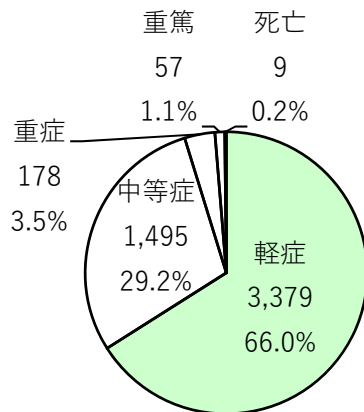
図表 2-4-20 労働災害事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

労働災害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が66.0%を占めています。

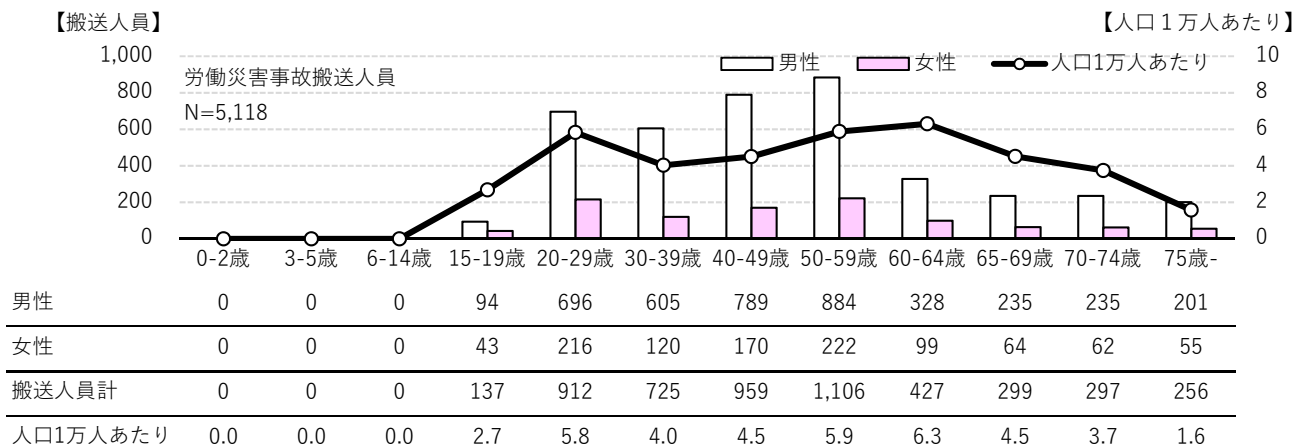
図表 2-4-21 労働災害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

労働災害事故の搬送人員を年齢層別で見ると、20歳代から50歳代の男性が多く、人口に対する比率は、20歳から69歳が高くなっています。また、各年齢層ともに男性が多くなっています。

図表 2-4-22 労働災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

労働災害事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-23 労働災害事故の事故発症時動作別搬送人員図表

事故発症時動作		年齢層(歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	3	22	36	14	36	7	6	2	2	128
	転倒	-	-	-	12	96	83	155	240	123	98	81	93	981
	転落・滑落	-	-	-	11	90	87	159	226	95	58	75	57	858
	墜落・飛び降り	-	-	-	1	30	26	36	42	23	16	19	8	201
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	-	8	125	112	145	157	50	34	30	27	688
	轢かれ・踏まれ	-	-	-	1	9	13	12	13	6	5	2	-	61
	衝突・ぶつかり	-	-	-	16	84	83	108	123	42	19	25	20	520
	殴打・蹴られ	-	-	-	-	4	2	3	1	1	-	-	-	11
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	-	1	2	2	3	5	1	-	1	-	15
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	1	5	11	3	4	1	1	3	-	29
	埋没・圧迫・押され	-	-	-	-	3	4	7	8	-	-	2	-	24
	飛来物・落下物	-	-	-	4	39	16	32	29	10	7	4	5	146
	その他行動・作用	-	-	-	5	40	24	33	19	4	4	3	1	133
不明	-	-	-	-	10	1	3	8	2	6	5	3	38	
危険物接触作用 ・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	-	43	228	162	147	124	41	29	35	24	833
	鈍器物	-	-	-	-	9	3	6	2	3	1	-	2	26
	爆発・破裂物	-	-	-	1	-	1	3	1	-	-	-	-	6
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	2	2	2	-	1	-	-	-	-	7
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	12	43	17	10	10	2	2	1	1	98
	高熱気体・燃焼物	-	-	-	-	5	-	3	-	-	-	-	-	8
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	5	7	1	2	-	2	-	1	18
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	9	1	-	1	-	-	12
	電流・感電	-	-	-	1	7	1	3	2	-	-	-	-	14
その他危険物	-	-	-	-	-	1	4	2	1	-	-	-	8	
窒息・誤飲・異物	異物(感覚器官)	-	-	-	1	3	-	2	2	1	-	1	-	10
薬物服用 ・吸入・中毒	その他医薬品	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
	消毒剤・洗浄剤	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-	-	-	4
	有機溶剤	-	-	-	-	2	3	1	1	1	-	-	-	8
	日常生活用品	-	-	-	-	3	-	2	1	-	-	-	-	6
	自然毒・食中毒	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	2
	その他薬物・中毒	-	-	-	-	6	2	1	1	1	-	-	-	11
自然環境作用	高温環境	-	-	-	12	30	20	49	39	11	10	8	11	190
	低温環境	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	2
その他	-	-	-	2	6	3	4	3	1	-	-	1	20	

(5) 外傷形態

労働災害事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「打撲・血腫・挫傷」が38.5%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-24 労働災害事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	1,972	38.5%
開放創・離断	1,082	21.1%
骨折	754	14.7%
外傷系その他	601	11.7%
症状・徴候・診断名不明確	214	4.2%
脱臼・捻挫	165	3.2%
熱傷Ⅱ度以下	120	2.3%
筋・骨格系疾患	43	0.8%
その他	167	3.3%
合計	5,118	100.0%

(6) 発生場所

労働災害事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「工場・製造所・作業場」が21.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-25 労働災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
工場・製造所・作業場	1,081	21.1%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	550	10.7%
一般飲食店	524	10.2%
建築・工事現場	488	9.5%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	480	9.4%
会社・オフィス	424	8.3%
デパート・スーパー・量販店	214	4.2%
一般小売・販売店	147	2.9%
その他	1,210	23.6%
合計	5,118	100.0%

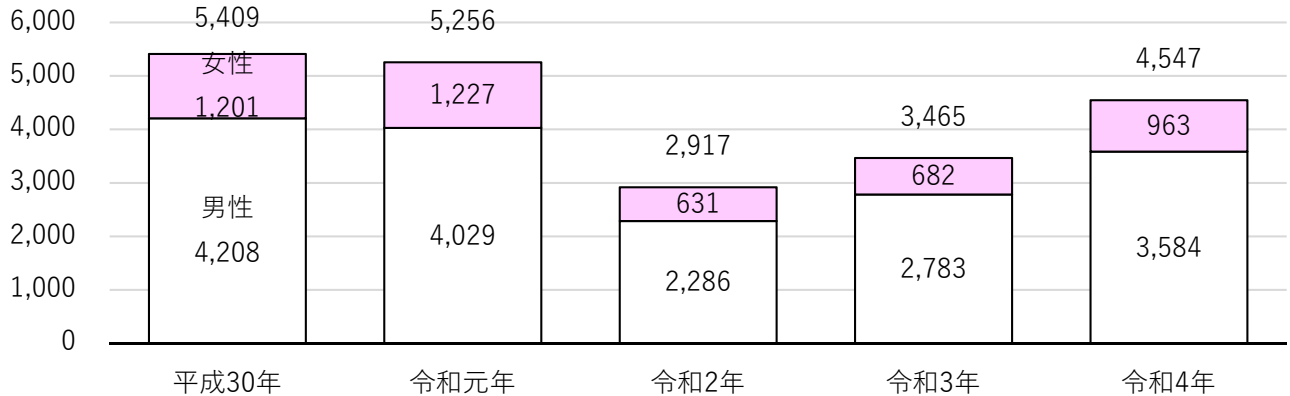
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

6 運動競技事故

(1) 搬送人員推移

運動競技事故（スポーツの実施者や関係者などで、スポーツに関連して受傷した事故）の搬送人員は4,547人で、前年に比べ1,082人（31.2%）増加しています。

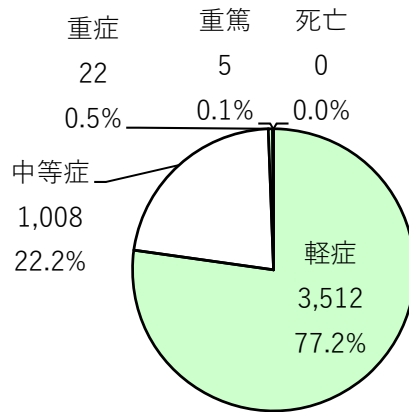
図表 2-4-26 運動競技事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

運動競技事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が77.2%を占めています。

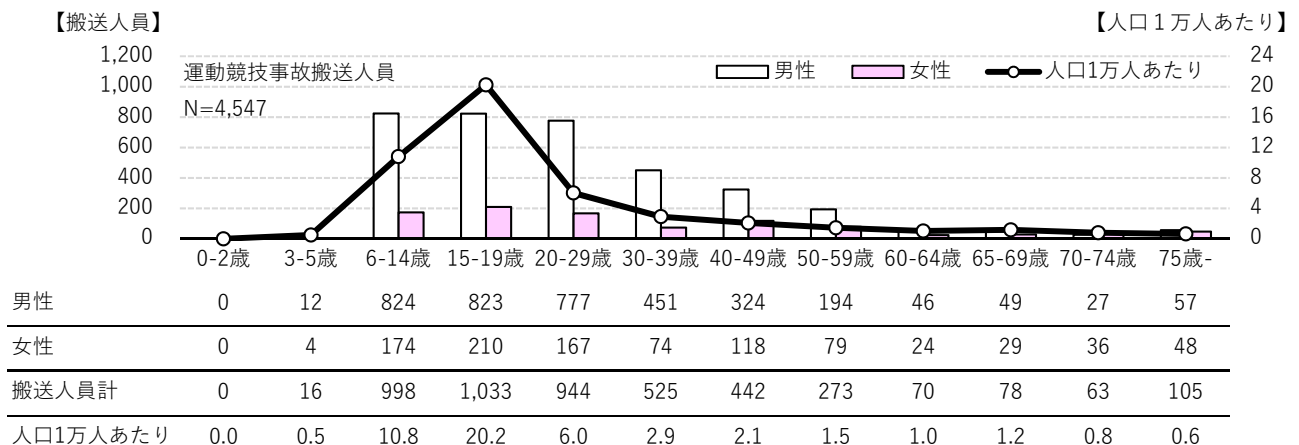
図表 2-4-27 運動競技事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

運動競技事故の搬送人員を年齢層別で見ると、6歳から29歳の男性が多く、人口に対する比率は、15歳から19歳が最も高くなっています。

図表 2-4-28 運動競技事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

運動競技事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-29 運動競技事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	65	69	139	148	115	58	17	12	11	5	639
	転倒	-	5	430	267	199	106	117	99	29	36	34	76	1,398
	転落・滑落	-	2	39	28	30	15	12	7	2	2	1	2	140
	墜落・飛び降り	-	2	8	4	7	2	3	-	-	-	-	-	26
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	14	23	31	13	10	5	-	-	-	-	96
	轢かれ・踏まれ	-	1	5	1	6	2	2	2	-	-	-	-	19
	衝突・ぶつかり	-	5	289	430	308	91	87	39	11	11	8	11	1,290
	殴打・蹴られ	-	1	28	27	57	30	11	5	-	-	-	-	159
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	5	8	7	4	2	-	-	1	-	-	27
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	埋没・圧迫・押され	-	-	-	3	6	2	1	1	-	1	-	-	14
	飛来物・落下物	-	-	35	50	24	7	7	8	-	3	3	2	139
	その他行動・作用	-	-	42	73	106	95	60	34	7	7	5	3	432
	不明	-	-	4	3	3	3	2	2	1	2	1	-	21
危険物接触作用 ・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	1	-	3	-	1	-	-	1	-	1	7
	鈍器物	-	-	4	5	-	-	1	-	-	-	-	-	10
窒息・誤飲・異物	溺水・入水	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	4
	異物 (食道・消化器)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
自然環境作用	高温環境	-	-	20	29	16	7	8	8	2	1	-	4	95
	その他自然環境	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
その他		-	-	5	8	2	-	3	5	-	-	-	1	24

(5) 外傷形態

運動競技事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「打撲・血腫・挫傷」が36.6%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-30 運動競技事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	1,666	36.6%
骨折	937	20.6%
脱臼・捻挫	903	19.9%
外傷系その他	498	11.0%
症状・徴候・診断名不明確	225	4.9%
開放創・離断	137	3.0%
筋・骨格系疾患	49	1.1%
脊椎・髄損傷	45	1.0%
その他	87	1.9%
合計	4,547	100.0%

(6) 発生場所

運動競技事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「野球場・運動場・体育館」が42.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-31 運動競技事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
野球場・運動場・体育館	1,914	42.1%
小・中・高等・大学等	1,212	26.7%
野球場・運動場・体育館、スポーツクラブ・ジム等以外の運動施設	371	8.2%
スポーツクラブ・ジム	248	5.5%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	211	4.6%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	129	2.8%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	108	2.4%
警察署・交番	50	1.1%
その他	304	6.7%
合計	4,547	100.0%

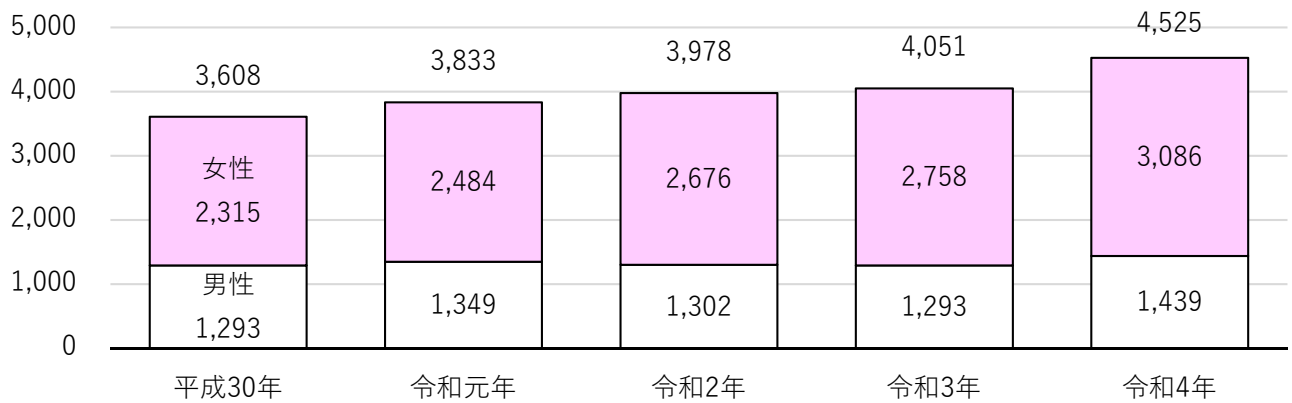
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

7 自損行為

(1) 搬送人員推移

自損行為（故意に自分自身に傷害を加えた事故）の搬送人員は 4,525 人で、前年に比べ 474 人（11.7%）増加しています。

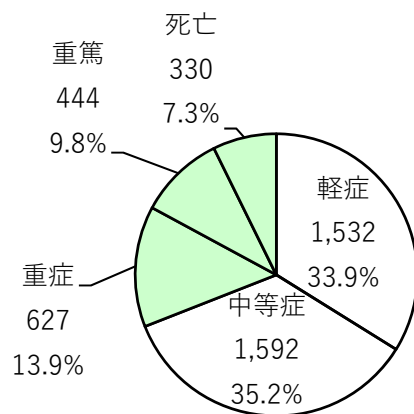
図表 2-4-32 自損行為の搬送人員推移



(2) 初診時程度

自損行為の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が 31.0%を占めています。

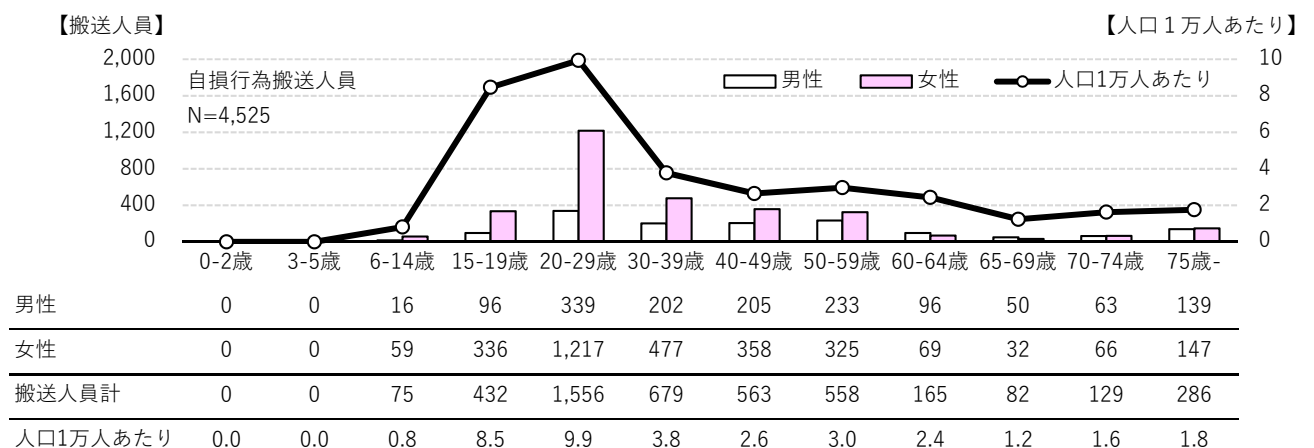
図表 2-4-33 自損行為の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

自損行為の搬送人員を年齢層別で見ると、20歳代の女性が最も多く、人口に対する比率は、15歳から29歳が高くなっています。

図表 2-4-34 自損行為の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

自損行為の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「睡眠薬・鎮痛・鎮静剤」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-35 自損行為の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	1	-	4
	転倒	-	-	-	-	4	1	-	-	1	-	-	1	7
	転落・滑落	-	-	1	8	30	18	10	16	4	2	3	8	100
	墜落・飛び降り	-	-	7	30	75	39	44	36	6	10	9	17	273
	轢かれ・踏まれ	-	-	-	1	3	-	2	-	-	-	-	-	6
	衝突・ぶつかり	-	-	-	1	18	4	6	2	3	2	-	1	37
	殴打・蹴られ	-	-	-	1	2	1	4	-	-	-	-	-	8
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	2
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	埋没・圧迫・押され	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	2
	その他行動・作用	-	-	1	-	15	4	1	2	2	-	2	2	29
	不明	-	-	3	1	7	6	8	4	1	1	3	3	37
危険物接触作用 ・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	12	75	276	128	108	122	45	18	29	81	894
	鈍器物	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	1	5
	銃器・武器	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2
	高熱気体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	有毒固体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	3
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	2	20	6	2	4	-	2	2	1	39
	電流・感電	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	2
その他危険物	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	9	29	125	90	106	146	52	27	36	90	710
	窒息・誤飲 (気道)	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	-	4
	溺水・入水	-	-	-	-	4	1	1	1	1	2	3	6	19
	異物 (食道・消化器)	-	-	-	2	2	1	2	-	-	-	-	-	7
	異物 (感覚器官)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	その他窒息・異物	-	-	-	1	2	-	-	2	1	-	-	-	6
薬物服用 ・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	-	-	21	163	651	265	194	146	35	12	24	50	1,561
	麻薬・覚醒剤	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	その他医薬品	-	-	17	95	255	75	59	46	7	4	10	11	579
	消毒剤・洗浄剤	-	-	2	5	10	9	5	8	2	-	3	6	50
	有機溶剤	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2
	殺虫剤・農薬・除草剤	-	-	-	-	4	1	-	2	-	-	2	1	10
	重金属・腐食剤	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	日常生活用品	-	-	-	2	12	5	1	4	2	-	-	2	28
	自然毒・食中毒	-	-	-	-	-	2	1	-	-	1	-	-	4
その他薬物・中毒	-	-	1	10	31	15	3	10	-	-	1	1	72	
自然環境作用	-	-	-	2	1	-	-	-	1	-	-	-	4	
その他	-	-	1	2	1	2	1	-	-	1	-	1	9	

(5) 外傷形態

自損行為の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「中毒」が41.7%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-36 自損行為の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
中毒	1,886	41.7%
外傷系その他	717	15.8%
開放創・離断	664	14.7%
症状・徴候・診断名不明確	481	10.6%
打撲・血腫・挫傷	225	5.0%
窒息・異物誤飲	196	4.3%
精神系疾患	126	2.8%
骨折	62	1.4%
その他	168	3.7%
合計	4,525	100.0%

(6) 発生場所

自損行為の搬送人員を発生場所別でみると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が81.3%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-37 自損行為の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	3,678	81.3%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	244	5.4%
警察署・交番	92	2.0%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	71	1.6%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	62	1.4%
駅	47	1.0%
河川・水路	46	1.0%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	40	0.9%
その他	245	5.4%
合計	4,525	100.0%

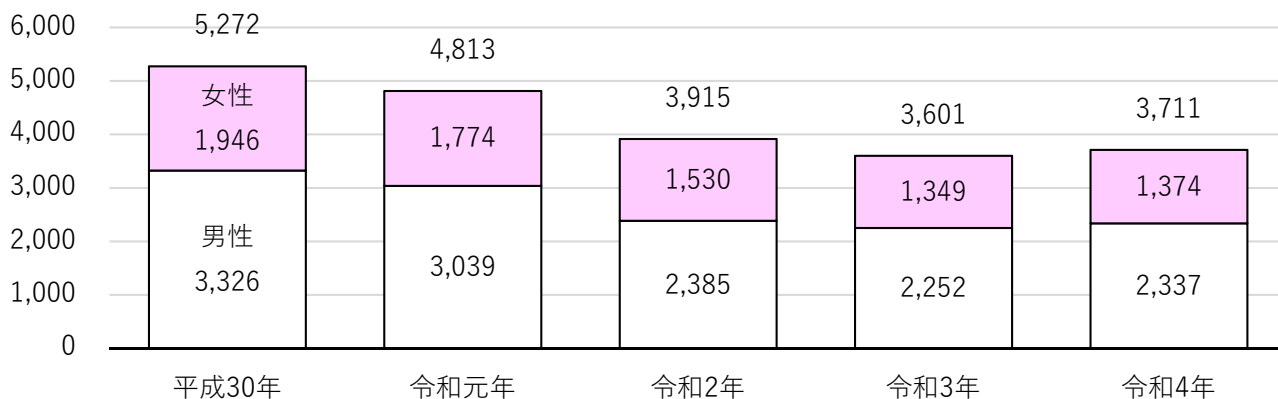
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

8 加害

(1) 搬送人員推移

加害（故意に他人によって傷害等を加えられた事故）の搬送人員は 3,711 人で、前年に比べ 110 人（3.1%）増加しています。

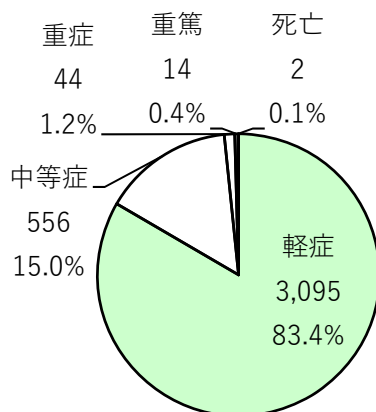
図表 2-4-38 加害の搬送人員推移



(2) 初診時程度

加害の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が 83.4% を占めています。

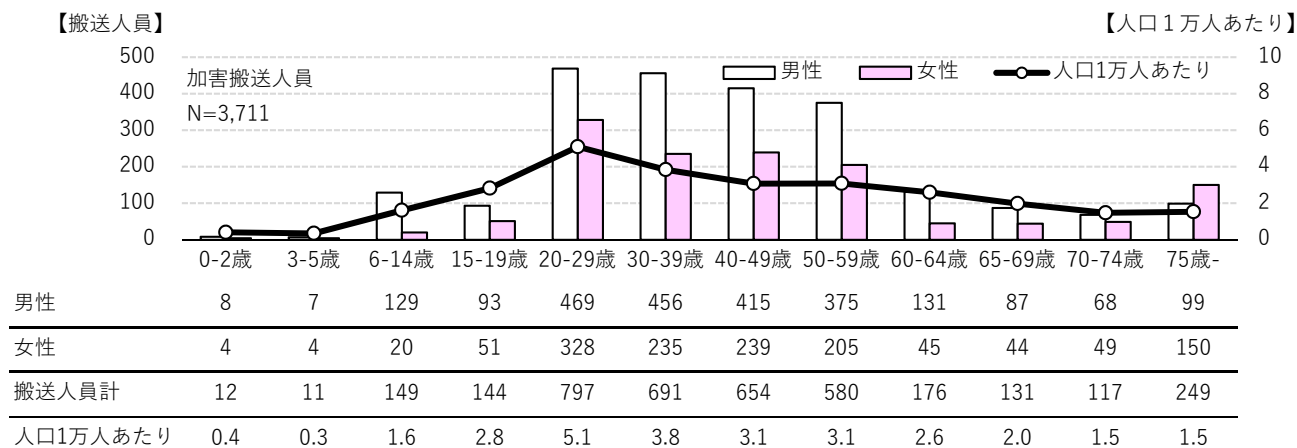
図表 2-4-39 加害の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

加害の搬送人員を年齢層別で見ると、20 歳代から 50 歳代の男性が高い割合を占めています。

図表 2-4-40 加害の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

加害の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「殴打・蹴られ」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-41 加害の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	1	3	2	1	-	-	-	7
	転倒	2	1	4	8	21	17	26	49	19	6	18	205
	転落・滑落	-	-	-	1	12	4	5	7	3	-	2	38
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	-	1	3	4	2	2	-	1	-	14
	轢かれ・踏まれ	-	-	1	-	2	2	3	3	1	-	-	12
	衝突・ぶつかり	1	3	17	6	55	46	49	54	9	19	11	295
	殴打・蹴られ	7	3	97	105	570	480	424	358	96	83	62	2,410
	ひきずられ・引っ張られ	1	1	3	-	24	26	22	14	3	3	2	103
	噛まれ・引っ掻き	-	-	2	1	6	10	13	13	9	4	3	66
	埋没・圧迫・押しされ	-	2	3	1	21	20	26	30	12	7	6	151
	飛来物・落下物	-	-	8	1	6	7	13	8	1	-	-	47
	その他行動・作用	-	-	4	1	19	16	14	18	9	2	3	91
	不明	-	1	-	2	12	17	12	8	3	2	1	62
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	1	-	5	9	31	26	27	8	10	2	4	134
	鈍器物	-	-	4	2	4	7	1	2	1	-	2	27
	銃器・武器	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	-	2	-	4	1	-	1	1	9
	有毒液体・燃焼物	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2
	電流・感電	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2
	その他危険物	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	3
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	-	2	3	1	4	4	-	-	2	17
	異物 (感覚器官)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
薬物服用・吸入・中毒	その他医薬品	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	日常生活用品	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2
	その他薬物・中毒	-	-	-	2	-	-	3	-	-	-	-	5
その他	-	-	-	1	1	3	1	-	-	-	-	6	

(5) 外傷形態

加害の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「打撲・血腫・挫傷」が73.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-42 加害の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	2,739	73.8%
外傷系その他	343	9.2%
開放創・離断	242	6.5%
骨折	151	4.1%
脱臼・捻挫	85	2.3%
症状・徴候・診断名不明確	71	1.9%
脊椎・髄損傷	13	0.4%
熱傷Ⅱ度以下	13	0.4%
その他	54	1.5%
合計	3,711	100.0%

(6) 発生場所

加害の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が34.6%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-43 加害の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	1,285	34.6%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	1,187	32.0%
警察署・交番	345	9.3%
一般飲食店	222	6.0%
駅	220	5.9%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	58	1.6%
コンビニエンスストア	41	1.1%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	41	1.1%
その他	312	8.4%
合計	3,711	100.0%

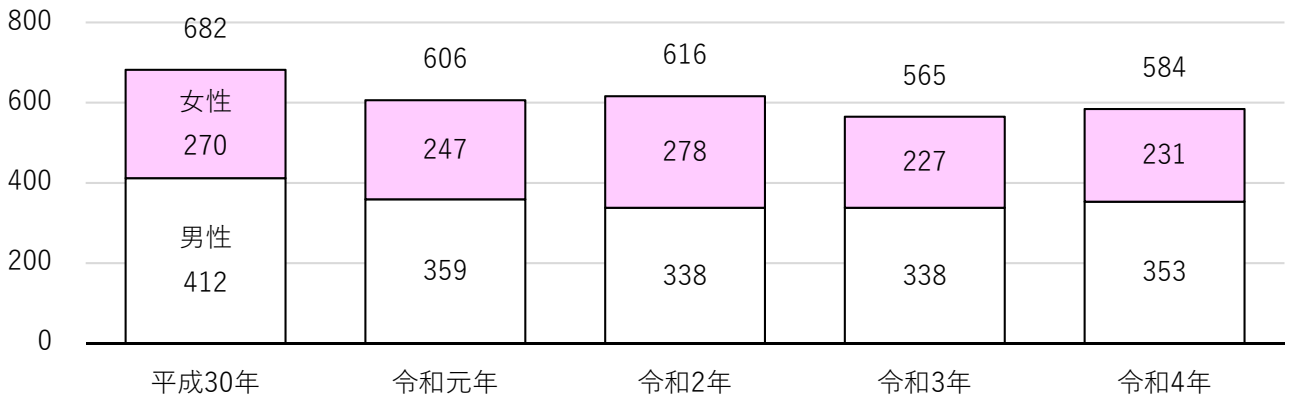
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

9 火災事故

(1) 搬送人員推移

火災事故（消火活動、救助活動、避難行動中などに受傷した事故や、火災の発生が原因となった事故）の搬送人員は584人で、前年に比べ19人（3.4%）増加しています

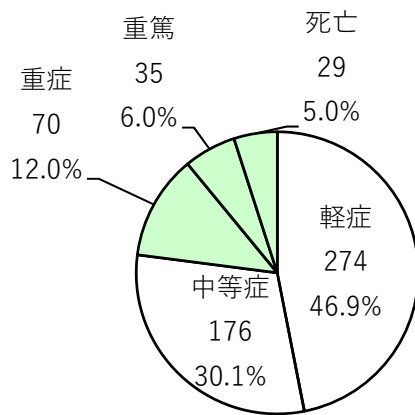
図表 2-4-44 火災事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

火災事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が22.9%を占めています。

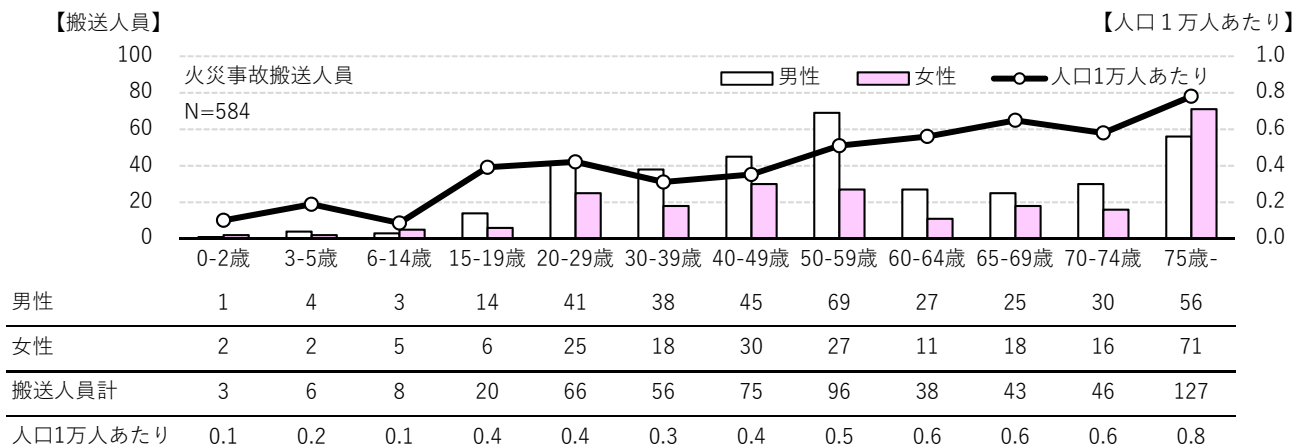
図表 2-4-45 火災事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

火災事故の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の21.7%の割合を占めています。

図表 2-4-46 火災事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

火災事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「高熱気体・燃焼物」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-47 火災事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	1	4
	転倒	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	1	3	8
	転落・滑落	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
	墜落・飛び降り	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2	-	-	4
	衝突・ぶつかり	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-	-	1	5
	飛来物・落下物	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	その他行動・作用	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	1	4
	不明	-	-	1	-	3	1	2	9	5	-	7	16	44
危険物接触作用 ・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	3
	爆発・破裂物	-	-	-	3	4	5	5	4	2	1	-	1	25
	高熱固体・燃焼物	-	-	1	1	8	5	10	8	6	9	3	22	73
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	2	5	6	4	8	1	7	1	6	40
	高熱気体・燃焼物	1	3	2	7	30	24	37	46	22	23	23	60	278
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	有毒気体・燃焼物	1	-	1	3	8	6	8	8	1	1	4	8	49
	電流・感電	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
その他危険物	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	1	4	
窒息・誤飲・異物	窒息・誤飲 (気道)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	異物 (感覚器官)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	その他窒息・異物	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
薬物服用 ・吸入・中毒	日常生活用品	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2
	その他薬物・中毒	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	4
自然環境作用	高温環境	-	-	1	2	-	1	2	1	-	-	1	1	9
その他		-	-	1	-	2	4	-	3	-	-	2	4	16

(5) 外傷形態

火災事故の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「熱傷Ⅱ度以下」が57.5%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-48 火災事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
熱傷Ⅱ度以下	336	57.5%
外傷系その他	71	12.2%
熱傷Ⅲ度以上	51	8.7%
症状・徴候・診断名不明確	50	8.6%
中毒	33	5.7%
打撲・血腫・挫傷	18	3.1%
呼吸器系疾患	5	0.9%
脱臼・捻挫	4	0.7%
その他	16	2.7%
合計	584	100.0%

(6) 発生場所

火災事故の搬送人員を発生場所別でみると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が72.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-49 火災事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	425	72.8%
一般飲食店	47	8.0%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	43	7.4%
工場・製造所・作業場	20	3.4%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	9	1.5%
会社・オフィス	7	1.2%
一般小売・販売店	4	0.7%
高速道路・自動車専用道路	3	0.5%
その他	26	4.5%
合計	584	100.0%

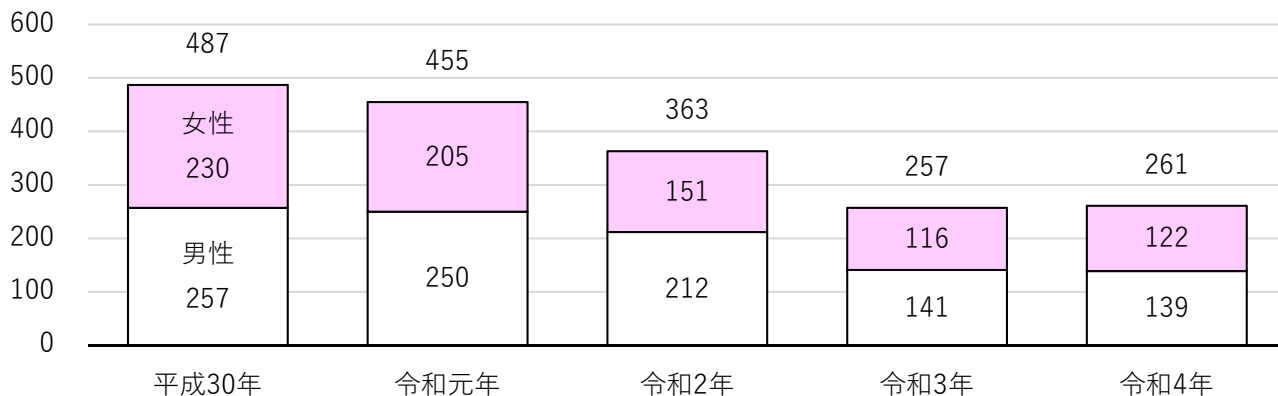
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

10 水難事故

(1) 搬送人員推移

水難事故（海、河川・池、プールなどで水泳中に溺れたり、水中に転落して発生した溺水事故）の搬送人員は261人で、前年に比べ4人（1.6%）増加しています。

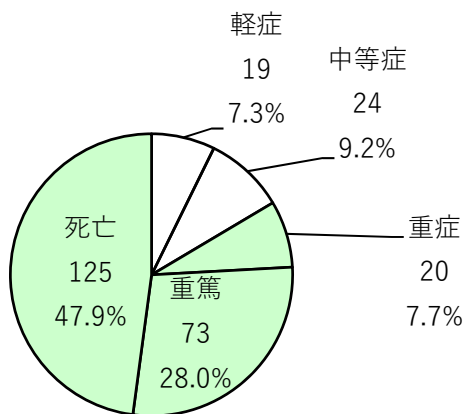
図表 2-4-50 水難事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

水難事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が83.5%を占めています。

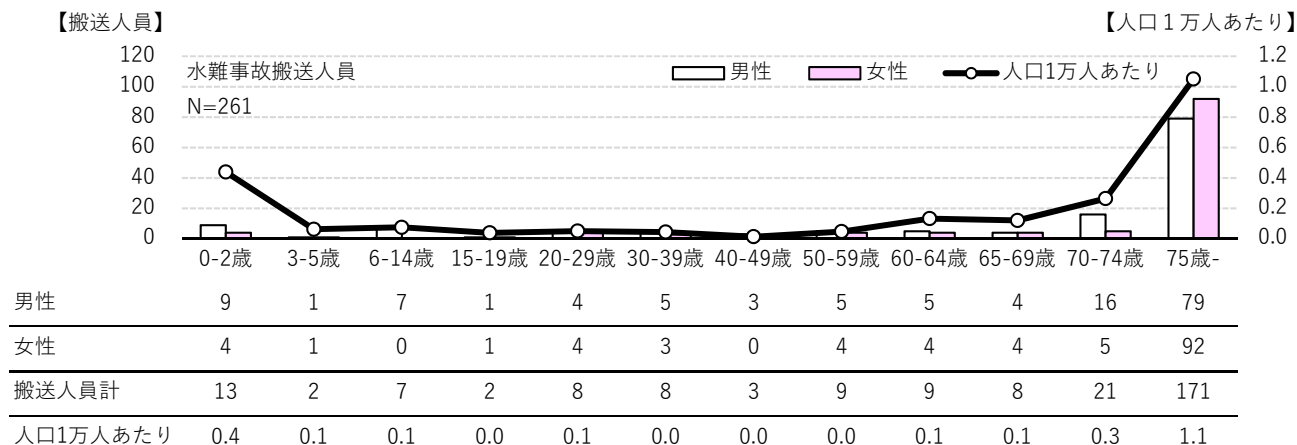
図表 2-4-51 水難事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

水難事故の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の65.5%の割合を占めています。

図表 2-4-52 水難事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

水難事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「溺水・入水」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-53 水難事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	転落・滑落	-	-	-	-	2	1	-	-	1	1	1	-	6
	墜落・飛び降り	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	不明	1	-	-	-	-	1	-	3	4	-	4	10	23
窒息・誤飲・異物	窒息・誤飲 (気道)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	溺水・入水	12	2	6	2	6	5	3	6	4	7	16	156	225
自然環境作用	低温環境	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
その他		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

(5) 外傷形態

水難事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「症状・徴候・診断名不明確」が 48.7% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-54 水難事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	127	48.7%
外傷系その他	76	29.1%
窒息・異物誤飲	24	9.2%
心・循環器疾患	16	6.1%
その他の疾患系	7	2.7%
呼吸器系疾患	4	1.5%
打撲・血腫・挫傷	3	1.1%
精神系疾患	1	0.4%
その他	3	1.1%
合計	261	100.0%

(6) 発生場所

水難事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が 66.3%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-55 水難事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	173	66.3%
河川・水路	53	20.3%
サウナ・銭湯（単独施設）	10	3.8%
海	5	1.9%
健康ランド・スーパー銭湯	5	1.9%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	4	1.5%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	4	1.5%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	2	0.8%
その他	5	1.9%
合計	261	100.0%

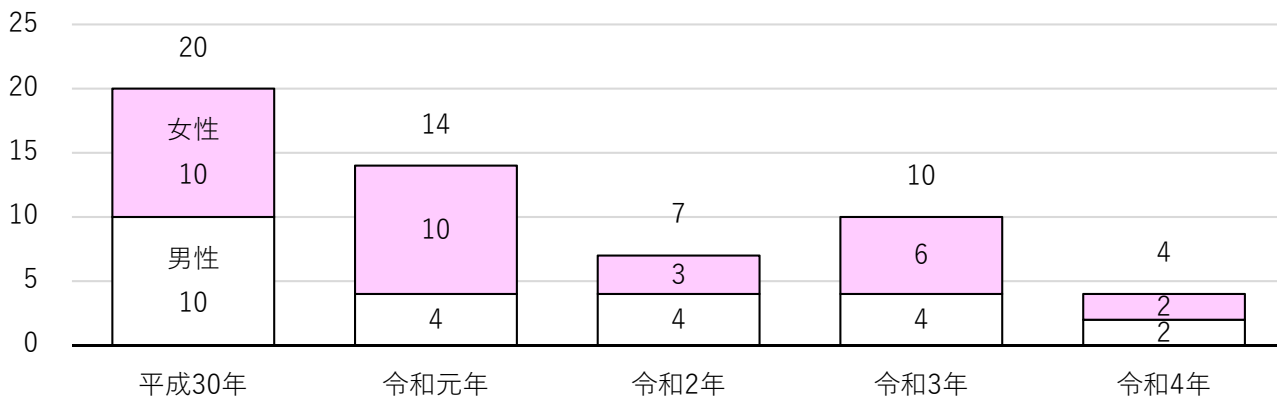
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

11 自然災害事故

(1) 搬送人員推移

自然災害事故(自然現象に起因する災害による事故)の搬送人員は4人で、前年に比べ6人(60.0%)減少しています。

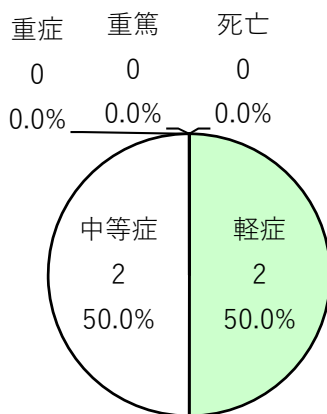
図表 2-4-56 自然災害事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

自然災害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が50.0%を占めています。

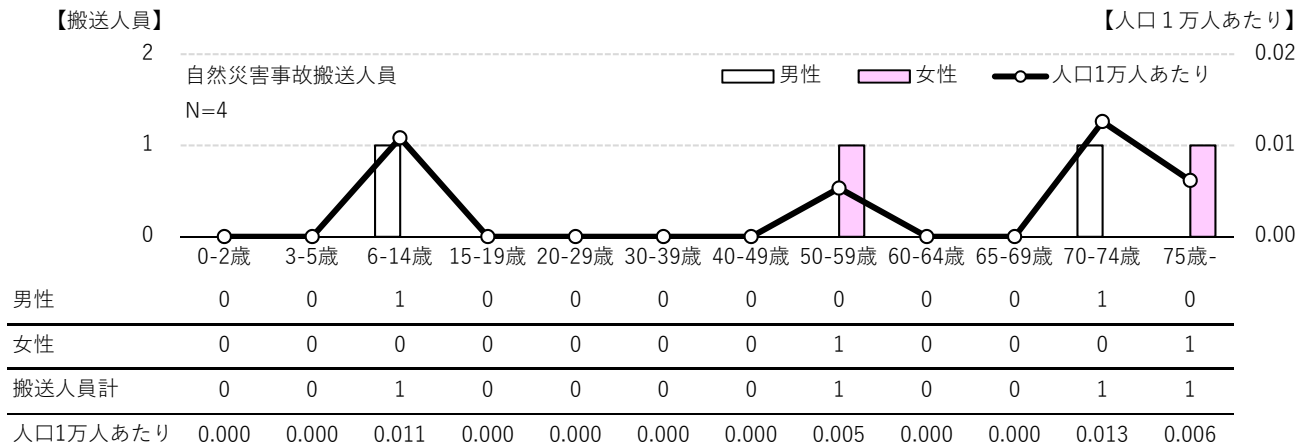
図表 2-4-57 自然災害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

自然災害事故の搬送人員を人口に対する比率で見ると、70歳から74歳が最も高くなっています。

図表 2-4-58 自然災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

自然災害事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-59 自然災害事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層（歳）											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	転倒	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2
	衝突・ぶつかり	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
自然環境作用	低温環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1

(5) 外傷形態

自然災害事故の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が 50.0% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-60 自然災害事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	2	50.0%
外傷系その他	1	25.0%
骨折	1	25.0%
合計	4	100.0%

(6) 発生場所

自然災害事故の搬送人員を発生場所別でみると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が 50.0% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-61 自然災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	2	50.0%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	1	25.0%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	1	25.0%
合計	4	100.0%

※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

12 転院搬送・転送

(1) 「転院搬送」と「転送」の違い

「転院搬送」とは、医療機関からの要請に応じて、当該医療機関の管理下にある傷病者（外来受診又は入院中の患者等）を、医療上の理由により他の医療機関へ搬送するために救急隊が出場するものです。

「転送」とは、救急隊が傷病者を医療機関に搬送し、一旦医師に引継いだ後、当該救急隊が医療機関を引き上げる前に、当該医療機関の事情等により、引き続き同一救急隊により他の医療機関に搬送するものです。転送の場合、事故種別はその救急事故の主たる事故種別（急病等）に区分し、統計上は出場件数1件、搬送人員1名として処理します。

(2) 搬送人員

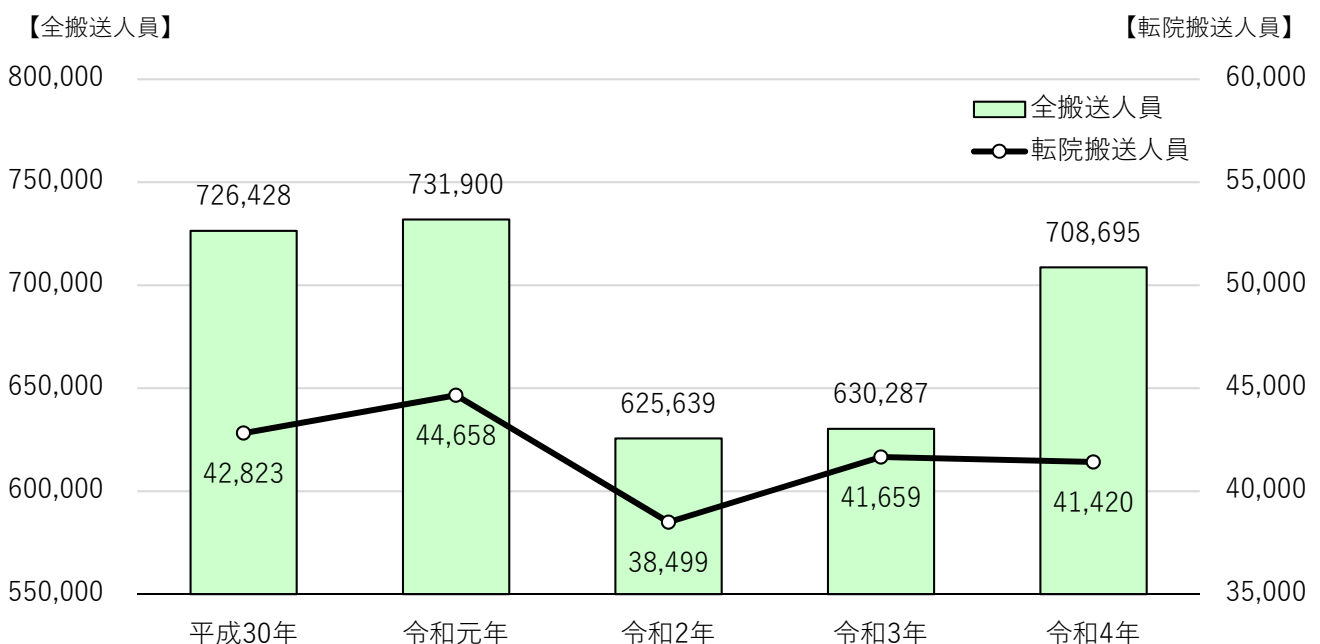
ア 転院搬送推移

転院搬送人員数は、全搬送人員に対して約6%の比率を推移しています。

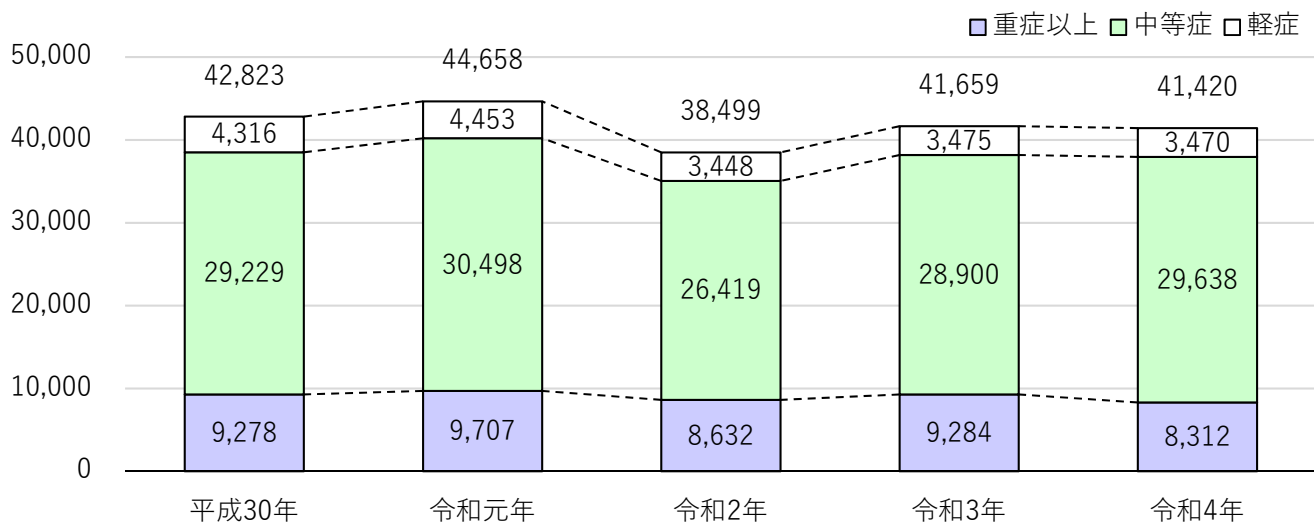
図表 2-4-62 転院搬送人員の対前年比・性別・初診時程度別推移

		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全搬送人員		726,428	731,900	625,639	630,287	708,695
転院搬送人員		42,823	44,658	38,499	41,659	41,420
全搬送人員に対する比率		5.9%	6.1%	6.2%	6.6%	5.8%
対前年比		- 1,375 - 3.1%	+ 1,835 + 4.3%	- 6,159 - 13.8%	+ 3,160 + 8.2%	- 239 - 0.6%
性別	男性	22,699	23,766	20,734	22,496	22,146
	女性	20,124	20,892	17,765	19,163	19,274
初診時程度構成比 (%)	重症以上	9,278	9,707	8,632	9,284	8,312
		21.7%	21.7%	22.4%	22.3%	20.1%
	中等症	29,229	30,498	26,419	28,900	29,638
		68.3%	68.3%	68.6%	69.4%	71.6%
軽症	4,316	4,453	3,448	3,475	3,470	
		10.1%	10.0%	9.0%	8.3%	8.4%

図表 2-4-63 全搬送人員と転院搬送人員の推移



図表 2-4-64 転院搬送の初診時程度別推移



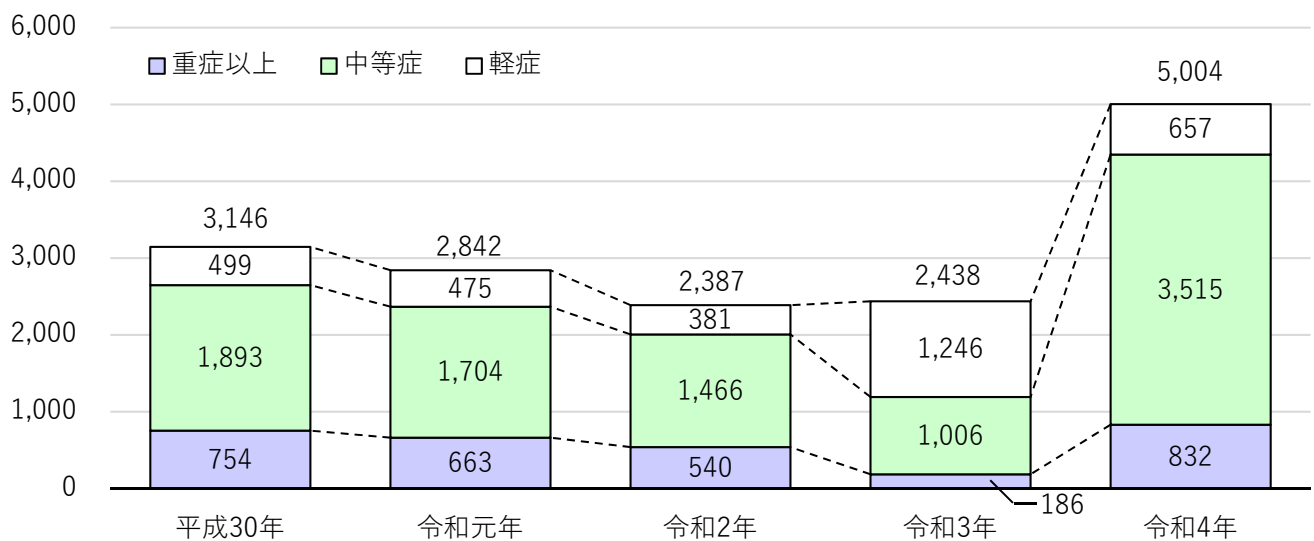
イ 転送推移

転送事案は全搬送人員に対して1%未満の比率を推移しています。

図表 2-4-65 転送人員の対前年比・転送回数・初診時程度別推移

		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全搬送人員		726,428	731,900	625,639	630,287	708,695
全転送人員		3,146	2,842	2,387	2,438	5,004
全搬送人員に対する比率		0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.7%
対前年比		- 128 - 3.9%	- 304 - 9.7%	- 455 - 16.0%	+ 51 + 2.1%	+ 2,566 + 105.3%
転送回数	1回	3,134	2,826	2,382	2,432	4,975
	2回	12	16	5	6	28
	3回以上	-	-	-	-	1
初診時程度構成比(%)	重症以上	754	663	540	186	832
		24.0%	23.3%	22.6%	7.6%	16.6%
	中等症	1,893	1,704	1,466	1,006	3,515
		60.2%	60.0%	61.4%	41.3%	70.2%
軽症	499	475	381	1,246	657	
	15.9%	16.7%	16.0%	51.1%	13.1%	

図表 2-4-66 転送人員の初診時程度別推移



(3) 転院搬送及び転送の理由

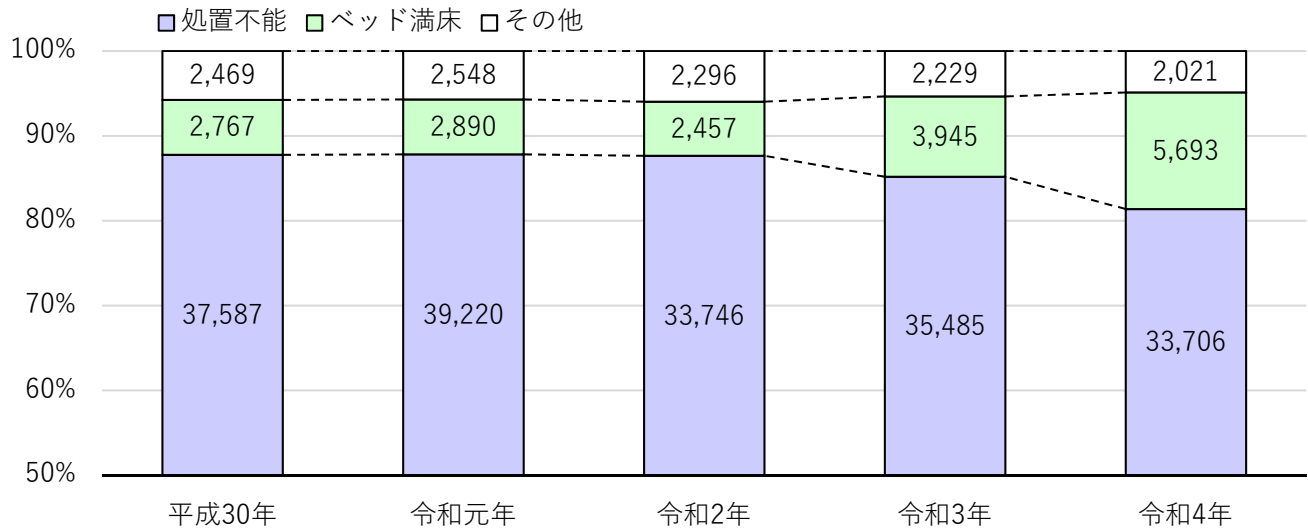
ア 転院搬送

転院搬送要請の理由のうち「処置不能」によるものが毎年8割以上を占めています。

図表 2-4-67 主な転院搬送要請理由別の搬送人員及び対前年比

	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	
全転院搬送人員	42,823	-3.1%	44,658	+4.3%	38,499	-13.8%	41,659	+8.2%	41,420	-0.6%	
ベッド満床	搬送人員	2,767	-14.4%	2,890	+4.4%	2,457	-15.0%	3,945	+60.6%	5,693	+44.3%
	構成比	6.5%	-0.8%	6.5%	±0.0%	6.4%	-0.1%	9.5%	+3.1%	13.7%	+4.3%
処置不能	搬送人員	37,587	-1.0%	39,220	+4.3%	33,746	-14.0%	35,485	+5.2%	33,706	-5.0%
	構成比	87.8%	+1.9%	87.8%	+0.1%	87.7%	-0.1%	85.2%	-2.5%	81.4%	-3.8%
その他	搬送人員	2,469	-17.3%	2,548	+3.2%	2,296	-9.9%	2,229	-2.9%	2,021	-9.3%
	構成比	5.8%	-1.0%	5.7%	-0.1%	6.0%	-0.3%	5.4%	-0.6%	4.9%	-0.5%

図表 2-4-68 主な転院搬送要請理由別搬送人員の推移



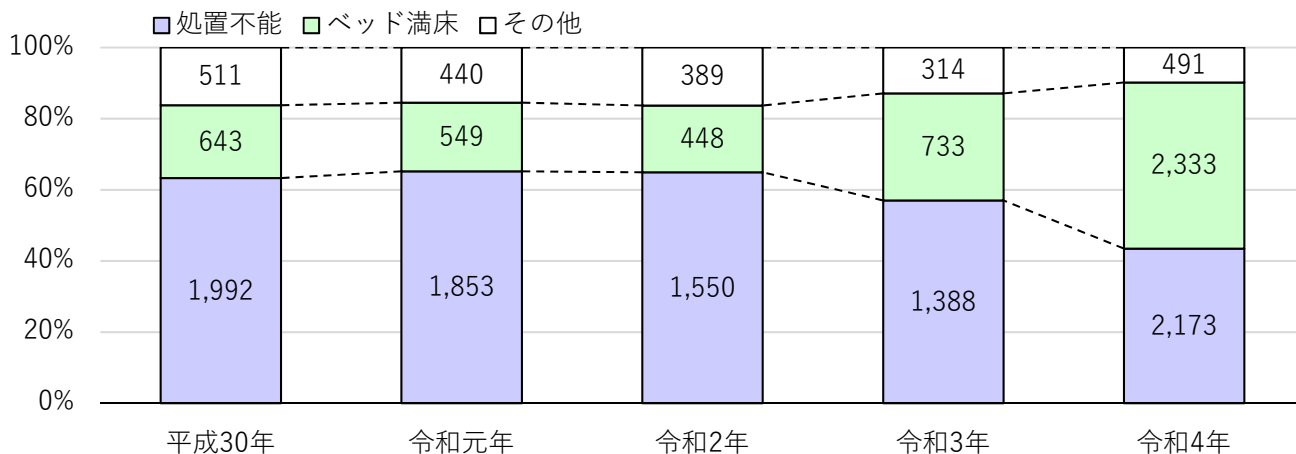
イ 転送

転送の理由のうち「処置不能」によるものが毎年4割以上を占めています。

図表 2-4-69 主な転送理由別の転送回数及び対前年比の推移

	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	
全転送回数	3,146	-3.9%	2,842	-9.7%	2,387	-16.0%	2,435	+2.0%	4,997	+105.2%	
処置不能	転送回数	1,992	-4.4%	1,853	-7.0%	1,550	-16.4%	1,388	-10.5%	2,173	+56.6%
	構成比	63.3%	-0.3%	65.2%	+1.9%	65.0%	-0.2%	57.0%	-8.0%	43.5%	-13.5%
ベッド満床	転送回数	643	-0.9%	549	-14.6%	448	-18.4%	733	+63.6%	2,333	+218.3%
	構成比	20.4%	+0.6%	19.3%	-1.1%	18.8%	-0.5%	30.1%	+11.3%	46.7%	+16.6%
医療機関個別事情	転送回数	39	-9.3%	29	-25.6%	40	+37.9%	26	-35.0%	116	+346.2%
	構成比	1.2%	-0.1%	1.0%	-0.2%	1.7%	+0.7%	1.1%	-0.6%	2.3%	+1.3%
医師他院搬送指示	転送回数	425	-6.2%	378	-11.1%	315	-16.7%	260	-17.5%	312	+20.0%
	構成比	13.5%	-0.3%	13.3%	-0.2%	13.2%	-0.1%	10.7%	-2.5%	6.2%	-4.4%
傷病者個別事情	転送回数	37	+32.1%	21	-43.2%	23	+9.5%	18	-21.7%	23	+27.8%
	構成比	1.2%	+0.3%	0.7%	-0.4%	1.0%	+0.3%	0.7%	-0.3%	0.5%	-0.3%
その他	転送回数	10	-44.4%	12	+20.0%	11	-8.3%	10	-9.1%	40	+300.0%
	構成比	0.3%	-0.2%	0.4%	+0.1%	0.5%	+0.1%	0.4%	-0.1%	0.8%	+0.4%

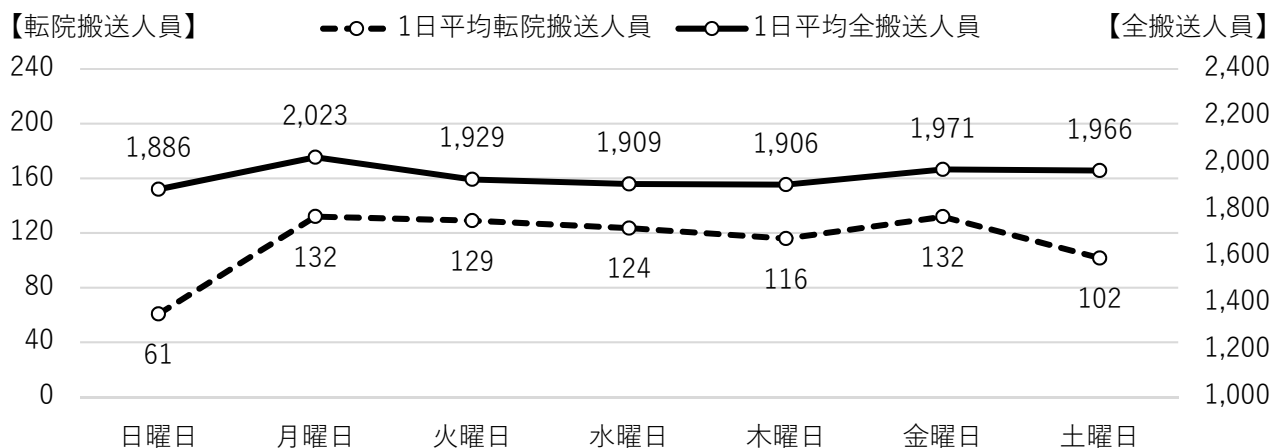
図表 2-4-70 主な転送理由別搬送人員の推移



(4) 曜日別

転院搬送は土曜日、日曜日に要請が少ない傾向となっており、特に日曜日は平日の5割程度となっています。

図表 2-4-71 曜日別1日平均転院搬送人員

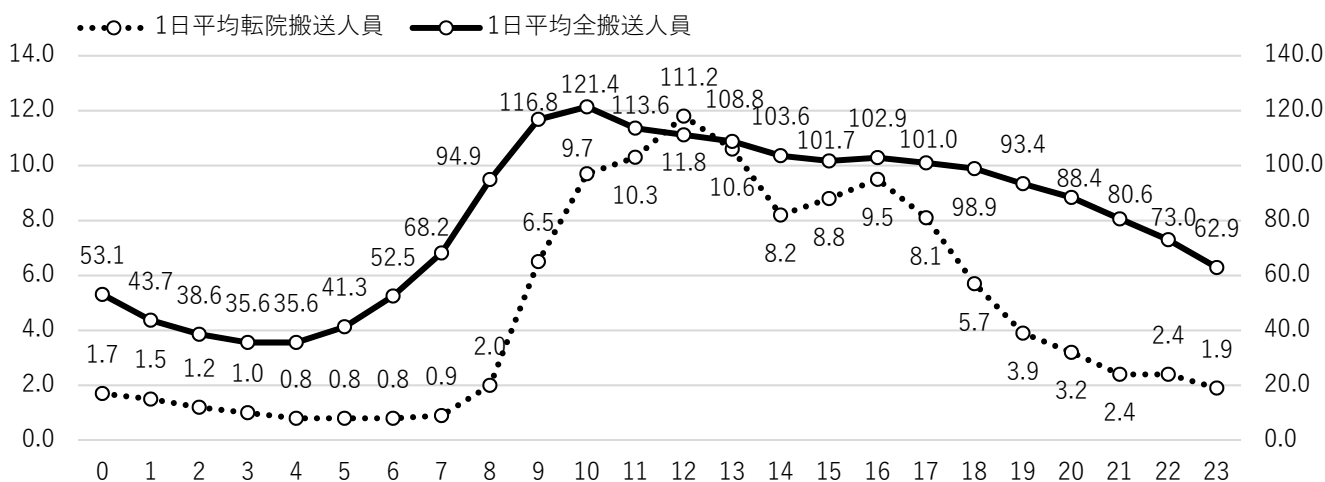


(5) 時間帯別

ア 総数

転院搬送は、12時をピークとして、医療機関の通常の診療時間帯に搬送人員が多いことがわかります。

図表 2-4-72 時間帯別1日平均転院搬送人員

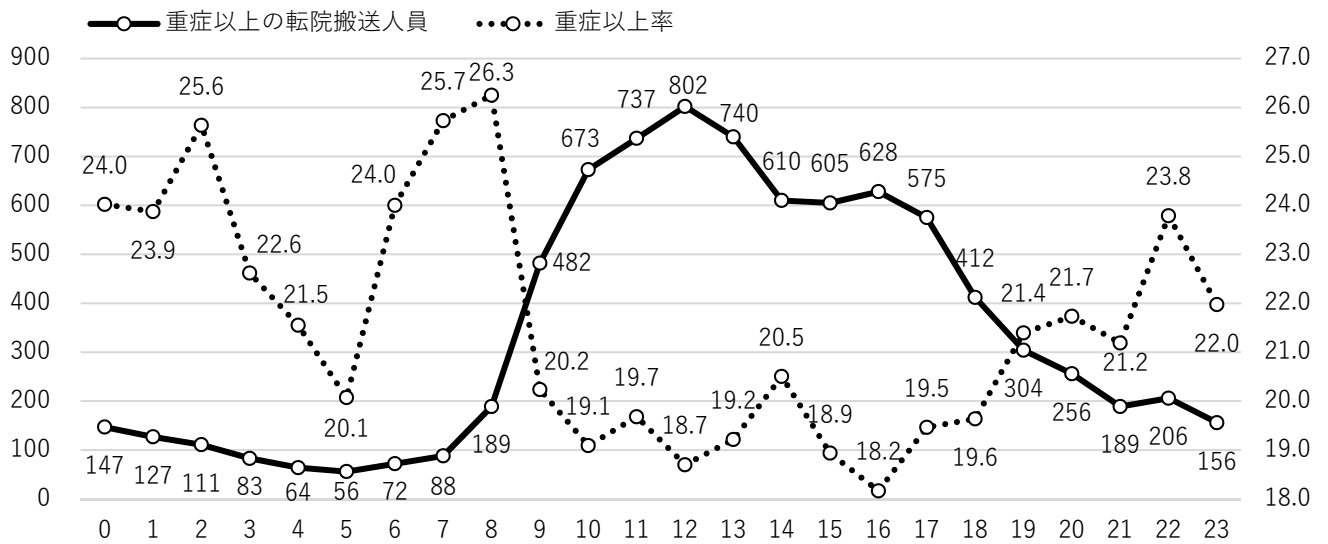


イ 時間帯別、初診時程度別の比率

各時間帯の搬送人員を初診時程度別の構成比で見ると、重症以上の傷病者の比率は、夜遅くに割合が多くなっていることが伺えます。

これは、全体的に転院搬送は医療機関の通常の診療時間帯に行われているのに対して、重症以上の傷病者は、緊急的な医療上の理由等により、時間帯を問わず転院搬送されていることを示唆していると言えます。

図表 2-4-73 時間帯別転院搬送人員の重症比率

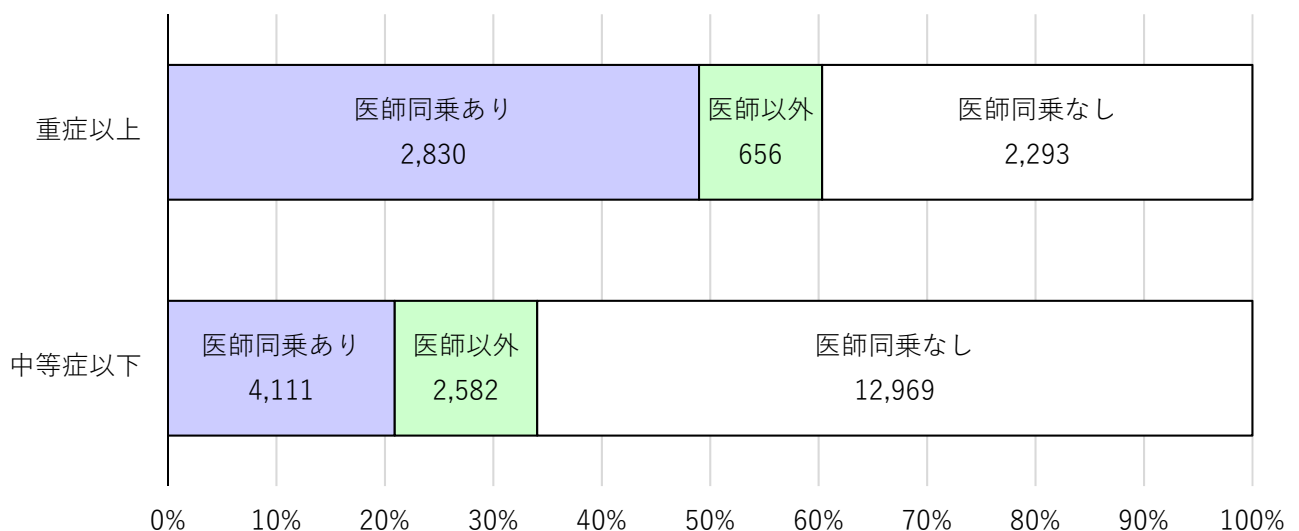


(6) 同乗者等（医師等）

東京消防庁救急業務等に関する規程第 43 条第 2 項において、「転院搬送を行う場合は、当該医療機関の医師を同乗させるものとする。ただし、医師が同乗による病状管理の必要がないと認め、かつ、搬送途上における相当な措置を講じた場合は、この限りではない。」としています。

病状管理が必要となる目安として、傷病者の初診時程度が重症以上及び中等症以下の場合にデータを区分し、医師の同乗比率を分析した結果は次のとおりで、重症以上の 5 割弱に医師が同乗していることがわかります。

図表 2-4-74 転院搬送の医師等同乗比率



13 医師搬送・資器材等輸送

(1) 統計上の処理

ア 医師搬送

医師搬送とは、救急現場において傷病者に医師による医療行為が必要となった場合等に、救急隊により医師を救急現場に搬送することを指します。

イ 資器材等輸送

資器材等輸送とは、医薬品、医療用資器材、救急資器材等を救急隊により医療機関等に搬送することを指します。

資器材等の他に傷病者を搬送している場合は、資器材輸送には該当せず、当該傷病者の救急事故に応じた事故種別の出場件数、救護人員等に計上されます。

また、助産所からの要請により、保育器と同時に周産期医療施設等の医師を搬送する場合は、資器材等輸送（保育器）に計上しています。

(2) 推移

平成30年から令和4年の医師搬送・救急資器材等輸送件数は次のとおりです。

図表 2-4-75 医師搬送・資器材等輸送件数の推移

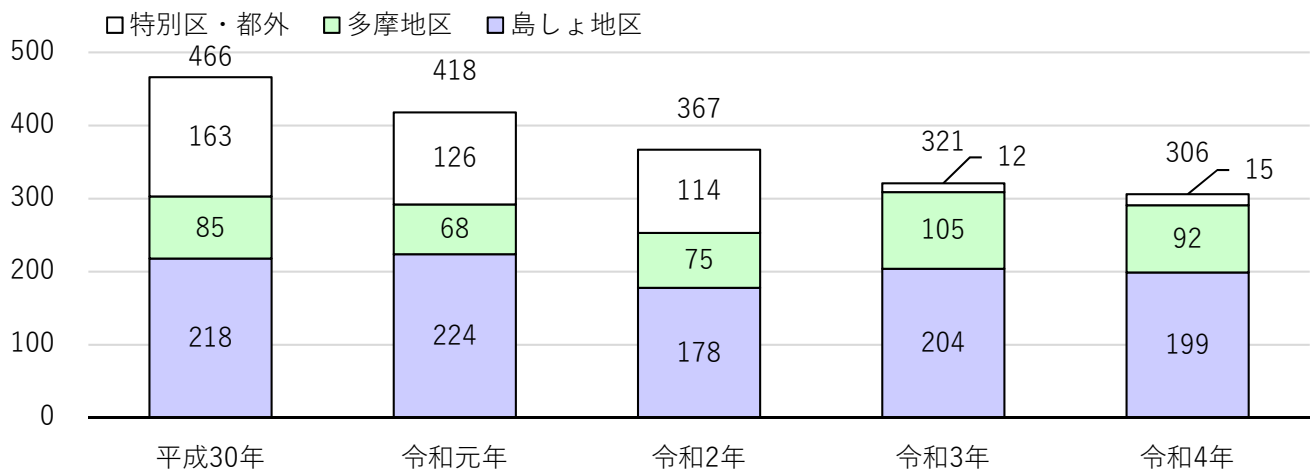
	医師搬送	資器材等輸送							
		資器材計	保育器	救急隊員	切断肢	臓器	医療機器	医薬品等	その他
平成30年	210	546	495	36	-	10	1	1	3
令和元年	211	556	501	38	2	10	-	-	5
令和2年	160	770	680	78	1	4	2	-	5
令和3年	189	856	780	64	-	1	6	-	5
令和4年	181	969	862	88	3	9	2	-	5

14 回転翼航空機による救急活動

回転翼航空機による救急出場件数及び初診時程度別搬送人員の推移は次のとおりです。初診時程度別では重症以上が約54.6%を占めています。

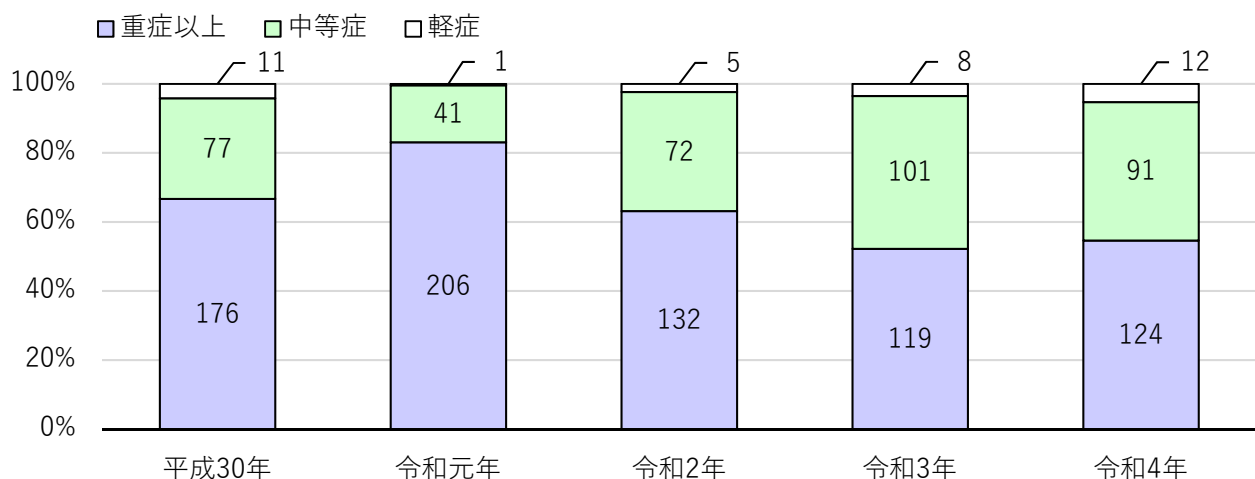
図表 2-4-76 回転翼航空機の救急出場件数の推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
島しょ地区	218	224	178	204	199
多摩地区	85	68	75	105	92
特別区・都外	163	126	114	12	15
合計	466	418	367	321	306



図表 2-4-77 回転翼航空機の初診時程度別搬送人員の推移

初診時程度	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
軽症	11	1	5	8	12
中等症	77	41	72	101	91
重症	144	124	98	93	87
重篤	30	75	26	19	31
死亡	2	7	8	7	6
合計	264	248	209	228	227
最終的に病院へ搬送した人員	100	86	84	91	81



15 【トピックス】新型コロナウイルス感染症陽性者への対応

新型コロナウイルス感染症陽性者から119番通報があった場合等に対応した傷病者数等については次のとおりです。

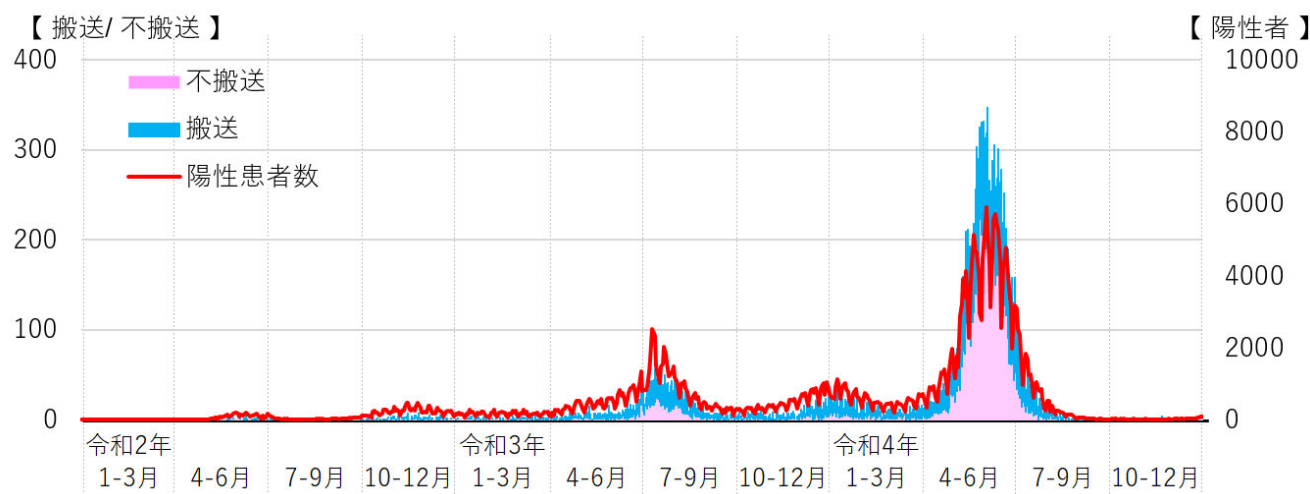
(1) 月別新型コロナウイルス感染症傷病者数（搬送・不搬送内訳）

令和2年から令和4年における月別傷病者数の搬送・不搬送の内訳は次のとおりです。令和2年6月、令和3年8月、令和4年7月において不搬送が搬送を上回りました。

※ 不搬送とは、救急隊が現場に到着後、保健所判断で自宅療養継続となったもの等。

図表 2-4-78 新型コロナウイルス感染症都内新規陽性者数及び傷病者数（月別、搬送・不搬送内訳）

	令和2年				令和3年				令和4年			
	陽性者※	搬送	不搬送	総計	陽性者※	搬送	不搬送	総計	陽性者※	搬送	不搬送	総計
1月	3	-	-	-	40,367	731	405	1,136	194,563	1,157	623	1,780
2月	34	-	-	-	10,997	206	45	251	416,171	2,473	1,426	3,899
3月	489	2	-	2	9,310	156	23	179	256,738	1,009	574	1,583
4月	3,748	27	16	43	18,075	287	55	342	188,021	668	418	1,086
5月	957	13	-	13	21,871	527	107	634	101,664	424	245	669
6月	994	1	2	3	12,977	267	53	320	58,556	308	173	481
7月	6,464	38	12	50	44,448	1,006	635	1,641	567,728	2,206	2,431	4,637
8月	8,125	67	18	85	129,193	3,398	4,366	7,764	757,621	2,734	2,473	5,207
9月	4,918	29	13	42	31,929	818	273	1,091	244,023	922	585	1,507
10月	5,350	61	9	70	2,134	44	6	50	100,143	535	275	810
11月	9,861	117	24	141	542	17	-	17	257,031	1,402	851	2,253
12月	19,369	271	69	340	905	20	4	24	462,603	2,416	1,598	4,014
合計	60,312	626	163	789	322,748	7,477	5,972	13,449	3,604,862	16,254	11,672	27,926



※ 陽性者は、新型コロナウイルス感染症陽性者を表し、公表日を基準に算出しています。

※ 陽性者の各数値は「東京都_新型コロナウイルス陽性患者発表詳細」（東京都福祉保健局発表）を引用しています。

※ 搬送者数及び不搬送者数は、令和2年3月28日以降の数値を計上しています。

(2) 新型コロナウイルス感染症陽性者の程度別搬送人員

令和2年から令和4年の新型コロナウイルス感染症陽性者の程度別搬送人員は次のとおりです。

図表 2-4-79 新型コロナウイルス感染症搬送人員（程度別）

	令和2年	令和3年	令和4年
重症以上	210	1,774	1,614
中等症	361	4,942	9,927
軽症	55	761	4,713
合計	626	7,477	16,254

(3) 新型コロナウイルス感染症搬送人員（年齢層別、性別）

令和2年から令和4年の年齢層別、性別搬送人員は次のとおりです。

図表 2-4-80 新型コロナウイルス感染症搬送人員（年齢層別、性別）

	令和2年			令和3年			令和4年		
	男性	女性	総計	男性	女性	総計	男性	女性	総計
0-2歳	3	-	3	21	14	35	383	298	681
3-5歳	-	1	1	10	4	14	222	144	366
6-14歳	-	-	-	14	14	28	388	241	629
15-19歳	1	-	1	22	38	60	111	127	238
20-29歳	19	17	36	314	226	540	434	627	1,061
30-39歳	26	19	45	670	286	956	433	650	1,083
40-49歳	49	14	63	1,117	330	1,447	464	467	931
50-59歳	76	23	99	1,327	493	1,820	623	471	1,094
60-64歳	33	12	45	445	156	601	312	181	493
65-69歳	42	9	51	245	88	333	387	179	566
70-74歳	49	14	63	296	121	417	702	367	1,069
75歳以上	119	100	219	581	645	1,226	3,869	4,174	8,043
高齢者計	210	123	333	1,122	854	1,976	4,958	4,720	9,678
合計	417	209	626	5,062	2,415	7,477	8,328	7,926	16,254